

●ともに歩く女たちの雑誌

逐次刊行物

昭和 58. 2. 16 和

国立婦人教育会館
情報図書室

わいふ
NO.180.

Wife



〈特集〉 父親はほんとうに必要なか

〈座談会〉 昭和一ケタをおやじに持てば

父親は平和の中で生きられるか——伊藤友宣

アンケート

現代女性の性と結婚

●新連載・近代恋愛婚姻史——宮城道子

株 金子書房 〒112 東京都文京区大塚3-3-7
☎03-941-0111

好評発売中!!

性差の文化・比較論の試み

青木やよび著 四六判・定価一、六〇〇円

いま、男と女の共生の途を求めて!!

男らしさ、女らしさの根拠は何か?

それは男と女の生き方に、どう現われるのか?

いま、男女間に「対」の思想を求めて、文明的・

文化人類学的視点にまで踏み込んだ異色の性差論

■現代社会に生きる人間の問題を、男性と女性とい

う視点から探った好書。日常生活の様々な局面を

切り口に、性差の現実に肉薄!!(『北海道新聞』評)

■能率万端の現代社会では、女性であることはマイ

ナス記号でしかない。未開社会をその鏡とし、女

らしさとは何かを問い直す。(『読売新聞』評)

■今必要なのは人間らしい生き方と女らしい生き方

を統合すること、そして本来のやさしさや感性を

自らの手に取り戻すこと、とする男女間の新しい

「対」の思想を展開。(『望星』評)

*性差別とは結びつかない新しい性役割の確立(『毎日新聞』)、
両性の解放を目指す方向は何かを探った(『時代』)、「ジェン

ダー」概念を提出(『朝日ジャーナル』)、*「性差」の再評価を企

てる(『朝日新報』)………と各紙誌で絶賛!!



株式会社 ミネルヴァ書房

〒604 京都市中京区堺町通南橋通
☎(075)241-2340 販売部 ☎2-8076

老人ホームにひらく
人間の哀歌を見事に描く

風灯下

老いと共に
二十年

阿部初枝著(シルバー・フレンド③)

特別養護老人ホームで老人看護に取り組むこと二十年。ホームに繰りひろげられる人間群像を日常生活・ボケ・セックス・死などを通して見事に描き、そこに住む人々の切実な訴えを伝える現場からの異色作。文学賞を数多く受賞した女性作家としての感受性と、特養ホーム「朝霧の園」主任看護婦としての永い現場体験にもとづき、老いと人間の哀歌をこめてしみじみとつづる。

●四六判上製カバ125頁・一三〇〇円千250

わだつみ独身女性の重いたたかい!

女ひとり生きる

谷 嘉代子編・独身差別の中を生きぬく知恵

戦争で青春を奪われた「わだつみ」の女たちが「売れ残り」といわれ、独身差別のつめたい目に抗して、ひたむきに生きるたたかいと新しいライフスタイル構築の貴重な記録。後につづく戦後独身女性のためのメッセージ。
【目次】Ⅰ 女の碑/Ⅱ 戦争と独身/Ⅲ この道を女ひとり/Ⅳ 女ひとりの生活——その苦々しい差別/V ひとりの生活文化/Ⅵ 老年期にそなえて/Ⅶ 女の碑に眠るといふこと——長尾憲彰氏との対話

●OPP叢書 43 *一、二〇〇円千250

☆内容見本
東京都文京区
大塚 3-4-13

日本図書センター

03(947)9387
振替東京2-8206

近代婦人問題名著選集

続編

全10巻

揃定価 四八〇〇円
監修 中島邦

婦人の職業・犯罪・売春・あるいは行政など、多様な側面から往時の「実態」を明らかにした著書十冊を厳選

婦人職業論

伊賀歌吉／解説中島邦

婦人と犯罪

寺田精一／解説坪内順子

婦人農業問題

稲田昌植／解説野本京子

女教員の真相及其本領

後藤静香／解説新井淑子

売られゆく女

上村行彰／解説西村みはる

新時代の処女会及び其の施設経営

片岡重助／解説千野陽一

婦人自立の道

東京市社会局／解説平野貴子

婦人の観た東京市政

東京市政調査会／解説菊池靖子

女給と売笑婦

草間八十雄／解説安岡憲彦

職業婦人を志す人のために

河崎なつ／解説林光

正編

全10巻

揃定価四八〇〇円
監修 中島邦

日本将来の婦女・改造社会真妝婦／社会主義と婦人・婦人問題／婦人の理想／婦人問題／現代の婦人問題／婦人問題十六講／婦人問題研究／現代婦人の思想とその生活／婦人問題の知識／婦人と児童の問題

青山なを著作集（全四巻）

明治女学校の研究（第二巻）

A5・上製・八六八頁 価九五〇〇円 丁三五〇円

明治女学校という一教育機関の徹底的な研究を通じて、明治の黎明期における女子教育思想・制度・その先導者らの姿を浮き彫りにしている。

安井てつと東京女子大学（第三巻）

A5・上製・四六〇頁 価五〇〇〇円 丁三〇〇円

深い見識と思想をもって安井が女子教育にいかに関心を注いだかを鋭い史観のもとに探る。

源氏物語研究及び古典諸論（第一巻）

五十八年春期刊行 子価五〇〇〇円

小論と随想（第四巻）

五十八年秋季刊行 子価四五〇〇円

白井厚・白井堯子共著

女性解放集 価二二〇〇円
丁三〇〇〇円

付・女性史の文献
男女の役割分業の傾向が著しいわが国の現状を分析しあるべき女性像を小説する。

目録書進呈
東京都港区三田
二ノ一九ノ三〇
慶應通信
Tel (451) 3584

わたしの同棲相手 青木やよひ・北澤方邦…………… 4

写真・文 野村路子

わいふ誌上論争・空閑貞子 VS 和田好子

カラスの勝手か「働く自由・働かぬ自由」…………… 10

特集●父親はほんとうに必要なか…………… 22

投稿 父親は必要ではない! 松本弘子

無表情な父の背後に見えてきたもの 大湖玲以

座談会●昭和一ケタをおやじに持てば…………… 36

出席者 池田 孝・江藤寿美子・高瀬玲子

宮川恵子・山本次郎

父親は「平和」の中で生きられるか 伊藤友宣…………… 48

アンケート 現代女性の性と結婚…………… 56

わいふスクラップ帖 キリヌキ菌保菌者同盟…………… 68

LWIFE NO.180

コミック笑止・笑止しよしよ 栗田 笑……………72

キャディ稼業は雨ニモマケズ 日暮明子……………73

子連れ遊びのガイド 「浅川実験林」のさくら……………89

新連載 第一回

近代恋愛愛婚姻史

文・宮城道子 え・西田淑子

理想的結婚の結果——森有礼・阿常の巻……………94

主婦が事業を始めるとき・グリーンピースの話 片山美奈子……………108

〈読者のページ〉

チャターボックス……………122

●親バカチャンリン●私の視点●エコー●おしゃべり●「わいふ」の誌名について

情報コーナー……………87

サークルだより……………71

書評……………106

投稿規定……………142
投稿募集……………143
編集だより……………144



私の同棲相手つれあひ

青木やよひ・北澤方邦

「いやなことをがまんしながら生きることが、二人とも出来ない性分なんですわね、いやなことがあつたらんとか変えて行こうと思うわけです。自分が変われば相手も変わります。お互いに、いろいろ試行錯誤をくり返して来たら、今の状態になつただけで、自分としてはこれがナチュラルだと思つています」

「はじめから、妻子を養うだけという形の結婚は考えていませんでした。第一ぼくは世話女房というのが苦手なんですわね。それでも、以前の二人は観念的でしたし、生活の場での実践ということでは欠けていたと思います」

「女性・その性の神話」など、女性問題に関する著書でおなじみの青木やよひさんと、信州大学教授、北澤方邦さんは、二人の結婚生



写真・文 野村路子

活について、そんな風に語る。
結婚して二十九年目、来年で三十年になる。子どもはいない。生まなかつたのではなく、生まれなかつたのだという。

戦時中に入った薬専を戦後十九歳で卒業、それから今日まで、二十年にわたる編集者生活も含めて、青木さんが仕事をしなかつた時期はまತ್ತくない。

「仕事が好きというと、家庭はどうでも良いように思われるでしょ？ でも、私はそうは思っていない、家事はまあまあだけど、手芸や編み物は好きでした。それに二人とも子ども好きですから、子どもがいたら、彼は男の子育ての先駆者になつていたかもしれせんし、私は自分で作つたお話を聞かせてやって、



童話作家になっていたか……」

と話す青木さんの横で、北澤さんが紅茶をいれて下さる。なれた手つき、自然な感じである。

「家事は仕事に疲れた時のレジャーみたいなものですよ。料理はもちろん、掃除、洗濯、何でもやります。後片づけなんかぼくの方が才能があるのじゃないかな」

北澤さんは、勤務先の大学のある松本で週のうち三日を過ごしているが、宿舍での一人暮らしも快適だし、東京へ戻っての家庭生活も楽しい、今の状態はベストだと言う。

好きなことをして自由に生きたい、そのための経済的基盤は大切だけど、それ以上の仕事をして、家庭をないがしろにしたり、仕事の質を落としたりはしたくない——それが二人の信念だが、共働きの存在理由の一つがそこにあるはずなのにと、仕事に追われる人に北澤さんは疑問を感じるとか。

二人の生活は、「とっても質素で、とってあげたく」だと言う。ソファはきれいに布をはり変えてあるが戦前の品、ステレオもテーブルも二十年以上使っている。十年來ヨ



ガをやって玄米食を実行しているので肉類はほんの少ししか食べない。

しかし有機農法の野菜はすごくおいしいし、庭でできる季節の野菜を食卓にのせるととても豊かな気分になる。

二人の間では、男、女の仕事という区別がない。大掃除を手ぎわよく進めるのは、細かいところに気のつく北澤さんだし、役所や税務署へ行くのは、事務折衝のうまい青木さん、青木さんが庭を耕して野菜をつくれれば、北澤さんは、それを持って松本へ行く。松本の宿舎の庭のイチヂクを持ち帰れば、青木さんが半日かけてお得意のジャムを作る……

「今の仕事を自分なりに完成させたい、死ぬまで時間との競争と思っている」と語りながら、二人の生活はきわめてマイ・ペース。青木さんが批判する「甘え」もなければ、性差もない。

△自分のうちなる自然らしさを取り戻す……
△そうすると、案外みんなが生きやすい社会
△というのが見えてくるんじゃないだろうか……
△青木さんの考えが、まずこの家庭で実践
△されているようだ。

自立した男と女を
人間らしい生活を
差別のない社会を
育くみ創り出す

新しい家庭科

We
ウ イ

もうお読みにな
りましたか?
ぜひ定期購読を

わたしたちのなかにある、
「家庭科」=男女役割分担の考え方。
それを突き崩すひとつの手掛りとして、
いま、新雑誌「We」が生まれた。

- ◇ 6月号 共に生きる
- ◇ 7月号 新しい家庭科とは
- ◇ 8,9月号 反戦とは、平和とは
- ◇ 10月号 人間の自立とは
- ◇ 11月号 家事労働を問う
- ◇ 12月号 家庭・家族
- ◇ 1月号 男と女の新しいかわりか
- ◇ 2,3月号 暮らしをいとおしむ

年10回発行・A5判・80頁

182 東京都調布市西つじヶ丘2-25-14

年間購読料 5000円 (一部定価 500円・含送料)

ウイ書房 Tel 03(326)1380

編集兼発行人 半田たつ子

振替口座 東京6-59867

●女の自立・平等・連帯のために●

【女子刊】 女子教育 冬号No.14 もんだい

女子教育もんだい編集委員会編

定価880円

特集 平和を求めて

女の戦争体験から

女たちの行動こそがゆく手を照らす

ひき裂かれた世代の戦前・戦後

独身女性の戦後

集団疎開学童ととも

羽仁もと子

近代的女子教育の創始者

母性は守られているのか

(座談会) 私たちにとつての妊娠中絶

草の根民主主義の思想をたずねて

母として教師として

松本員枝さんに聞く

一度と時代に流されたくない

教育の現場から

小学校・身近な生活の中から平等・自立を

小学校・自立のめばえを焦点に

中学校・自立して生きる力

高校・女子教育の立場から教科書を問う

中島 誠

牧原 菊枝

笠原 徳

平敷りつ子

齊藤 道子

柴山恵美子

伍賀 備子

宮本恵美子

大塚 淳子

芦田豊子

風間 益代

秋山 久子

婦人問題双書

女子教育

奥山えみ子・藤井治枝編著

定価一五〇〇円

家庭と女性

藤井治枝編著

定価一三〇〇円

くらしの歳時記

矢島せい子

定価九八〇円

生きる知恵の伝承を

若い世代に語り伝える

労働教育センター

東京都千代田区神田神河台3-12-11
総評会館5F ☎03 253 3362

わいふ

180号

愛すること

考えること

働くこと

育てること

楽しむこと

たたかうこと

それらの

どれかひとつではなく

どれも

大切だと思っている

あなたへ

わいふ誌上論争

カラスの勝手が 働く自由・働かぬ自由

空閑貞子 VS 和田好子

空閑 私が相談室を始めたのは、そもそも私自身が三十五歳すぎてから勉強を始めて、ライターになった人間なんです。それまで十年間専業主婦だったのです。仕事を始めようと思ったときに、いわゆる女性論、主婦も職業を持つべきだとか、女の自立とかいう情報がありましたけれども、それまで主婦だった人がどうしたら仕事を持てるか、その方法を具体的に教えてくれる本はなかったですね。私こういうことしたいんですけど……と、主婦が相談に行ける場所ありませんでした。

そのとき私が考えたのは、今のところ夫の収入で食べるには困らない、でもあと十年経てば、子供も大きくなって教育費がかかる、住宅のローンもあるだろう、そのあと老後の問題もある。夫は地方公務員ですから、得られる収入の見当もついています。私ども本当の庶民ですからね、将来経済的に大変だろうということは分かっているわけです。

「主婦の働きかたはこれでいいのかわ。家事にしろよせをおこさず、余暇の利用という考えでパートで働くのでは自立への道は遠いのでは」

昨年八月毎日新聞に掲載された「わいふ」の田中喜美子の発言をめぐって毎日新聞には賛否両論が押しよせました。「わいふ」の読者にも他人事ではないこの問題、編集部周辺でも一七九号の⊕同盟の反響にも見られるようにさまざまの考え方が渦まいています。

「わいふ」誌上論争は、身近な問題をめぐって、カンカンガクガクの議論を戦わせようという新しい試みですが、まず第一回としてこの問題を取り上げてみました。

登場していただいたのは、フリーライター空閑貞子さん。本業のかたわら主婦のための進路相談所ウイメンズ・チャンス・セクターを主宰、「妻能開発・稼げる主婦への転身法」(実業之日本社)を出版されて活躍中の女性です。対するはわいふ編集部の和田好

子。

バランスよく、無理せず働く中に道が開ける、そういう働き方をしたい人が多いならそれでよいではないか、と主張する空閑さんに、はたしてそれによいのかと疑問を投げかける和田好子。到底一筋ナワでは行かぬ根の深い問題だけに、今回かきりでなく、今後も論争を發展させて行きたいと考えています。

「わいふ誌上論争」は、読者の間から参加者をつのり、さまざまなかえ方をぶつけ合う開かれた言論の場したいと思います。

次回のテーマはまだ決定していませんが、編集部原案としては今回のテーマを中心に座談会を企画してきますので、参加ご希望の方は二月二十日までにご連絡下さい。また、その他ご希望のテーマのある方も同日までにご連絡をどうぞ。

ね。そこで私が働きたいが、今からするのだったら、好きなことでやりたい。結婚前はふつうの事務職で勤めていたが、それは自分にとって好きな仕事とはいえませんでした。

では何が好きかというと、書くことが好きだったので。それまでも新聞に投稿などしますとたいてい入ったのですが、そのうち「お正月のこういう記事を書いてくれ」なんて頼まれるようになりまして、「書く仕事でやっていけるようになるんじゃないかなあ」と思った。

それから校正を習ったり、ジャーナリスト学校など、いわゆるマスコミ学校のハシゴを始めたんですね。それでもこれをやっていて、どういうルートで仕事が見つかるのか、ぜんぜん分からないんですよ。で、悩みに悩みながら自分なりにやってみた。その結果ア、いけるじゃないか……というところまでやれたわけですが、その間の五年間はものすごく辛かったし、回りにで

きるじゃないか、といってくれる人はいないんですよ。変なこと始めた、頭がおかしくなった(笑)とか、夫は「子連れの女が今ごろ何をやるかバカバかしい」

誰も「できるよ」と言ってくれない中で、頑張るのは本当に辛い。この辛さが耐えられないために挫折してしまふ、または見通しがつかないために、スタートしない主婦が大勢いると思うんです。

アメリカのノウハウやハウツウの本などを読んでみますと、成功する人は皆共通のやり方をしてる。まず何をやるかを決め、毎日継続しなさい。才能がないと思うな、あると思いなさい。あるといった人を信じ、ないといった人は信ずるな。(笑)信ずるものは救われるんです。(笑)

主婦でできなかった人というのは、その反対のことをしているんですよ、できないノウハウをやっている。(笑)成功のノウハウは私自身の何とかヤレ

た、という経験とびったり重なるんですね。そんな体験談を婦人雑誌などに書きますと、たくさん相談の電話が掛かって来ました。ああ、同じように悩んでいる人があるんだ、少しでも私に力になれば……ということ、今の相談室を始めたのです。こんなに悩んでいる主婦がいるのですから、誰か「できるわよ、あなたにも」と言っておあげる人がいなきやいけない。考えてあげる人がいてもいい。

状況にあわせて働けばそれでいい

私、主婦の仕事って状況の変化に応じて、やっていけばいいと思うんですよ。相談に見える方に、よくあるんですよ。「子供の手が離れましたから何かしたい」「お子さんおいくつ?」「一歳半です」なんて、やたらアセってるんですね。フルタイムで働くためには若いうちからでなくちゃいけない、なんて考えているのね。でも小さい子を抱えてそれはできない、と思うの。私も

できなかった。そこでむりをしたために、まずいことになってる人、多いでしょう。むりやり働いて、子供が中学生になって、家庭内暴力で悩んでもしょうがないでしょう。子供を生んだからには小さいうちは家に入って、ほおすり寄せていい子に育ててから出る。その間わりをするとても後悔するところが多いと思うのね。

和田　そういうふうには、お若い方の相談にはお答えになるわけですね。

空閑　相談室まで来られる方は少なくほとんどが電話ですけれど。相談にも来られない人が、仕事に出るとすればもっと難しい。ですから「三十歳過ぎで出られるような状況になってからという生活設計はどうですか」とうかがうとほとんどの方には潜在的にそうしたいという思いがあるのです。しかし、三十すぎたら働きたくても仕事はないという情報が蔓延しているせいとか、やたらにあせっているというのが現状のようです。

私たちの若いころには、三十歳以上の女に仕事なんかなかった。今では四十くらいの人にもありますよね。すごいことだと思っんです。そういう状況に合せていけばいいんで、何も今あえてフルタイム、と考えることはないと思います。相談でも問題が本当に出てくるのは子育てが終ったあとの人ですよ。

和田 だんだん存在価値がなくなっ来てますからね。

空閑 ええ。でも、家に入って、子供を生んで育てたことを、後悔してる人って、相談にくる方にかぎれば、あまり、ありませんね。

子供のために——も偏見では

和田 いないとはいえないでしょう。現に私はそう思っているから……。

私は十五のときから志があつて、国文学者になりたかつたのです。それが競争のため進学のを失い、速記者になつていたので、結婚後大学に入

りたいと思ひ、準備し始めたところで妊娠してしまいました。子供を生みましたら物理的にも経済的にも、進学はむりでした。しかし今思うと、ガムシヤラに強行すれば出来たんですよ、それをやはり子供のために家にいてやるべきだという偏見にとらわれて、諦めてしまった。のちのちあの時頑張つておけば人生違つた、とくやしくて、その不機嫌な私と一緒にいる子供も大迷惑だつたと思う。これは自分で判断を誤つたのですから、誰を恨むわけにもいきませんが、したいと思う仕事によつては、強行する必要もあるんじゃないでしょうか。

あなたのしていらっしゃる、フリーライターという仕事なら、まったくおっしゃる通りだと思つてますが、全部の人がライターになれるわけでもないでしょう。若いときからやつて行かないければ伸びられない仕事つてたくさんありますよね。

空閑 でも今ちゃんとやつてらっしゃ

るのだから、よろしいのではないですか。和田 しかし最初の志は果せなかつたわけですよ。そりゃ、一つダメになつたからあとゼロというわけにはいかないから、もちろん出来ることはやつてますけど。あのとき判断を誤つたのは、あなたのおっしゃる、子供を生んだからには家に入って、ほおすりよせて……という偏見にふり回されたからなんですよ。強行していたら、かえつて子供にもよい態度で接することができて、影響もよかつたんじゃないかと思ひますよ。

空閑 「わいふ」には、その種のせいたくさん多いんじゃないんですか。だつてお子さんはちゃんと大きくなられたわけでしょう？ まずそのことに感謝すべきで、できなかつたことをそんな……。それはそれでいいんじゃないでしょうか、人生つてそういうものではないでしょうか。

私も高三のとき父が亡くなり、進学を諦めなければならなかつたのですが、



いろいろな条件の中である道を選んだら、それがよりよくいくように考えたほうがよいのではありませんか。

和田 女にとって子供を生み育てることとは絶対にいいことだ、というのは一つの偏見だと思うんで、子供を生まないで、あるいは小さい子がいても、仕事をすると、という生き方の人もあっていいんじゃないですか。ですから私は若い人にむかって、一方的に子供を生んだら家に入るべきだとはいいたくないですね。若いときに子供を放り出して、頑張ることもあり得るでしょうと言いたい。

空閑 私も一方的に入れなどとは言っていないし、そんなこと言えるわけもない。しかし、相談者はすでに家庭

に入ることを選択した人が多いわけです。その状況で三十五過ぎてから放り出すか、もっとその前がよいのかというところでそれを決めるのも、もちろん自分自身の判断になるでしょう。

和田 自身の判断というけれども、その判断の背景には、その時代の思想とか、世間の圧力とか、いろんなものが含まれているわけですよ。自分自身の思想ははたして何なんだろうかという、検証は必要だと思う。自分がこう思うからそれでいいんだ、じゃなくて自分の考え方の後に、何があるのか、それを考えてみないとね。子供を生むことは喜びである、とか、育てたことを後悔すべきでない、というのも一つの偏見じゃないかな。私もあるとき

れに囚われたんですよ。

空閑 でも、状況がどんどん変わって来たいまだからそれをおっしゃるので、和田さんのお若いころは、そうではなかったんじゃないですか。

破綻をおこさぬ段階的解放論

和田 しかしそのときだって、頑張ってたって他人もいたんですからね。

あなたがおっしゃるのは、段階的解放論というか、女はライフサイクルに合わせてむりせず、家庭に入る時期もあってよく、子育てが終ったら準備を始め、徐々に仕事を広げ収入をのばす、ということなんですね。

空閑 いえ、むりはしますよ、あるポイントではね。夫を説得するとかどうしても頑張らなければならぬこと、仕事を始めればありますからね。子供だって、たびたび留守番させてれば自然にいろんなことできるようになるし、今では中学生ですから食事くらい作れますし、母親がいなければやるより仕

方がなくなるでしょう。そういうポイントがありますよ。

昔は家の裏に畑があって、主婦はそこで豆や野菜を作って、食べものを得ていたでしょ。でも今は畑なんかない、だから畑のかわりに、外で働いて口を糊するものを持つてくる。それを庶民の主婦ならやるのが当然だと思うんです。家にはすべて先細りですから、経済的にも、徐々に収入を伸ばして、夫がいなくなろうが離婚しようが、生活できるようになり、場合によっては、夫を養なって、家事をやってもらってもいいと思います。

和田 そのお話は個人的には、現代の女の一番賢明な生き方だと言えるところだと思いますね。破綻を起さない、利口なやり方ですよ。

そこで一つ質問したいんですが、状況が変わって来たことをおっしゃったでしょう。その状況はどうして変わったんでしょう。

空閑 一般的には、住宅ローンと教育

和田さん

費、それと夫の収入があまり上がらなくなったことでしょうね。それがなかったら、もっと家にいられる女の人多かったんじゃないでしょうか。昔はふつうのサラリーマンが六円の給料のとき、子供一人大学へ行かせると十円かかったそうです。教育の機会均等はいいいことだけれど、やれるようになったために、皆が苦しくなったのね。主婦がどうやってたら家にいられるかをどうどんつきつめていくと、昔のように、電気洗濯機もなくて、子供だけをたくさん生んでる状態ならいいんです。皆家にいると思う。今はあまりにもヒマだし、大学教育を受けた人も増えて、可能性がいろいろ出て来たんですね、女の人も。それもいいことだと思う。

男女の不平等はどこからくるか

和田 それは個人の生活の変化ということですね。では個人じゃなく、社会の変化というのはどうでしょう。男女平等という法律が今はありますね。しかし社会的には平等でなく、女の平均賃金は男の半分だし、就職の機会も平等ではありませんね。それについてどう思われますか。

空閑 男女をべつべつに考えるのが本当の平等だと、私は思うんです。男の人が子供を生む状況になれば、女も男と同じになれる。今の男の人のように働きたい人は働けるでしょう。すでに私の周囲の独身女性はそうなりつつありますよ。



和田 生むのは大したことないでしょう、八カ月めくらいまで働けるしね、あとも二カ月くらい休めばいいんだから……問題は育てることでしょう。男が生まなくても、育てればいいんじゃないですか。

空閑 男の人がそうしたいならね。さつき言ったように、女が養って、ということもいいと思いますよ。でも私男女二人の子供を育てて思うんですが、まるつきり関係なくやっても、私の留守にクッキーを焼くのは女の子だね。だからもしそれが普通なのなら、その自然であることも大切にしたいのです。

和田 私はね、ある現象の裏には、必ず原因がある、という考え方をする人間なんです。ですから普通のことをすぐ普通だとして納得できないのね。女の子がクッキー焼くにも、原因があると思います。何か社会的・文化的原因がね。男女が違ふというなら、どこが違ふのだろうか。その違いが、現在の賃

金が男の半分とか、就職の差別なんかを正当化できるようなものなんですよ。か。たとえば女子の大学生が大企業就職試験を受けて、「私は結婚いたしません、子供も生みません。だから男なみにやれます」と言っても採用されませんよ。

空閑 だってそのとおりしませんもの、女子大生は。今まで皆三、四年で辞めちゃったんですから。保障がない。

和田 そうでしょう、ということは、就職差別があるのは大部分が結婚や子育てで辞めるからなんです。例外的にやる人があったって、大部分が辞めるから信用されず、差別されるわけです。それはどう思われます？ そういう差別は止むを得ない？

空閑 当然だと思ってます。

和田 どうして？
空閑 女子大へ講演に行くことありますけど、八割くらいの方が、いい結婚をしたかと思ひ、就職しても三年くらいで辞めるつもりでいる。

和田 それが差別を助長してるんですよ。

空閑 だってそれが現実ですもの。いま起きている現実も大切にしなれば。和田 現実なら何でもいい、というならもはや進歩はあり得ませんよ。

空閑 でもその状況の中でも少しは頑張ってる人、いるわけでしょ？ それが二割なら、いかに三割、四割にしていくか。

和田 そうですそうです。

空閑 その過程で、主婦でも自分の状況を見ながら、このくらいなら出られるだろう、次はこのくらいやれる、と、自分や家庭を大事にしながら動いていくやり方があるでしょう。女性が男性と同じように働ける状況が、急にやってくることはわりでしょう。むしろ、今ここまでの状況になったことは、私大変なことだと思ってるの。
和田 こういふ状況になるについて、二割くらいの方が、辞めないで頑張ったっていうことは、やはり力があつた

と思いますが、いかがですか。

空閑 そうですね。主婦の今の状況だつて、主婦はダメだつていう経営者ばかりではないですよ、かなり評価されてきています。

和田 主婦がやつてる仕事つて、パートが今非常に多いでしょう。これは低賃金ですし、身分の保障もない、全員就職する男よりは不利な働き方ですね。特殊な才能のある方はべつですが、ふう主婦はそういう働き方をして、その限りでは企業に評価されているけれど、さき程の男の賃金の五〇%つて低さですよ。これも自然でいいとお思ひになりますか。

空閑 でもパートで得た賃金を、有効に使う方もありますよね。それで満足するんじゃないか……パートで五万いただいたら、そのうちのくらい自己投資できるか、次のステップに何が考えられるか、それを投資して役立てたときに、はじめてパートの収入が生きるんだと思うんですよ。自己投資として

考えたら、五万円でもすごい値打ちだし、西友ストアさまさまになってくる。和田 しかし、家事育児と両立するから、パートでもいいって人もあるでしょう。

空閑 それはあります、そういう人を私たちがどうこういっても、仕方がない。変えることなんかできませんよ。それで満足するのも、そこから頑張るのも、まったくその人の考え方だと思ふの。

自分が満足ならそれでいい？

和田 うかがつてると全部個人の次元に戻っちゃうんだけど、じゃ、全体的な社会の男女平等つてのは、皆が自分のしたいと思うことをやってれば、自然にできる？

空閑 私はね、社会とか全体を考えるとも何もできなくなっちゃうんです。でも主婦は、出るときにそんなこと考えなくてもいいと思ふの、それでいくとどうせ今の社会では女は何もできない

から、やめよう、という話になってくると思ふのね。出たあとで考えればいいと思ふ、一人ずつ出来ることをやれば、自然に主婦の状況は変わってきますよ。

和田 では何をしてもいいというんじゃない、やはり女の人有家から出て頑張つて働くことによつて、世の中変わるということじゃないでしょうか。

空閑 それは認めますよ。

和田 だったらね、皆が皆あなたがおっしゃるように、自分自身の状況でむりしない、ゆっくりやります、ということ、やってたらどうだろうか。空閑さんがそれで良かったのは分かりませんが、主婦がそれを望めば、バランスよく、ですか、子育て期は家にいて、三十五から、フリーで、ということは、いいと思ひですか。

空閑 いいと思います。バランスよくつてとても知恵のいることで、ボンヤリしてできることではないし、仕事にしてもそうです。そういうやり方でや

っていききたいという主婦は多いと思いますよ。そういう働き方をいいと思う人が多いことは、あるいはそれが良いやり方なのかもしれない。世の中は皆がああじゃないか、こうじゃないかと行動していくうちに、自然に変わってくるもので、誰かがこうしたい！ということで変えられるものではないと思います。

和田 アメリカも十五二十年前には今の日本と同じ、いやもっと、主婦は家にいて子供を生んで、という状況だったそうですが、現在では我も我もと出てしまつて、十三歳以下の子供を持つ人でも、家にいるのは六多くらいとか。たった二十年の変化です。ですから働く人が増えれば増えるほど、女性の職場が広がり能力発揮の可能性も高くなって世の中変わってくるわけですね。

空閑 それは変るとは思います。でもそれがいいことかどうか。相談にくる方で、五十歳くらいで死ねたらという



人ありますよ。いろんなこと考えて、家の中にいると気が狂いそうだって。ですから昔のように、九人も子供を生んで何する暇もなく、迷わないのもいいんじゃないかと。アメリカのように女性が全自立して離婚がふえるように変わるのがいいとも思わないんです。ですけれど現実には起きていることには対処していかなければならない。

和田 そうすると、現実には女性が今生きていく、その目標になり得るものは自分の満足ということですか。

空閑 いえ、満足というより、家庭とか家族を含めての自己実現でしょうか。和田 それがつまり満足ということでしょうか？ じゃ例えば、働かないで、専業主婦として家にいたい。それが私

の自己実現であり、満足ですっていう人、いるでしょう。それはどう思われます？

空閑 それはいいと思います。それで将来の生活も、べつに不安がないというなら、他人さまのことですから、何も言うことないと思います。ただ、私はそんな生き方はできなかったというだけで。

問われる高学歴女性の意識

和田 ですからやっぱり自分の満足が目標ですね。日本では、夫の収入が比較的高い階層の主婦に、働かないで自分の好きなことをして満足してる人が多いと思うんですよ。

それが社会にどんな影響があるか



ですが、そういう主婦の多くは学歴が高い。外国人が日本へ来ると、新聞社とか、官僚の世界とか、知識的な女性が入るべき職場に、女が少ないのに驚くそうです。外国だったらもつとずつと多い。まだ十分ではなくとも、増えつつある。ところが日本の高学歴女性は、むりしない、自分の手で子どもを育てたい、なんていつてるからそういう職場に入っていないんですね。

空閑 でも、今若い大学出の方は、皆さん職業を持つようになったというこ
とでは、そのプロセスにあるのではない
いでしょか。

和田 ええ、女子学生の就職希望、九
〇何%とかね。でも、それが三、四年
で辞めちゃたんじゃあ、すっかり女

の信用を落してしまふでしょ。あなたのおっしゃるように、子供を生んで家に入ったらそれもいいのではないか、フルタイムなんてむりしないで、また三十五歳から……なんていつたら、後進の人は出られなくなりますよ。

空閑 それでも、出たい人は出ていきますよ。

和田 私はね、一応知的な女性であればね、自分の満足だけでなく、自分の行動が社会にどういう影響を与えるかを考えて行動すべきだと思うんです。

空閑 私が言ってるのはもつと一般的な女性のことなのです。子育てを自分の手で行いたい層と、他にまかせても社会的活動を是とする層とは別に考えないと無理ですよ。

和田 ところが別じゃないんです。それをいいたいんですが……あなたの
おっしゃる一般のレベル、自分が出た
いから出る、または経済的理由で働く
という人たちは、エネルギーなんです
よ、実力で社会を押しまくって、女の
力を知らせるエネルギーね。私は日本
水産の工場で、三年ばかり前取材をか
ねてアルバイトをしたことがあります
が、東洋一とかいう大工場が、パート
の主婦だけで動かされているんですよ。
本当にその実力に驚かされました。こ
れはもう、社会が評価しないわけにい
かない、当人の意識がどうであらうと
ね。しかしこの人たちは家庭半分、む
りしない、ですから低賃金です。それ
だから夫への説得力もない。収入低
ければ、家庭にしわよせがいくことを夫
は承知しませんよ。ではそれがどこか
ら変っていくか。さっきの女子学生の
階層が、いろいろな男の職種に乗り込
んで、女もこれだけできるんだと、フ
ルタイムで働いて見せるということか

ら、女の高賃金の職場が開拓され、望めばパートだけでなく、安定した職に就ける人が多くなっていくんじゃないでしょうか。

女も男と同じにできるんだという、デモンストレーションをする人と、力で押しまくっていく人と、両方いないとね。力で押す多数がいなければ、女が働くことが例外とされて一般化しないしね、デモして旗を振って、女もできるぞ、という人がいなければ女の能力は認められないしね。私はそういう図式だと思うんですよ。

女性の社会的な地位などどうでもよく、自分が満足であれば何してもいい、というなら家でのんびり暮らしてたつていいし、むりしない、でいいんですが、しかしどうでしょう、人間の生き方として、自分の満足だけを追い求める生き方というのは？ 昔は皆無知ですから、分からなくても仕方がない、でも今これだけ教育が普及しているのだから……広い目でものを見られるよ

うになる、というのが教育を受けた人の権利でもあるし、義務でもあるんじゃないでしょうか。

私は戦争を経験してますが、戦争前は小学校出が普通、中等教育を受ける人が二〇%くらいしかなかった。ですから皆簡単に政府のいうことに欺されたし、インテリは一握りですから、反対なんて言う奴は牢屋へ放り込んでしまえばよかったです。昭和のはじめ、大不況で皆生活が非常に苦しく、農民が娘を売るとか、いろいろあったでしょう？ それで戦争が始まるやいなや、景気がよくなり植民地もできて、暮しが楽になったんですね。それで皆バンザイと戦争を支持しちゃった。あのときのことを思うと、私は自分の満足だけを目標とする生き方には賛成できないんです。国民全体の教育をレベルアップすることの大切さは、大きなものに見える人を作るということにあると思います。

バランスよく、むりしないで、とい

うと、三十五歳すぎではフリーのスペシャリストのしごととか、お店を持つとかいうしごとしかなくなるでしょう？ 高学歴の中年女性のほとんどがそういう働き方をしているのでは、日本の女性の社会的地位はやはりそれほど変らないのじゃないかと思うのですがいかがでしょうか。

空閑 女性が社会的地位にこだわるのは男性が出世にこだわるかどうかと同じような価値観にも思えます。レベルが高い低いというよりも、せめて女子学生で悩んでいる子とかね、主婦の人たちとか、私と似たようなそんなよそからの女たちがどう生きたら、少しでも死ぬ時に、ああ私の人生も捨てたもんじゃなかったという死に方ができるかと……そのへんのお役に立てればと思います。天下国家は目下私には関係ないのです。それを考えると私の頭はこわれるので、ぜひそれは和田さんとかこわれない方に考えていただいて(笑)

180号●特集

父親はほんとうに必要なか



パウラ・モーターゾーン=ベッカー

無表情な父の背後に 見えてきたもの

大湖 玲以

(埼玉県春日部市) 三十一歳



一 我が父

ブーブー、かすかに響く通り過ぎた車の音。これにも乗っていなかった。もう何時だろうか。時計を見ると午前二時。今日は帰ってこないのかしら。

「相談することがあるから、今日は早く帰って来てね」と、朝出勤前の父に念を押しておいたのに。無責任なんだから。もう絶対にあてにすまいと、唇をかむ。信頼を裏切られたくやしさを、せめて時には父親らしく子供の相談に乗って欲しいと思う甘え。それらが波のように押し寄せてきて、父親を無視しようとする気持ちとは裏腹に目がますますさえてくるのである。こういう夜が幾度あったことだろうか。

父は大手会社に勤めるサラリーマン、家族は母と私、そして私より三歳下の弟と、平均的な家庭であった。父はサラリーマンであったから、子供である私は、父の働く姿を今日まで見たこと

特集投稿

がない。「お父さんは偉いんだよ。家ではお仕事しないからわからないだけなんだけれど」と、よく母や周りの者に言われたが、あまりピンとこなかった。では子供であった私に父はどのように映ったかという、次の様であった。

社用族という言葉が一時流行したが、父もその一人であったのだろう、おつき合いや会食、会議で酒が入らない日はほとんどなかった。酒が入ると気が大きくなり陽気でお喋りになった。酒そのものよりも皆でワイワイするのが好きであったようだ。帰りはほとんど毎日午前様。冒頭に書いたような夜が続くのである。

帰ってきたらきたで、大騒動なのである。夜中の何時で、あるうと凱旋戦士のように大声で歌を歌い、部下や時には飲み屋で同席した見ず知らずの人達を引きつれて帰ってくる。どんなに熟睡していても

目が覚め、家族だけならまだがまんができるのだが、隣近所の方々の夢も破るのである。そして酒飲みの癖で、「さあ、もう一回飲み直そう」と、くる。あげくの果てに、翌日は、あれがない、これがないと大騒ぎし、父が通った所や置きそうな所を捜し回るのである。

父は酔うと気前がよくなり、レインコートや時計はもちろん、メガネまで人にあげたり、道端に捨てたりするのである。また、若い頃は行きつけでない店へ行き、お金が足りなくなつたのだから、店から電話で母に迎えに来るように言い、母は弟の手をひき、寝ていた私を起こし、留守番をするようにいつつけ、父を迎えに行ったこともあった。まさに父親狂騒曲の毎日であり、母は父の後始末に追われていた。

日曜日などで家に居る父は、二日酔いで赤くトロンとした目をし、生きる喜びも精気も全てどこかに置いてきたように、一日中テレビの前でゴロゴロしており、こちらが何か話しかけても

生返事しかせず、これでよく外で仕事ができるなど、不思議な思いで父を眺めたものだった。

父はこれといつて趣味を持っていなかった。一般の男性が好きだとされていいる野球もプロレスも相撲も、およそスポーツと名のつくものは、するものも観るのも嫌いであった。絵や音楽などの芸術にも全く興味はなく、庭木の手入れや子供の飼っていた金魚にすら関心を示さなかった。父の好きな事は、ただ一つ、仕事関係の人や友人と酒を飲みながら議論し騒ぐことであった。決して妻や子供とは飲まず、妻子供の顔を見て飲むと酒がまずくなる、と言っていた。

では、酒が一滴も入らないしらふの父はどうかというと、年に何日あるかないかの貴重な日であったが、こういう日の父は、酔っている時の父とはまた違って、扱いにくかった。厳格で生真面目で、それでいて自己中心的で幼児的であった。

士族の末裔である家柄を誇る家庭に育った父は、自分の美意識・価値観を母にも私達子供にも押しつけた。人物にも食べ物にも好き嫌いが激しく、例えば自分の嫌いな食べ物を子供が食べても「下品だ！」と、一喝した。だから、母が父に気兼ねしていた私の小さい時には、我が家の食卓にタクワンもせんざいものぼることはなかった。そして一家団欒は目の敵にしていた、家族揃って食事をするこすら、男の値うちが下がると考えていたのか、些事だと軽蔑していたのか、嫌悪をあらわに顔に出した。

そして家族揃って外出となると、父は先にさっさと行ってしまったり、別の交通機関を利用したりして、必ず一人別行動をとるのである。それでいて、子供とテレビのチャンネル争いをし、子供がチャンネル権をとると、とたんに不機嫌になり「誰の家かわからない」と、ブツブツ言いながら翌日はスネた幼児のように帰りが遅くなるという



のが常であった。

良く言えば家の事は妻に任せて仕事に専心し、言い方を変えると、父には家族の一員であるという意識がない、(と、私は思っていた)ので、家の中の事は子供の進学、引越、その他すべて母の采配のもとに行われた。私達子供は、何かあっても顔をあわすこともあまりなく、「我、関せず」という態度しかとらない父には寄りつかず、ひたすら母を頼りにしたので自然に我が家は母中心となっていた。

私達の成長と共に、母の存在が増していき、それとは逆に父の存在は、月給の運搬係か、かさの高い居候とだんだん影が薄くなっていた。母は「うちは事実上の母子家庭だ」とよく言っていたが、そのように割り切らなければ同居はできなかったのではないか。

ほとんど毎晩、酔っぱらって人を連れて来ては騒ぐ父。その事だけでも、恥ずかしさで小さな胸を痛め、「どうして家庭に父親が必要なのだろうか」「うちのお父

特集投稿

さんは人間失格なのじゃないか」と、悩みぬいた小学生の私。そして、父の後始末の事や無責任さをなじる母。

自分の美意識や価値観を強いる父に對して、母も誇り高い人だったので、断固としてはねつけ、時には父の弱點や矛盾をたたきつけた。それはまるで赤色と青色の珠が混ざることなくぶつかり合うようであった。ただ、父が家に居ることはまれであったし、母が怒り狂おうとも、口数も少なく、暴力を振るうこともなかった。ケンカはいつも母の一方通行で終わった。

それに母も、子供の前で父親を罵倒したり、イライラしている様子を見せまいとしたのであろう、父と顔を合わせないように、父が休日で家に居る日は外出した。しかし、子供というのはデリケートで、たとえ親が口に出さなくても、親の気持を感じてしまうものである。父と母が緊張状態にある時は（年がら年中そうで

あったのだが）ハラハラしたり、変に母に媚びて、母の機嫌を直そうとしたり、子供なりに知恵を出して、あれこれ思ったものであった。

もちろん母の苦勞を見て育ったから、母に味方し同情的であったので、「お母さんはあんなお父さんと離婚すればいいのに。私は絶対お母さんについていてあげる」とか、「お母さんは収入がないから、私がお父さんの方に残って、お父さんからお金をとりあげてお母さんに送ってあげた方がいいかな」などとバカなことを夢想したこともあった。

だが、父にあれほど反発しつつも、血のなせるわざか、父にもどこか憎めない所があったのか、父にかまってもらいたい、せめて一家揃って和気あいあいと食事を食べてみたいと望んだ。だから、父が家庭を省みないからと、小言を言う母を恨んだり、母がきついでから父が家にますます寄りつかないと、母を批判した。

テレビドラマの、頼もしく家庭の長である父親像を、冷笑しながらも、心の中に理想の父を持っている子役に、嫉妬の気持ちが無かったとはいえない。ドラマや小説の中に、自分の父と同じような父親が出てくると、その心理状態はどういうものなのか、その背景には何があるのか探り出そうと、真剣に読んだものだ。なにしろ、父の気持ち

が皆目理解できなかったからである。

二 結婚してわかった父

結婚して数年たったある日、夫が私に向かつて、「君のお父さんに感謝するよ」と、ぼつんと言った。「どうして？」と、不思議がる私に、「そうだろう、酒飲みのお父さんだったから、三・四日続けて飲んで文句を言わないけれど、もし真面目なお父さんの娘だったら、今頃はお父さんと比べられて、さんざん嫌味を言われるのが落ちだろうからな」と。

ウーン、そういうものかもしれない。娘は父親のような夫になってもらいたいと願望し、父親と夫を比べると、どこかで読んだことがあった。ところが、我が父は、私の最も嫌いなタイプの夫であり父であった。父のような人とは、まぢがって結婚すまいと心に誓っていたし、父のすさまじさに比べると、我が夫はほとんど合格点がつけられないへん理想的な夫となる。夫からすると、まさに父親様々なのである。

ところで、私の結婚式当日の父は、いつもの父らしくなかった。前日からめったに熱など出さないので高熱を出し、当日になっても下がらず、高熱をおして出席し、会場でも落ち着かなそうにしていた。平素の父を知らない夫の方の親族の方々は、「やはり、お父さんはお寂しいのね、一人娘を嫁に出すので」と、おっしゃった。しかし、私は心の中で、式の前々日まで飲み歩いて不摂生しているから、大事な時に熱なんか出さず、と責めていたので、



これといって改めてあいさつもせぬまま、今日に至った。

また、関西から当地にやって来たのだが、里帰りもなかなかできないので、父が東京出張の帰りに時々立ち寄る。わざわざ時間を都合して片道一時間余

りもかけて来るのだが、特別な話をするわけではなく、母や弟の事を聞いても、物足りないぐらい簡単にボンボンと言っただけで、もちろんこちらの様子を聞くわけでもなく、列車の時間に合わせ、てそそくさと帰っていく。孫が一人増

特集投稿

え二人増えてもあまり変りがない。

ある時、私のお腹も大部せり出してきていた頃、桃の大きな包みを抱えてやって来た。銀座の有名果物店で買って来たと言だけつけ加えて。その前に来た時には私の大好物の寿しをもつて来てくれたのだが、妊娠して好みが変わっていたので喜ばなかった。それで父なりに考えて桃を買ってきたらしい。後で母から聞いたのだが、その桃はいへんな高級品であったそうだ。いつも父と私の間には、取り除けない癖があって、その間隔は狭くなることなく、それをもどかしく思っていた。

ところが、先日立ち寄った際に夫と酒を飲み、ほどよく酔いが回り、会社の話やよもやま話をしていて、ふと真顔になって、「娘と子供達をたのむぞ」と、言ったという。それまで父親は愛情に乏しい人だと決めつけていたが、そうではなく表現のしかたがわからないというより

も、表現してはいけなさと自分を律しているのではないか。酒の力を借りなくては家族に対しても自分に対しても本心を吐露できないのではないかと気づいた。

「男女七歳にして席を同じうせず」と戒められ、「男が軽々しく女子供と口をきくこと」を卑しまれて、「男はこうあるべきだ」と、一つの鑄型にはまりこむことを教えこまれた父。そんな父には、妻が病気で床に就いていても、どういたわったらいいいのか、嫁いでいく娘になんと言葉をかけていいのか、持ち前の照れ性と相まって、ますます無表情となり、反対に強がって酒を飲むのではないかと納得できるようにになり、心の中に長年あった氷の山が、しだいに溶けていくのである。

子供の上つけや将来の生活設計について、時々夫とケンカするが、言い争った後でふと我にかえり、自分の言った言葉が、二十数年前に、父から叱責を受けた時の言葉であることに気がつ

く。「なにが武士は食わねど高揚子なのよ。体面ばかり気にして」と、反発していた私が、懐しいという感情以前の肌の一部のように、しみついている価値感があることに気がついた。接する時間も少なく、まして話し合うなどということには縁のなかつた父と娘であつたのに……。

父親は元来、大人の男の行動パターンを子供に教える存在であり、家庭の中で父親のカゲが薄くなり、そのことが、激増する少年非行、家庭内暴力や登校拒否などと無関係ではないなどよく耳にするが、私の育った家庭は父親不在で、その上父と母は折り合いが悪く最悪の状況であつた。しかし、母がしっかりしていたからだろうけれど、私も弟も幸いにも非行にも登校拒否も縁がなくここまで来た、確執に悩みながらも。父の働く姿を少しでも知っていれば、もっと良かったにちがいないが、「寝に帰る」だけの父でも、人生の先輩として父を見ていてよかつたと、

今つくづく思う。

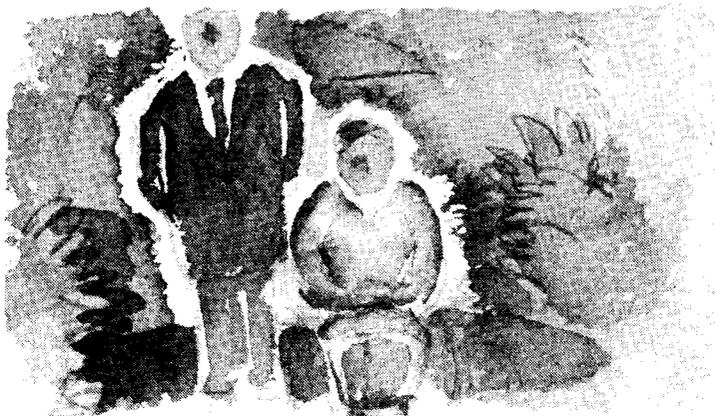
皆さんは、李恢成の父の肖像である『人面の大岩』を読まれたことはないだろうか。私は印象深かった最後の文章をここに引用する。「最近になって、ぼくは父を思い出すことが多くなった。少年の頃、あれほどおそろしかった父の感じはいまは歳月が賢明に淘汰してくれている。長いこと、ぼくには父の背後にある不気味な坑道が何なのかよくわからなかった。その薄暗さは父の狂暴さを育てるだけの道に通じているようにうつっていた。そのため、父が腹を立てると、そこにどんな真実がこめられていようと、ぼくにはけものことばとしてしか聞えなかったのである。

ふとぼくは、未成年の日にあこがれた『人面の大岩』を思い浮べてみる。父は晩年のアーネストのように、人々から尊敬をうけ聴衆に恵みをあたえるような人物でもちろんなかった。それどころか、結婚式のスピーチでトチ

ッて絶句するようなたわいのない人間にすぎない。

だが、この息子にとって父はやはり人面の大岩であったのではなからうか。息子はそのことに長いこと気づかずにきただけのことなのだ。ぼくの人面の大岩は、喜怒哀楽のはげしかったきわめて平凡な生涯を送った男である」

身近にいた時は、父は青い珠なら母は赤い珠で二色の珠は決して一つになることはないように思えた。が、離れてみると二色の珠はある時は赤紫となり、ある時は青紫にまざり合い、私の生きる尺度になっっているのである。もし、青い珠がなく、赤い珠しかなかったならば、生きる尺度は赤い珠一つしかなかっただろう。しかし、二色あったおかげで、種々の色合いの色を知り、少なくとも一色よりも私の人生は豊かになったと信じる。



父親は必要ではない！

松本 弘子
(神奈川県横須賀市)



まずテーマの仮題をそのまま夫にぶつけてみた。

「給料さえ入れたら、亭主なんかいない方がいいにきまっている。母親の稼ぎで母子が食べていかれたら、父親は不要にきまっている」夫は言下にこう答えた。

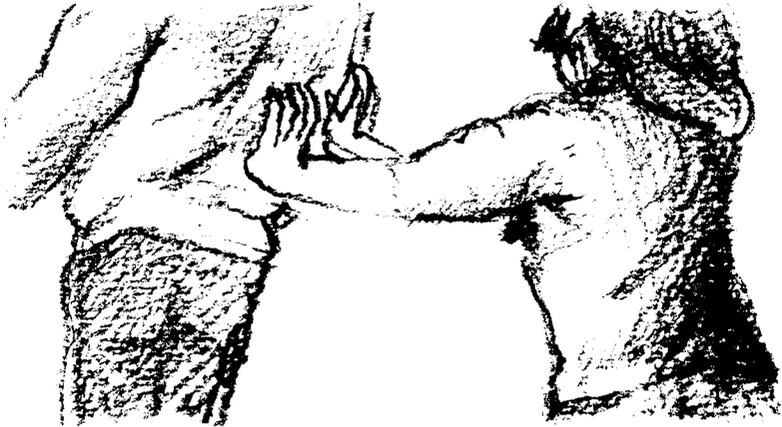
日頃、私を旗頭に私の友人達がなんぞと言うと、給料さえ入れてくれたら亭主なんかいらぬ、母子だけの方が好きなことが出来る、自分の心から望んでいる生き方を全う出来る、第一亭主の顔を見なくて済むだけでもせいせいだ、などと姦しく亭主不要論を広言してはばからぬため、夫も止むなく同調するようになったのであろうか。

父と母が持ちつ持たれつお互いに助け合い支え合ってこそ家庭、という当り前の説が吹き飛んでしまうほど妻の胸の底には、夫は子供を生むためには必要であったが、目的を果した今と必要ではもはや不要、稼ぎ手として止むを得ず必要としているに過ぎぬ、とい

う思いが厳然と横たわっているのは何故だろうか。子供は絶対に欲しい、必要だ、けれども、父親は必ずしも必要としないという妻が何故こんなに増えたのであろうか。

私の夫に限っていえば、自分のことはなんでも自分でする、およそ手のかからぬ夫である。私が留守であれば、台所に立って自分の食べ物くらいは作る。家の修理修繕、生活用具の調達などよく気が付いて器用にやってくれる。有難い夫である。お互いに好きで一緒になった間柄でもある。にも拘らず、出来ればなるべく夫が眼前にいない方を望み、夫に向かって、朝は早く家を出るよう、夜はなるべく遅く、私が寝入った頃帰宅して欲しい、休日もあるべく外出して欲しいと折につけ口に出す。愛情がなくなつたわけではないが、何故か顔を見たくないのです、顔見たくない賃を渡してなるべく家を外にして貰いたいと思う。

なんとという身勝手な妻であらうか。



本来ならば夫に食べさせて貰っている身、夫の面倒を見るのは最低の義務、夫が外でよりよく働けるように細心を払わなくてはならないと思いつつも、何故か何もしてやりたくないののである。夫の面倒一切がただもう面倒臭く、いやでいやでたまらない。とっくの昔に男性への興味関心すべてを失っているので、別に恋人が出来たわけではない、何故か理由は分からないが夫が邪魔でたまらなくなつてしまった。いないとせいせいするのである。

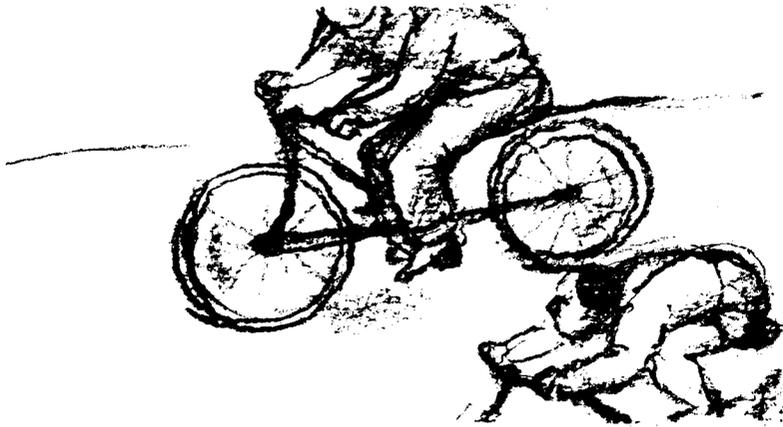
俺が死んだら初めて俺の有難味が分かるだろうさ」と夫は常々言う。その通りだと思ふ。その時夫の有難味一挙に思い知らされ、改めて必要性を痛感するに違いない。普段恩恵を蒙り過ぎるの余り思い上つた私は、一種ないものねだりのわがままを言っているに違いない。いや、人生たそがれ時に至ると、自分のことしか頭になく、一分たりとも自分のやりたい事をやる、夫などかまっていられない、夫の留守ほど

特集投稿

有難いものはないのである。

子供にとっての父親としてはどうか。わが家の場合、父と子は同性同士、近頃二人は益々意気投合、親と子の関係を忘れていかにも対等の付き合いを楽しんでいるようである。子供が小学四年となったこの夏は二人で初めて泊りがけの旅に出た。休日には専らサイクリングを楽しみ、冬にはスキーに出かける相談とひどく仲睦まじい。

というのはこの父子の年齢差は五十歳、父親には残された時間が僅か、従って少しでも子供との接触時間を多く持ちたいというあせりがあるらしい。若い父親であれば、これほど子供と接触してはられないと思う。かくてわが家の父と息子は、休日に私がお家を空けること大歓迎、うるさいばあがいないくてせいと嬉々として母親不要論を披露する次第である。十代の初めに母親と別れて父子家庭に育った夫は、家事



全般に精通し、今風に言えば自立している。それは有難いが、反面成長の過程において躰けられるべきことをほとんど躰けられなかったため、非常識であれそをつかさ面も多い。双方うまくいくことはなかなかない。これはお互いさまだから仕方がない。

四人の子供を育てた友人が、本当に強く逞しい子供を望むならば片親が欠けていた方がよい、父親はいない方がよいと言った。そう言える面もたしかにあるかもしれない。

父親のいない子供で思い出すのは、私が中学生のまだ戦後間もない貧しい時代のことである。父親戦死という生徒がクラスに必ず数人いて、彼等がいかに成績優秀であっても、高校進学は断念せねばならず、中学を出たら直ちに就職して、家計を担わねばならなかったことである。口には出さねどどんなに口惜しい思いをしたであろうか。その口惜しさをバネに、彼等がその後

とは想像に難くないが、当座はつらかったであろう。

大学進学に際しても、同様に父親の存在の有無が真つ先に問われた。父親という稼ぎ手の有る無しがその子の運命に決定的に作用した点、現在よりも深刻な時代であったように思う。

戦死者を父親に持った悲しみ筆舌に尽くせぬ友人の中にあつて、私の父は人並み外れた立派な体格を持ち、男盛りの真只中にありながらついに赤紙とは無縁、空襲も知らずじまい、というのも米国は日本の敗戦を見越して、将来使用すべき施設を全面的に残して置く積りで、横須賀市を襲わずとしたのであろうか、戦争の恐ろしさ、悲惨さを少しも知らぬままに生き残った。

戦死者にはまことに不謹慎極まりない言い方になってしまふが、私の父がああ戦争で死んでいたらどんなに残された者が助かったであろうか。父のような人間こそ戦死すべきであつた、その後三十数年思い続けずにはいられ

ぬほど私たちは父から苦しめられた。もし技術者でなかったら、父はいち早く戦場に駆り出され、生きては帰らなかつたかもしれず、或は生きて帰つたとしても、私たち家族は、全く別な道もつとましな道を歩いたに違いない、と戦後ずつと父の生あるを憎み続けねばならなかつた。私たち子供にとつても母にとつても、父は全く不要な人間であり、あまりにも迷惑な存在でしかなかつた。世の中にはこういう父親もいるのである。

元はと言えば生来真面目一徹なるが故に「聖戦」を信じて疑わず、ついに戦争の本質を見抜けず、さて一夜明けで全く価値観の変つた戦後の社会に対応出来ず、やがて生まれて初めて覚えたマージャンという賭け事に溺れ、以来狂気の沙汰の半生を送るようになったのである。

敗戦は私が小学四年の夏、翌々六年生のある日、給料を持ったまま父が行方不明となり、それからというもの殆



特集投稿

ど家へ寄りつかず、狂った者同士アジトに居を構え、明け暮れマージャン、マージャン以外は関心の対象外となつてしまった。親が死のうが、子が病もうが、結婚し、孫が生まれようが一切われ関せずを貫いた。

当然勤めもちらんぼらん、無断欠勤を続けてはクビになる。別の職に就く、一カ月は真面目に働くがやがて同じように失職する。只の一銭も家計に入れず、知人に借金をし、いよいよ困ると家に脅しに現われる。強盗よろしく金を出せ、出さねばこれだと台所より出刃庖丁を持ち出しては振りまわし、強引に奪って行く。祖母、母が細々ながら商売をしていたお陰で、なんとか残された七人の家族が暮らして来られたのである。他家へ強盗に入ったのであれば、警察に突き出しも出来るが、自分の家ではどうしようもない。こういう時家族はどうすればよいのだろうか。呆れ果てる

が、それが三十年余続いたのである。

その間、なんとか賭け事を止めさせ、真人間に直してやりたいと、家族としてはキリストよろしく、右の頬を打たれば左の頬を出し、いつか、いつか目を覚してくれる日もあろうかと、誠意の限りを尽くし、必死で庇ったこともあったが、一切の試みは空しい徒勞に過ぎた。思い余って殺す他はないと思いつめたことも幾度であつたらうか。

俗に「飲み打つ買う」という言葉があるが、このうち「打つ」という賭け事に狂った人間ほど救いようのない人間はいないのである。賭け事は死ぬまで止められないのである。新聞雑誌の身の上相談に、賭け事に狂った夫と別れるべきかどうかという相談が載り、回答者はきまつてあなたの暖かい心で救うべきだと説いているが、どんなに暖かい心をもって救いの手を差し伸べようとも、これだけは無駄、別れた方がまだ救いがある。

よくまあ飽きもせずこの道一筋、ひ

たすら賭け事とは、いかなる人間であらうか。父は人間どころか虫ケラ以下、気弱で意志薄弱、人前でろくに口もきけぬ人間、しかし、根は無欲で善良なもの、賭け事とはおよそ不似合いな人間、父のような人間が賭け事をするのが土台無理な話、だからいつも負ける一方、負けて巻き上げられたお金をなんとか取り戻したい一心で更に巻き上げられるのであるが、そんな簡単なことがどうしても分らない。一銭でもお金の顔を見ると注ぎ込まずにはいられなくなる。

ある時、自分の身内に不幸があつて母が香典を持たせた。するとその香典の半額を奪って賭け事に行つてしまった。一事が万事その調子。私の給料、一生懸命働いたお金が幾度奪われ、むざむざとドブに投げ捨てられたであらうか。今度こそ最後、この借金さえ支払って貰えればもう二度と賭け事はしないと涙を流し、誓文を書いて土下座して来る。止むに止まれずお金を出す、

しかしそれで止められはしない。茶番劇は幾度も繰り返されるのである。土下座している父の頭を足蹴にするという哀しいこともあった。

夜中に戸を叩く者あり驚いて出てみると、負けたお金を即支払えとチンピラが立ちほだかっている。負けたお金はいつも十万円、一昔前の十万円は大きな痛手であった。一体三十年間にどれぐらいのお金を捨てたであらうか。

今思い出しても腹が立ってたまらない。祖母や身内の者が亡くなった時、一家の主であるべき父は、きまっで行方不明である。その度に夜、夜中であるうと捜し歩かねばならなかった。働かず賭け事だけで食べている浮浪者の如き人々と、場末のうす汚いラーメン屋の二階にこもっている父は、入浴はめったにせず、下着も上着も万年着たきり、ねむくなればその辺にころがり、お腹が空けばラーメンをすすりという生活である。連れに行っても立ち上がるさえやっと、目は落ちくぼみ、青黒

い顔は乞食ながら、これがわが親、かつて親戚中の自慢の青年であったという人と同一人物とは、情無いことこの上なしであった。

先日、横浜の寿町というドヤ街に生きる人々を記録した映画を見たが、その映画の登場人物、多くはギャンブルで身を持ちくずし、今は一人ぼっちで老いて病んでいるという人々がみんな父に見えてならなかった。

世の中には、たった一人の人間の不心得によって、彼に関する人間が多数振り回され、一生を台無しにさせられることが大いにあるのだ。父がいなかったら、私たちはもっと平穩無事な、安らかな人生を送られた筈と言い続けているうちに、あつという間に時は過ぎ去ってしまった。今と比べてみると、それもこれも必要な試練であったと思う他はない。結果として何がプラスかマイナスか分かったものではない。ひどい父親も私の肥料になったと思う他はない、そうでも思わなくては、救

いようがないではないか。今自分という人間がこの世に存在している、それは父のお陰であったと感謝する他はないではないか。

同様に父親の勝手に泣かされ続けて来た友人が、ある時次のように言った。「母親が早く死んでしまったので、親はこの世にたった一人、どんな親でもかけ替えのない親、大切にしたい」と。私は、たった一人であらうとなかろうと、矢張り恨みつらみぬぐい得ず、あれほど泣かされた人間を親だからというだけで大切にしないでほならないとは不当ではないか、と釈然としない。ごく最近、身近な友人の二組に、夫の家出という事件が相ついで起った。夫が妻子を残したまま突然家を出て、別な所で別な女性と生活を始めたのである。彼等に共通な点は、若くして結婚し子を持ったこと、及び、若い割には稼ぎが抜群によかったことである。妻は、ある日青天の霹靂の如く、夫より離婚して欲しいと言われた。冗談じ

特集投稿

い。戦前は一パーセントに満たなかった結婚を望まぬ女性が、今すでに二十五パーセントに達しているという。その先は推して知るべしであろうか。結婚と性も別のものになり、男性は女性に気に入られ

やあない、断じて離婚なんかするものかと子供と結束を固めている。父親なんぞ不要だが、永久に離婚は認めてやらぬという。彼等に接していると、将来結婚の形態、親子の形態は変るに違いないと思う。

女性が経済的に自立し、男性に食べさせて貰わずに済むようになったら、今のような結婚の形はまず変るものと思う。

あと二十年も経つと、労働人口の極度の不足から、好むと好まざるとに関らず、女性も全員働かなくてはならず、専業主婦の存在は消滅すると聞く。その時、働く女性は結婚して男性に縛られることを真っ先に拒否するに違いない。

ようと、料理をはじめ家事全般の習得に励み、心身共に魅力ある人間をめざして、磨きに磨きをかけるに違いない。魅力ある男性と結びつかんがため、女性もまた一層の磨きをかけ、かくて世の中、いい男といい女の氾濫となるうか。

先のことは予測出来ないが、結婚制

度、家庭や親子の関係は確実に変わって行くに違いない。現時点において、父親の要・不要はケース・バイ・ケース、各家庭次第と言えるのではないだろうか。そして、いつの世にもそれは同じではないかと漠然と思う。

(え・岡田 正子)



座談会

昭和一ケタをおやじに持てば



● 出席者

池田 孝 大学生

江藤寿美子 大学生

高瀬 玲子 社会人

宮川 恵子 大学生

山本 次郎 大学生

〈いづれも昭和三十六年生〉

● 司会

編集部 和田 好子

司会 まずはじめに、お父さんの年齢と職業、好きなこととか、趣味などを話してもらいましょうか。

山本 昭和五年生まれで、洋、和菓子の製造販売業をしています。親父は三代目。趣味は歌うことと、旅行。食べることにはすぐくて、おいしいレストランでよく食べる。だから太っちゃうんです。

江藤 大正十五年生まれで、会社員宮業畑をずっと歩いてきた人です。趣味は、「仕事」にちがいないと、私と母でいってるの。(笑) 趣味はマージャン。池田 昭和二年生まれで、職業は大学教授。ゴルフをやっています。若いとき遊ばなかったのが、最近あせて遊び出してらるって感じですね。

高瀬 昭和七年生まれで、コンサルタント(心理相談)をしています。合気道五段の免状を持ち、外国で教えてもらうたいとか。募集する塾生は、弱者か女性に限るなんていっています。

宮川 昭和六年生まれで、繊維関係の

会社で、ファッションの企画の仕事をしています。花とか花の種が異常に好きで、外国の種を仕入れては、辞書とくびっぴきで栽培法などを調べている。

ポスターなどは、まず字から見るほどの活字中毒症で、すごい読書家です。

子供の目から おやじを見れば

司会 みなさんのお父さんの、父親像みたいなものをはなしてはしいんだけど。

江藤 とにかく、モレツサラリーマンだったんでしょね。小さい頃の記憶は、第一に帰りが遅かったということですね。小学校の頃、お父さんは家で何をしてくるかという作文を書かされたとき、テレビを見てる、お酒を飲んで、ゴルフに行くとき書いたら、母がだいぶ考え込んじゃって……。(笑) 日曜日は、寝てるか、ゴルフでしたか。母も遅く帰って来る父親の話しかしてませんでした。

家庭のこと顧みずに働いてはっかりいるから、子供の教育とかすべて母親まかせ、家に帰ってかける言葉はきまつて、勉強やってるか、これひとつ。(笑)

宮川 就職したら、どういうんだらうね。

高瀬 「仕事してるか」だよ。(笑)

宮川 いまは何ていってるの？ いまもその言葉なの？

江藤 「勉強してるか」は、いま弟にいってる……。(笑) いまは電話が長いとか……。(笑)

高瀬 両親が中二のとき離婚して、姉は父のところへ、私は母と暮すことになってしまったから、父親像というのは、自分で作り出すしかなかったのよね。この前久しぶりに、父と父の友人を交えて、三人で会ったんだけど、大人の会話ができたわね。父も意外とふつうのことを話す人なんだなあという印象だったけど……。一対一で会うと親子の会話になるの。ふだん会うと、

すぐ、ガス栓止めてきたか、なんてきくのね。(笑) 神経が異常なのね。自分が異常だから、心理学に興味をもったのかもしれないけれど、性癖みたいなものがあるって、ものに偏執するわけ。宮川 パラノイア？

高瀬 そうそう、そうなの。お金は落とさないかとか、ちゃんとここまでこられたのかと……。分かった、分かったと三回位いわないと、納得しないみ

子どもを扱いかねる父親たち

江藤 受験なんかのときも、全部母親まかせで、父親は、ねえ、どうする？ どうする？ ってそれだけ。(笑)

司会 お父さんが、どうするっていうの？ もっともお父さんじゃ分かんないだろうね。

江藤 ええ、仕事しかできない人だから……。

司会 お父さんにどこかへ連れてってもらった記憶ある？

池田 ないですね。

たいなところあるのよね。

池田 父親像といわれても……。身内の恥をさらすようで、いやなんだなあ。(笑) 理屈で何でも押ししてくるから、息ぐるしいと思ったね。大体、男らしい感じはしないし、たくましい感じもなし、父親らしい感じもないし、豪放さもなしで……。小さい子供を扱い兼ねてるって感じてしたね。

江藤 私もないですね。母親に少しはめんどろみて下さいよといわれて、弟を連れて、スゴスゴ映画館へ行ったとか。それくらいの記憶しか……。

山本 僕も、そういう記憶全くないですよ。家中で商売してますから、父は朝から家にはいますけど、僕は学校へ行っちゃうから昼間は会わないし、夜は夜で、夕飯ですよ、なんていつてるころに、これ、いないんですよ。(笑)

食事よりもまず酒で、いそいそと外



へ飲みに行っちゃう。酒癖が悪くて、おばあちゃんや母親に、よくからんだりしてましたね。短気だったのか、すぐ暴力に訴えてくるから、小さいときはそばに寄れないくらいのことわい存在だった。土下座して、ひれ伏して、ごめんなさいといわなければ、とうてい許してもらえなかったから、こちらから父親をさけてました。

司会 どういうことで、お父さんはおこるわけ？

山本 何かわるさしますね、それを異常にたたくんですね。ソロバンでなぐられて、血が出たこともあったし、地

下室（砂糖等を入れておく倉庫）によく閉じ込められて、何回も入れられてるうちに、そこからうまく出る方法を覚えちゃって……。笑） 地下室に入れられているほうが、なぐられなくて安全だったわけだ。笑）

弟は足かなんかもたれてふりまわされて、鼻血が出たときもあった。母がやめて、やめてと止めても、おこり出しちゃったらもうだめ。

宮川 こわいなあ！

司会 家庭内暴力だ。笑）

山本 血の気も多かったんでしようね。いま考えると、すぐものを投げたりしたんだから、人間が弱い証拠だと思えるんだけど。僕が中学ぐらいのときは暴力に訴えることもなくなつて、高校生の頃には、全くなくなりましたね。かえってものわかりがよく、陽気になつて……。

司会 なにか、商売のこととかで、不愉快なことでもあったんでしょね。

山本 ええ、父は三十代でしたし、一

番大変なときだったと思うんです。江藤 うちは、叱られた記憶が全然ないんです。

いざとなると恐ろしい父親

宮川 なぐられたことは数少ないけどうちは、徹底してなぐるから、血だらけになるのね。笑） 三度ぐらいなぐられた記憶があるの。父は、ふだんは円満にしているから、いざおこると、ものすごいのね。

大学二年のとき、私のわがままからいさかいが起こり、父が逆上してなぐつたんです。その頃、八王子に住んで、家族それぞれが行動するには、そこはちょっと不便なので、一致して都会に近いところに住もうというはなしになつたんだけど、私には仲の良い友達がたくさんいたから、とても八王子を離れ難かつたのね。

その頃、つきあつた男の友達がいなくて、その人を好きだと思つたとき、或

る日父がかすんで見えて、父が、男の人なんだということをすごく感じて、そばにいられるだけで、体がぞつとすするのよね。もう、父とは口もききたくないし、父のさわつたお茶わんなんかさわりたくないし、入れてくれたコーヒーも飲みたくない、何をいわれてもカッとするし、さんさんいさかいがあつた。

都会の近くには住みたいし、かといつて、大切な人とは離れたくないし、そこら辺が矛盾してるんだけど……。引越するしないを機に、父も私もだんだんボルテージが高まってきちゃつて



……。父は会社へ行つて、あまり家にいないから、母に引越したくないとグチグチいったのを、母が父にはなしのね。ある晩、父がいきなりおこつてなぐりかかつてきた。取っ組みあいになって、鼻血が出て……。犬畜生じゃないのに、なぐつたつて、いうことさくわけがないでしょつていつたら、お前なんて、犬畜生以下だ。出てけ、出てけと。売り言葉に買い言葉で、それなら出てくわよと、とっさに家を出ちゃつた。(笑)

自分一人でやつていける自信はあつたし、和解できなければ、もう家は出ようと……。母がとにかく帰つてこいというし、荷物も持つて出なかつたので、翌日家へ戻つたら、父がいて、息子、なぐつてごめん……。と一言。父に氣を使つて、家に戻つてきたんだけど、そのあとしばらくは、かなり父とはやりにくかつたわね。

司会 どういうふうに氣を使つたの？
宮川 あの一件が、また振り返すんじ

やないかと……。いつもは理性的な父なんだけど、あのときは、なにがなんだから、わけが分からなくなつてなぐつたつて感じね。

司会 あなたがなぐられたことに対して、自分では納得がいつてる？

宮川 ええ、わたしも、わがままだったから……。

司会 ひとわたり、みなさんの父親像をいつてもらつたんだけど、それぞれバラエティに富んでるわね。父親と子供の関わり方というのは、小さい頃と大きくなつてからは、だいぶちがうでしょうね。

變つてくる親子関係

山本 全然ちがいますね。

江藤 うちが、コミュニケーションが薄いという点では、全く變らないから……。

池田 いま父とは離れていて、うちにいないだけに、下宿から帰つたときなんか、なんとなく敬語を使いたいよう

な雰囲気があつて、以前もそうだったんだけど、会話なんか、なんとなくギクシヤクしてる。大体、つやつぱい会話のできない人だね。(笑)

顔を見合わたるとき、何ていおうかと思つて考えるんだけど、やあ、どうも……と、それだけで。いまの親子関係つて、一番やりにくいんだな。

山本 最近よく、福島田舎から出てくるんですよ。ちよつと仕事で、とかいつて。新幹線は早くて二時間できちやいますからね。夜、突然、目の前をブラブラ歩いてるんですよ。(笑)

上京すると、一緒に飲みに行くのが楽しみで、仕方がないから、ボランテニアのつもりでつきあつてますけど。

(笑) 自分が歌がうまいので、店へ入つて、下手な人が歌つてるとすぐ不愉快で、あんな発声をして、とか、ブツブツいい出すんです。

もともと女性好きだから、隣に座つてゐるOLに、あなたの目は魅力的だとか、話しかけたりするんで、もう、



みっともなく、僕がその人にあやまったりして……。しかも、そのOしは、アベックできてるんですよね。(笑)

学生風のグループが踊ったりしている、平気で、チーク踊って下さい、なんていって、一緒に踊ったりとか……。

司会 父親が息子の女関係心配するんじゃないくて、息子が父親の女関係を心配してる。(笑)

山本 そうなんです。ライオンズ・クラブなんかの関係で、韓国とかに友達がたくさんいて、外国へ行くのも好きで、よく行くものですから、口の悪い友人連から、お前の親父さんのことだから、お前には、あちこちに弟や妹が

いるかもしれないよ、なんていわれるんですよ。(笑)

司会 昭和五年生まれだと、戦争から解放されて、ダンスなんか盛んにやっただ年代だから、きつとよく覚えていたのね。

山本 父は少年航空兵を志願していて、戦争に行くか、行かないかのぎりぎりのところにおいて終戦ですからね。上京しては、ばあつとよく遊んだみたいですよ。

司会 山本さんのところは、大きくなってともいい関わり方ができてる例だと思っただけで、ときには、父親がいやで、背を向ける時期もあるでしょ。

池田 背を向けたというか、父親を意識したのは、中学を受験したときかな。さかんに勉強しろ、勉強しろといわれたけど、勉強しなかったの、トラブルがあったね。一度、父親を階段からつき落とす夢をみたことがあったくらいだから……。

司会 やっぱり対立してたのね。それ

2月号
発売中!

月刊 教育の森

定価480円
毎日新聞社

特集 教師の出世 そのゆがみの構造

校長100万、教頭70万円の工作費・永守良孝
まともな教師は昇進を断念……大和田等
教師たちの「お家の事情」……柳田邦男
◆放課後のチチヤス……尾辻克彦

〈連載〉これでよいのか 千葉の教育④
体育教師はなぜ許される……荒井 魏

活字離れの責任は教科書
入試問題……武田勝彦

「大学離れ・専修学校ブーム」喜多村和之
高等教育 多様化の兆し



は勉強のことばかりじゃないでしょう？

池田 やはり、どこかで勉強につながってましたね。もう少しほったらかしにしてくれてたら、状況が変わったんじゃないかという気がしますね。親として、ぐっとこらえてもらいたかった……。

山本 男の子って、反抗期ってのがあるでしょ。大体、あの頃から家族とも話さなくなるもんですよ。もちろん、親父とも話をほとんどしませんでしたね。最近ですよ。酒でも飲みながら話すのは……。

池田 へえ、とても信じられない、親父と一緒に飲むなんて……。大体、父親と酒を飲むなんて、気持ち悪いと思いませんか。

司会 そうかな、父親って、そういうこと、ともうれしいんじゃない？

池田 僕はぜったい、いやだね。

司会 池田さんのところは、友達親じゃないのね。見上げてて、いつも上なのね。みなさんが反撥した時期というのは、かなり大きくなってからでしょ。高瀬 高校のときね。父は押しつけてくるタイプなので……。

「正しすぎる」親のデメリツト

宮川 わたしもそうよ。中学の時、生徒会の役員やったり、勉強もよくやって、わりと真面目な子だったので、高校に入ったとたん、脱力感みたいなものが、どっときちゃって……。私、何してるんだらう、私にとつて、父、母って何だらう、どういう影響受けてん

だらうって考えるようになったのね。

うちは、両親とも個性が強い。二人とも非常にリアリストで……。父はとくにそうなのね。父と母は、いつも正しいから、歯がたたない。その影響下に育てられてるっていう不満や、そこから逃れられないというこわさみたいなものがあって、だれか、自分に好きな人ができれば、親から逃れられると思ったのね。

親とはちがった見方で、自分を見てくれる人がほしかったのね。それは、男の子でも、女の子でもよかつたんだけど……。その頃、ユートピアみたいなものにあこがれていて、国立にある、無農薬野菜を売る店に、関わってしまったの。そこで、自分を認めてくれた男の子があらわれてからは、もう一気に傾斜していつてしまつて……。そのうち学校へ行かなくなつて、赤点がついで、先生から電話がかかつてきたりとか、いろいろあつたあと、どうやら卒業にこぎつけて……。

司会 逃げ路線ね。(笑)

宮川 ただ逃げるだけでは、理屈が通らないと非難されるし、なにかしてないと、自分でも納得がいかないわけよ。だから、リヤカーで無農薬野菜を運ぶことからはじまって、手あたり次第、なんでもやって見たの。

司会 父親というのは、そういう子供の変化、子供の成長がすぐ分かって、対応できるのかしら？

江藤 いつまでたっても、子供は子供、ここから出るんじゃないよと、そればかりで……。

高瀬 うちなんかも、母親は大人としてみていくれるんだけど、父親は、まだまだ子供だと思ってるみたいね。
宮川 チャランポランのお父さんほしかったな。(笑)

女ぐせが悪くて、飲んべえで、飲むとさわぎまわったりする……。そういうお父さんなら、可愛いくてしょうがないでしょうねえ。否定ができる親がいたら、わたしって、大人しく育った

んじゃないかと思うよ。(笑)

司会 友達関係についてはどうですか。うるさいですか。異性と旅行するなんていうと、許してくれるの？

江藤 昔からすごい心配症で、友達と旅行に行きたいなどというのと、もうなにがなんでも、どこであつても、まずは反対するんですよ。そのことだけな

娘を囲っておきたい男親

司会 あなた、まだ囲いの外に出てない？

江藤 私、いい子ですから……。 (笑)

親に対しては、すごくいい子に育っていると思うんですよ。そういうふうに躰けられてる面がすごくあると思うんです。弟が父に対して無礼な口きくと、お父さんに向かって何いってんのって、反射的に言葉が出るんですよ。それが、いいことか悪いことか、分からないんだけど……。

父親を客観視すること、もう

んですよ、父親が私に対して自分の反対意見をいうのは……。沖縄に行きたいからというのと、基地の町はあぶないからやめると……。 (笑)

司会 娘が外へ出ていたら、こわいのね。

江藤 自分の作った囲いの中に、娘をいつも置いておきたいという感じで……。

できなくなってると思うのね。

司会 ふだん家にいないから、客観視する材料がないんじゃないかな。

宮川 うちは、材料がゴロゴロしてる。(笑)

司会 お父さんは、ボーイフレンドについて、意見述べない？

宮川 わたしは、ボーイフレンド連れでくるのはこわいのね。連れてくるとだれだ、だれだと笑って、友達のようなきき方するのよね。また彼氏が変わったのか、あの子はもう捨てたのか、

そのうちナイフでさされるぞなんていつてからかうのね。もう、からかわれるのはたまらないから……。

江藤 私が連れてくると、父は引き込もって、会わないようにしてるんです。司会 それじゃ、どんな子がきてるか見られないじゃないの。(笑)

父親というのは、娘は勿論のこと、息子の女関係だって、心配でしょ。

フリーすぎる父親も 困りもの

山本 うちは、そういうことに、まったくフリーなんですよね。いてあたりまえ。(笑) いるんだろ、いなきゃおかしいぞと。でも、連絡もなしに、いきなり上京してくるから、そんなとき下宿にガールフレンドがいたら、ほんと、どうなるんだろうと思うときありますよ。ガールフレンドがきてたら、どうするってきくと、部屋からすぐ出てくよ、とはいってるけど、多分、一緒に飲みにも行きたがるんだらうね。

(笑)
江藤 うちだったら、ほんとに勘当もんだ。(笑)

宮川 勘当はしないと思うけど、いかり狂っちゃうよね。(笑)

山本 おれが父親だったら、やっぱり、ぜったい、いやだと思うよ。(笑)

親になったら、きつと娘を囲いたくなると思うよ。(笑)

江藤 親としたら、いい学校出て、いい会社へ就職して、傷もつかずに、いいところへお嫁に行つて、という夢があるんじゃないかと思うんですよね。

お嬢さん路線で育てたいという願望があつて、それから少しでもはずれるとすぐ心配する。だから、ちょっと柄の悪い子とつき合つてると、あんなの不良だぞ、といつて……。

司会 いまだに友達関係を心配してるわけね。

江藤 友達同志で旅行に行きたいときは、いろいろ知恵をしばつて、いい方法をみつけるんですね。旅行に行く仲

間(男女共)を連れてきて、ちゃんとあいさつさせるからと、そこらへんからとりかかつて、説得へもつていく……。(笑)

宮川 すごい、大変だね。

江藤 旅行先で知りあつた、お国なまりのある男性から電話がきたら、いまのは何だと……。(笑)

電話で私を話していると、必ず、

男? 女? ってくださいんです。(笑)

宮川 いつも、女つていつてればいいのよ。(笑)

江藤 大学へ入つて、クラブの仲間とはじめて飲んだとき、友人(男の先輩)が送ってくれることになつて、私の家の門限が九時ときいて、もうお前のところへは送りたくない……。(笑)

宮川 へえ、わたしとはちがうわね。司会 宮川さんのところは、門限あるの?

宮川 門限なんて関係なし。(笑)

親がちがうから、子供もちがっちゃうんだね。(笑) 江藤さんのとこ、い

までも門限は九時なの？

江藤 いまは十時にのびたけど……。

宮川 へえ、それでも十時、十時じやなにもできないよ。

高瀬 地獄だ、(笑)

江藤 文化祭のときだけは、十時にのびるの。

宮川 私の友達で、十時が門限といわ
れてる子がいて、親がきいたら、てん
かん起こして、死んでしまいそうなこ
とを、十時迄にフル回転してやっての
けて、あとは涼しい顔して、ただいま
といて帰ってくるんだって。

江藤 いいわねえ。そうしてみたいわ
よ。

高瀬 そういう子のほうが多いよね。

司会 江藤さんは、ずっと真面目路線
できてるわけね。

宮川 わたし、江藤さんのような娘だ
ったら、産んでみたい。(笑)

高瀬 そう、わたしもそう思う。

江藤 わたしのような父親でなかったら、わたしは、こういう娘にならなか

ったと思うんだけど……。

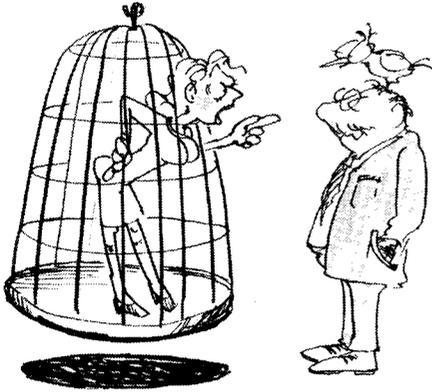
司会 結婚については、どういってる
の？

江藤 おれが死ぬまで、嫁に行くなど。

宮川 へえ、死んじやうよ、もうな
んというか、会ってみたいよ、あな
たのお父さんに……。

司会 それじゃあ、だれが出てきたっ
て、お父さん気に入らないわね。(笑)

宮川 父親って、だれが出てきたって、



気に入らないんじゃないの？

江藤 いまのところは、他人のお見合
い写真もってきて、せめてお前も、こ
のへんのランクぐらいにしなればな
んで、いってる程度で済んでるけど……
。もう最近では、だれでもいいから、
男の子を、できるだけいっぱい引っぱ
ってくるようにしてるの。

ランクの低い人をいっぱい集めてお
いて、そのうち本命を合わせようと思
うの。(笑)

自分本位の嫁えらび

司会 娘だって、それなりに、防衛法
を覚えるわよね。(笑) 池田さんのと
ころはどうですか。結婚については。

池田 どうせもらうなら、看護婦をも
らえと……。(笑)

山本 老後のこと考えてるんだよ。そ
ういう気持。分かるような気がするな
あ。僕のとこなんかは、おばあちゃん
と母は、僕が田舎に帰ってくるもんだ

と信じてるから、気だてがよくて、よく働く嫁をもらえという。

父は、とにかく美人じゃなきゃ、おれはいやだよと……。(笑)

僕がもらうんだよ、といっても、おれが連れて歩くのに、恥ずかしいような女じゃいやだ、なんていってる。ほんとに、何を考えてんのか。(笑) だから、おばあちゃんと母が気に入ったのを一人と、親父が気に入ったのを一人と、僕が気に入ったのを一人と、三人もらわなければならぬよ。(笑)

宮川 重婚になるから、日本を離れなきゃだめだよ。(笑)

司会 親はみんな、勝手なことをいってるわね。(笑)

ところで、最近の父親は、影がうすいとか、存在感がないとか、いろいろいわれてるわね。人間形成上の影響という点ではどうかしら？

高瀬 あるには、あるわよね。ないといったら、うそになるわよね。

子が親を見直すとき

宮川 最近、父が、唯一頼もしい人に思えてきたの。世の中に出るに關して、とつてもいいチャンスを与えてくれる人としてね。

高瀬 どういうたのもしさなの？

宮川 わたしは、真面目にやってない時期が多すぎたから、果たして、私が世の中へ出て役に立つんだらうかという不安があるのね。父はサラリーマンだから、父の跡を継ぐわけにはいかないし、ましてわたしは、いわゆるお嫁に行く気なんてないから。(笑) 自分で働いていかなきゃいけないと思ってるの。

母も働いてるけど、企業の中にはいないし、父は企業の中で働くことしかしてきてないから、働くことに関しては、シビアなわけよね。

だから、相談にはのってくれるし、助けにはなるわね。

高瀬 社会へ出ると、父親観は、ガラ

ッと変わると思う。

司会 あなたは、アルバイトして働いてるのよね。

宮川 わたしも働いてて、生活半分かっていうから、そういう意味からいって、父親を見直すというか……。

高瀬 母と一緒に店に出てて、中年のおじさん達に接すると、ほんとにくつきりと、その哀歎みたいなものが、浮かびあがってくるものね。大変だなあって思うよ。

司会 父親を尊敬できる？

宮川 わたしは、尊敬しているね。意見のくい違いは、ちがう人間なんだから、しょうがないことだと思うの。尊敬してるから、きく、きかないの問題じゃないのよ。

江藤 宮川さんは、小さいときから、困いから出てるね。(笑)

高瀬 あなたは、一生、困いの中から出られないわよ。(笑)

江藤 父は五人きょうだいの次男で、長男が婿養子に行っちゃったから、両

親や、父のきょうだいのめんどうをみたり、借金を返したりで、大変苦勞してきた人だから、そういう面で、尊敬してますね。朝五時起きて、仕事に打ち込んでいる姿を、よく見てたし…。無駄をしないで、危険をしない生き方があるってことでは、教えられた気がしますね。

池田 高校三年の春休みだったかな。ペット屋でアルバイトしてたのを、父に見つかってしまって、息子は、いまが一番大事なときなので、どうかやめ



させてほしいと、菓子折持参で、店へたのみに行ったんだよね。やっぱり、親として、やるべきことは、やらなきゃと思ったんだろうけど、その行動力には、敬服せざるを得なかったね。司会 そろそろ時間もなくなってきたので、是非ききたいんだけど、父親は必要だと思いますか。

山本 ぜったい必要だと思えますね。いるだけで、存在感があるといううか。勉強のこととか、学校のこととか、こまかいことでは、みんな母親が心配し

てくれてましたが、母親にはできないこともあるってことが、あとになってよく分かってきました。

最終的に、肝心なところで、どうしようろっていつてるのは、よく考えてみると、みんな父親ですよ。うちは商売柄、母親が、店でいそがしく立ち働く姿ばかり見てきましたからね。

父は僕の見えなかったところで、大事なことをやってたんでしようけれど、遊んでばかりいるようにしか、見えなかったんですね。それで、あんな親にはなりたくない、こんな家には、いたくないと、ただ、反撥するだけで……。あとで、母親から、すべて大事なことはみんなお父さんがやってくれていたんだよ……と、きいて知りましてね。いま考えると、父親は、ぜったいに、こわい存在であるべきだって、思うんです。

(まとめ・安藤 悦子
え・松本圭以子)

で生きられるか

神戸心療親子研究室カウンセラー

グループ「ろくさん」メンバー

(1)

「父親はほんとに必要なか」というテーマだと聞いて、気持ちがいささか冷えてこわばる感じがした、とまず率直にのべたい。このテーマは、不自然に力みすぎて意識が先行している。ためにする議論は、あまりしない方がいいのではないかしらん、と思いつながら、送っていたいただいた二つの応募原稿のコピーを拝見した。

大湖さんも、松本さんも、ご自身の父親について、生ま生ましく、どうしようもない被害者であった子どもの立場で語っておられる。

息をのんだ。

書かれているのは、テーマについての議論ではない。痛哭の「自分史」である。封建社会と超国家主義と戦争の巨きな影が、ドサリとかぶさっている。ひしゃげて、あがいて、もはや自分を制御する余裕などどこにもなくなっ

しまった男が、八方破れに、自分の妻や子に、わがままと加虐の限りをつくす。

これは、重すぎる歴史の事実である。

(2)

自分の父親をみれば、過去の封建社会と超国家主義と戦争におしつぶされた男の姿を見るしかない。ひるがえって、自分の夫、つまりわが子の父親をみれば、それはそれで、今の世の中のひずみにつながっていて、父親らしい役割をわきまえた、ゆとりある態度とはほど遠い男の姿を、みるしかない。

そのどちらを語っても、話は、「父親要・不要論」一般の議論にはならないのである。それ以前に、話の主題は、過去と現在のそれぞれの時代状況が、いかに愚かしくて、父親を父親たらしめない性格のものであったか、またはあるのか、というところに向いてしまう。主題はそこに定着してしまう。

父親は「平和」の中

伊藤友宣

かしました、それを主題にして、それを明らかにしなければ、「父親要・不要論」を始めるわけにはいかないのである。そう思えば、お二人の原稿は議論の出発点である。

女はしいたげられてきた弱い存在だということと女性性は強調する。それは痛い程、胸に迫る。分かる。だのにまた、男も負けず劣らず、虐げられてきたのだということ、これも、強調せざるを得ない。

男に課せられた仕事は、家の外にあった。男は外で虐げられた。その腹いせを、家に戻って、家の中で女に向けた。嫁の立場で、亭主にぶつつけられた腹いせを、昔の女は、自分が姑になるや、若い嫁にぶつつけた。

上からの被虐者は、自分より下への加虐者となる。その被虐者はまたその下への加虐者となる。上から下へ、上から下へ。

封建の上下構造は、そういう上から下の鎖でつながれ、また、外から内へ

の鎖でつながれた構造である。身動きならないしくみである。

そして、また、時代的な封建の遺制は、今日的な装いをこらして、近代産業の構造の基本の部分に、あまりにも見事によみがえっている。戦前戦中、徹底的に、世の中のしくみと、そのしくみのワクの中にどうでもこうでも自分をはめこむ、はめこみ方を、身につけさせられてきた世代が、今の世の中を運営しているのだから。

時代は少しも新しくなったりやせんのだ。思わず、私たちは、そう呻吟するしかない。

(3)

昔、男は、赤紙一枚と引きかえに、妻子のもとから、ある日忽然と姿を消した。好むと好まざるを問わず、いつでも己れの姿を、家族の前から消してゆけるように、平生から男は覚悟した。非情のなかの情。感情表白のない表情

の印象を残して、男は黙って戦場へ。
それが男のロマンだった。なんとそれに魅かれた女の、それが女のロマンであった。

だから、男というものは、家族の間関係のからまりの中に、有機物本来の自然さで、生まれ木が成長につれて互いの根をからませていくようには、自分をからみこませはせずに、床柱を背にして、一段高く身をひいて座っていた。外の絶対命令を、内の下々のものに申し渡す役割を、そうやって孤独になじみながら耐えて、果たすのが、男の仕事であった。

外には、男の悲哀を共感しあえる、男の仲間がいたのだから。家の中の孤独は、一時の辛さと思うことで、耐えることが出来たのである。

一旦緩急あれば、いつでも男は黙って戦場へ。女、子どもから離れていく。今の男の仕事場も、戦場そのものの感覚がある。男は黙って戦場へ。

大湖さんのお父さんは、戦中も戦後

もあらばこそ、戦場にしか生きられなかったのだと思う。戦後は、会社という名の戦場に。体質がそうさせたのだ。戦争中にいやでも応でも作られてしまった体質が。意識で運動神経を働かす以前に、身についた自律神経の働きで、自分が自分でなく、勝手に動いてしまう。会社という名の戦場にどっぷり首までつかかり、呑み仲間という戦友と、戦歌をうたうことが、人生のすべてだった。

松本さんのお父さんは、同朋がすべて戦地の花と散ってゆく時にあとに一人居残る。男社会からの疎外感を、何かで癒すことを戦後、狂おしい程に、要求したのだろう。まじめに戦中の価値観に身を奉じようとした者にとつて、大戦後の波風のない平和は、心を狂わせる程の怪奇の事態であったのだ。耐えられない。

神が自分でただの人だと名のり、鬼畜米英が一夜明けるとジェントルマン。平和の使者となった。命とひきかえに



信じた絶対価値は、八月十五日、音もなくうたかたの露と消えた。

私自身の、私より六つ上の兄も、あれから二、三年、精神の虚脱に狂いめき、結局、秋の菊の花で身辺をかざって、黙って死んでいきました。服薬の自死でした。

松本さんのお父さんの、つぶれた心をマージャン屋に運ぶしかない自暴自棄は、鬼気迫る思いをもって、私には分かるような気がする。父親をわが心の外におくしかない、娘の松本さんのお気持の、夜叉の激しさも、また。

お父さんは、マージャン屋を、ついの戦場とみたてたのだ。頭でそう考えたのではない。体がそうさせたのである。

頭と体の離反分裂を、無責任だと責められる人は、いるのか。法廷でぬけぬけしゃあしゃあとウソをついている政治屋を、自分で刺し殺しに行けもせぬくせに、幼い子どもには正直の徳を教えている。私達のうちの、だれが。

昔から今までずっと私たちも、親も、祖父母たちも、頭と体の分裂を、耐えて耐えて、耐え抜いてきた。体の頑張りで生きた。

女は黙って赤子を抱く。老幼の養いに、朝も夕も黙ってめしを作り続ける。男は黙って戦場で夜露をしのぐ。男にとつての身のおきどころは、非日常の仮りの宿であった。脱「暮し」というか、超「生活」というか。

つまり、男は、非常時を常時となすべしと運命づけられたのだ。その腹のシンに教えこまれ、そう生きて、そう死んだのだ。

平和の今も、身についた習性で、死にそびれの男は、だからつぶやく。家の中にいる男なんて、男なんかじゃありませんわ。

(4)

つまるところ、男は、戦いに生命を賭けた。勝つか負けるかに賭けた。そ

の賭が人生のすべてであった。

女はそうではない。暮しを守ることを強いられた。朝も夕もじっとひとつところに息をひそめて、耐えて、待つことが人生であった。

男は、勝つか負けるか、が無くなって、平和が続くばかりなんて、生きたこちがせんのだ。身をもてあまして、時間が持てんのだ。

平和は厄介なあつかいかねるシロモノだ。女と子どもとからんで、なにをどうしろというのだ。ジャラジャラしい。おれは知らん。

わが国は、四十年近く、戦争がない。ということ、男にとっての人生の場がない。

よく、人は、戦後の民主社会は、もはや崩壊した、などとしたり顔で嘆くけれども、なに、もともと民主社会なんてものを、そういう男が一体どうやって作り出していけるのか。民主社会なんて、この国に一度だって、存在したことなんかないわさ。この国は、古

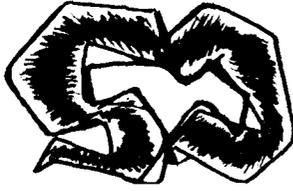
いふるゝ封建の体質のまま生きております。

国会議事堂が、民主主義のシンボルだって？ あれは、松茸ではなくて、安物のおすましの碗に浮かんだ、松茸の匂いのついた、フ、ですよ。フ。

維持するに値する、平和も今の世の中にはないのだ。

女が、今、夫として、父親として、家庭のメンバーに組み入ってもらいたいと期待する時、男がいて女がいて、老人がいて赤ちゃんがいて、みんなが仲良く朝夕に顔を見合わせる家庭を想定しているのだから、それは、民主社会という名の、家庭なのだ。

歴史的な強制力にのみ従ってきた男は、上下構造での身の処し方しか、覚えてはいないのである。女は、人格対人格の、横の関係を、当然期待している。それを、男は、頭では分かるのだが。しかし実際に、その横の関係というものを、どうやったら創りだし維持することができるのか、その具体的なやり



方が、あまりにも身についていないのだ。教えられた事がないのである。無理もないのだ。

そして悪いことに、そんなことはくだらないことだと、舌を打つ思いが、どうしても腹の底にあるのだ。

本質的に、平和というものは、勝つか負けるかのオール・オワ・ナッシングの感覚ではやっていけない性質のものである。

「平和がなにを創った？ 鳩ぼっぼの鳩時計だけじゃないのか」と、第三の男のオーソン・ウエルズが言ったひところは肝にさわる。

殉死の美学で心のシンを支えてきた男にとって、死の静寂よりも、もっと、平和がくだらなく、こわいものなのである。

(5)

平和の社会とは、勝つ者がいて負ける者がいて、一方が生命を謳歌せんが

ためには、一方に死んでもらわねはならぬ、時代ものの映画の絵づらのような、社会ではない。

平和の社会とは、つまり民主社会のことであって、すべてが勝つ社会である。負けるもののない社会である。

社会を構成する人間のひとりひとり、そのすべてが、わが人生に勝った、という充実感で生きる世の中を、民主社会、平和社会というのである。

地球上に、そういう意味の、平和はない。

共産の名をとなえた側が、権力闘争をくり返して、常に全体主義の悪臭をはなち、自由の名をとなえてはばからぬ側もまた、独占の肥大で、これまた全体主義の悪臭がすごい。

そしてその両者、勝つか負けるか、喰うか喰われるか。いのちを削ってにらみあい続けて。こぜりあいの明け暮れ。この地球上のこの現実、平和なんてものとは全く似ても似つかない。すきあらば、相手を刺そうと四六時

中ひそかに刃ものをといでいる日々を、断じて、平和の日々とは、言わない。

それではいったい平和とはなんなのか。三年寝太郎のような寝まき姿のことなのか。日曜の昼間の、いぎたない父親のバジャマ姿のようなものか。

それもある。それも平和の点景だ。それだけでは、もちろん、ない。

この地球上を、だれにとつても、生のよろこびの場に変えるには、無限の努力が必要だろう。その、無限の努力の持続のことを、平和とよぶのだ。平和とは、すべての人々にとつての、不・断のくつろぎを確保するための、不・断の緊張のことなのだ。

家庭とは、男にとつても、女にとつても、くつろぎの仮りの場であり、たかひの仮りの場である。外で働いて、帰ってきて、羽根を休める。共有のベイス・キャンプでもある。

家庭というものがそういうものにならない以上、平和もない。民主社会もない。家もない。いや、そうあるべき

ものだ。志向しての不・断の努力を、お互いに確認しあう場が、家庭というものだ。

自分をこの世にあらしめた、男と女の、生ま生ましい努力のしあいを見るのが、育つということだ。子どもが、平和を、民主社会を、頭でだけでなく体で覚えながら大きくなることを、「子が育つ」というのだ。

上下構造から、横の構造へ。心の革命を、みんな一人々々が、本気になつてやらねばならない。二十年かかるか、三十年かかるか、それは分からない。休み休み、やるしかない。

どうせ業半ばで、死ぬ。土になるほど安らかなアイデンティフィケーション（同一化）はない。

こういうのが、平和の思想だと思う。女が、いてくれてもいいと思う父親、いやいてくれなくては困る父親とは、こういう平和の思想について、共に感じあい、語りあえる父親ではないか。「子が育つ」のに必要な、父親にいて

もらいたい。女はそう思っているのだと、思う。

(6)

父親が、そこにいて、そこに生存している。

母親が、そこにいて、そこに生存している。

子が、そこにいて、大きくなりつつある。

要か不要か、ではなくて、実存的状況が、とりあえず、蔽として、あるのだ。

男の職場を変える努力を続けよう。

女の職場を変える努力を続けよう。子が育ちうる教育へと、教育を変える努力を続けよう。

男がいて、女がいて、子が生まれて、みんながどうしようもなくここにこうして生きていると感じあえたら、感じあえたままに、話し、聞く。せめてここはこうしよう。あそこはああしよう

と、共に動いていける。お互いの考えの違いや行動の違いがあれば、違いをはっきり違いと認める英知。違いを認めながらも、共有共存の部分を、しっかりとゆるがないように、しなれた努力で維持し合える英知。そういう英知を、男も女も、お互いに磨くのだ。死ぬまで。ぼけないためにも、死ぬまでの努力。

お互いの違いが、どこでどれだけ違うのかと、いらだたず、どならず、泣かず、中断せず、力まず、しっかりとあきらかにしあう努力のことを、「対話」という。

夫婦の考えの違いがあることの無念さを、無念だと思う。その無念さの次元が同じであることを、「夫婦の共感」という。

父親は、ほんとうに必要なか、なんてではなくて、父親は、そこに、現にいるのだもの。

要は、心の革命が、いつはじまるかだ。(え・岡田正子)

アンケートへご協力をどうぞ！ (二月末日までにご返送を！)

△わいふ▽では今回、全十頁に及ぶ、「現代女性の性と結婚」に関するアンケートを行うことになりました。

十頁というと答えるだけで少なくとも三十分前後かかる、ぼう大なアンケートです。これだけの長いアンケートに誠実に答えて下さる読者を持っている雑誌は「わいふ」以外には見当らない。私たちはそう考えてこのアンケートの実施にふみきました。

性に関するアンケートや調査は、ハイト・レポートやキンゼイ報告など、欧米では有名なものがありますが、日本にはそれらに匹敵するものが全くなかったといえます。しかしもしあったとしても、私たちは数の多さを誇る、同種類のアンケートにはあきたらない思いを抱くでしょう。

「性」それだけを切り離して調査し、分析するのではなく、現代に生きる女た

ちが、夫との関わりの中で、父母との生活との関わりの中でそれをどうとらえているか、それを私たちは知りたいのです。

日本の妻たちの状況は、まだまだトータルな人間として自立したものではありません。結婚も、性も、その限りにおいて、真にのびやかな、開かれたものとはいえそうにもありません。

そうした状況の中で、女たちの性生活は、どのように営まれ、どのように花開き、あるいは蕾のままではぼんざいるか——このアンケートを通じて、私たちはそのことを知りたいと思うのです。どうか一人でも多くの方が参加して下さい、女の生きやすい社会をつくるためにお力を下さい。

記入式のお返答の欄、もし余白が不十分でしたら、別紙に質問のナンバーを書いてご記入下さい。勿論匿名です。

△電話レポートへのおお願い▽

「わいふ」編集部では、このアンケートに関連して、電話による性のレポート聴取を試みることにいたしました。

ご自分の性生活とその問題点について語りたい、という熱い思いを抱いていらっしゃる方、ぜひ編集部へおでんわ下さいませんか。もちろん匿名です。

お電話代を負担していただくのが心苦しいので、こちらから電話番号をうかがった上で改めてお電話させていただきます。お話をうかがいたいと思います。

(名前から電話番号をひくことはできませんが、電話番号から名前をひくことはできませんのでご放念下さい)

レポートをして下さる日時をお約束した上で、お電話でお話をうかがいたいと思いますので、お志のある方はぜひ、ご一報下さい。お待ちしております。では、どうぞよろしく！

編集部

アンケート・現代女性の性と結婚

- あなたの年齢（ 歳） きょうだいの数（男 人 女 人）
結婚年数（ 年） こどもの数（ 人） 最終学歴（ ）
中・高・大学は共学でしたか（ ）
職業は（有無） 有る方は職種を具体的に（ ）
手取り年収（ 万円）
- 夫の年齢（ 歳） きょうだいの数（男 人 女 人） 最終学歴（ ）
中・高・大学は共学でしたか（ ）
職業は（有無） 有る方は職種を具体的に（ ）
手取り年収（ 万円）

《結婚生活と性》

Q1. あなたは生まれ変わっても今の夫と結婚したいと思いますか。

はい いろいろ

- はいと答えた方はその理由について一つに○をつけて下さい。

十分な経済力があり妻に収入を自由にに使わせてくれる。
やさしくて思いやりがあり、妻をいたわってくれる。
性的に合性がよく充実した性生活を送っている。
妻の独立性をみとめ家庭外での自由な活動を許してくれる。
子どもをかわいがり、よき父親である。
家庭の中で妻を尊重し、何ごとも任せてくれる。
決断力に富み男性的で社会人として有能であり、信頼がおける。
妻が人間的・社会的に成長するのを喜んでくれ、家事育児も分担してくれる。
その他（)

- いろいろと答えた方はその理由について一つに○をつけて下さい。

仕事中心でありあまりにも家庭をかえりみない。
妻を養っているという態度がミエミエで亭主関白である。

日常生活で愛情の表現がなさすぎ、やさしさに乏しい。
性的に合性が悪く、性生活が不満である。
野心と向上心に乏しく、男らしさが感じられない。
細かいことにこだわりすぎ、万事に干渉しうるさすぎる。
子どもに無関心すぎ、父親として失格だ。
収入が低く、社会人としてウダツがあがらない。
その他（

Q 2. 夫とあなたの生活について、次のことにお答え下さい。

夫が朝、出かける時間（　　時） あなたの出かける時間（　　時）
夫の帰宅時間（　　時） あなたの帰宅時間（　　時）

●夫とあなたとは、一日平均どれくらいの時間話をしますか。

10分以内 30分以内 1時間以内 1時間半以内 2時間以内
それ以上

●主な話題は？ 二つをえらんで○をつけて下さい。

夫の仕事のこと 妻の仕事のこと 子どものこと 家計のこと
大きな買物のこと 哲学・宗教について 政治・経済問題 両親のこと
親せきのこと 近所の人のこと レジャーのこと 文学・芸術について
その他（

）

●あなたに職業がない場合、余暇に何をしていますか。（複数回答）

スポーツ テレビ視聴 市民運動 ボランティア 園芸 学習活動（具体的に）（　　）おけいごと（具体的に）（　　）
近所の人と楽しいおしゃべり サークル活動（具体的に）（　　）
）家でできる仕事（具体的に）
（　　）
その他（　　）

Q 3. あなた方夫婦は性交に関係なく日常的に、どんな愛情表現をしていますか。（複数回答）

キスする 抱きしめる 体を愛撫する 手を握る 体を触れあって座る
一緒に寝る 愛しているという 何もしない その他（　　）

Q 4. 現在はしてくれないが、夫があなたにしてくれたら——と思っている愛情表現はどんなものですか。一つだけえらんで下さい。

疲れたときいたわってくれる 家事を手伝ってくれる 甘えたいとき黙って抱きしめてくれる ゆっくり話をきいてくれる 性交に関係なく愛撫し

てくれる たびたびキスしてくれる 君を愛しているよと言ってくれる
誕生日や結婚記念日にプレゼントしてくれる 髪形・洋服などをほめてく
れる ほとんど不満がないのでえらべない その他 ()

Q 5. あなたの性生活は、結婚生活の中でどれ位の重要性をもっていますか。

ほとんどゼロ 1/4程度 1/3程度 半分 3/4程度 全部

●あなたは夫と、平均どの位の頻度で性行為を行っていますか。

毎日 1日おき 週2回位 週1回 2週間に1回 3週間に1回
月1回 2カ月に1回 3カ月に1回 半年に1回 年1回
その他 ()

●1回の行為に平均どれ位の時間をかけますか。(前戯を含めて)

10分以内 30分以内 1時間以内 1.5時間以内 2時間以内 それ以上

●行為そのものは、平均どれ位の時間がかかりますか。

3分以内 5分以内 10分以内 15分以内 30分以内 それ以上

●あなたは性交でオーガズムを得ていますか。

毎回得ている ときどき得ている ごく稀に得ている 全然ない

●オーガズムを得ないとき、夫にそういますか。 はい いいえ

●オーガズムとはあなたにとって、次のどれですか。(単数回答)

全身の血が逆流する感じ 頭がボーッとして気が遠くなる感じ
ヴァギナにおきる痺れんとその後の弛緩のかんじ
男性の射精をヴァギナの奥に受ける快感 摩擦によっておきる熱い感じ
その他(具体的に) ()

●あなたにとって結婚生活における性交とは？(単数回答)

夫が求めるから与える女としての義務 すばらしい肉体的快樂 夫婦の最
高のコミュニケーション 子供をつくるための手段 その他 ()

Q 6. 家族構成 夫以外に誰が同居していますか？

子供 (人 男 人 女 人)

夫の父 夫の母 夫の兄弟姉妹 妻の父 妻の母 妻の兄弟姉妹

その他(具体的に) ()

●あなたの夫と夫の母との関係についてきかせて下さい。

()

)

Q 7. 住居について

- 住居の広さ () m²
- 夫婦の寝室が独立していますか。 いる いない
- いない人はその具体的状況について書いて下さい。

Q 8. 性行為のプロセスで行われる男性の行為でとてもいやなことをあげて下さい。(いくつでも)

- 反対にとってもいいことをあげて下さい。(いくつでも)

キ
リ
ト
リ

●性生活について夫婦のあいだに不満がありますか？

夫から不満をいわれたこと 有 無
その理由 ()

あなたの不満 有 無
その理由 ()

Q 9. あなたは夫から求められたとき、生理上健康上の理由がない場合、
必ず応じる ときどきことわる めったに応じない 全く応じない
その理由 ()

●性行為は夫婦のどちらから求めますか

夫が主にときどき妻から 妻が主にときどき夫から
いつも夫から いつも妻から
同時に その他 ()

《性についてのあなたの考え》

Q 10. あなたの結婚はどの順序でしたか。(順位をつけて下さい)

恋愛 見合 性行為 同棲 結婚式 届出

Q 11. 性交について、あなたの考えは？(単数回答)

結婚するまではすべきでない

愛しあっていれば結婚に関係なく許される

愛しあっていないくとも、好ましい相手ならそういうこともありうる

男に求められたら許すほうが男をひきつけられる

複数の相手と試みて、性的合性のよい男と結婚すべきだ

子どもをつくる行為としてのみ認められる

動物的で汚らしい行為

その他()

Q 12. あなたは夫が婚前に性体験があることを

望んでいた 望まなかった どちらでもいいと思った

その理由()

Q 13. あなたは夫の買春をみとめますか

絶対みとめない(離婚する) 絶対秘密にしてくれるならよい

トルコ程度ならよい 海外でならよい 妻の座に影響なければよい その

時にならないとわからない その他()

Q 14. あなたは自分の婚外交渉についてどう考えますか。(1つだけえらぶ)

夫がしていれば自分もやってよい あり得るが家庭を壊さぬよう秘密に

する その時にならないとわからない 妻としてすべきことでない

大恋愛で離婚覚悟ならよい 一夫一婦は不自然だから適当にエンジョイ

すべきだ その他()

Q 15. 夫の婚外交渉について（買春ではなく）（単数回答）

- 自分に絶対わからないならよい
- 絶対に許せない（もししたら離婚する）
- 家庭をこわさない程度のものならしかたがない
- その時にならないとわからない
- 自分を愛してくれなくなったのだと思いショックをうける
- どこか自分にわるいところがあるのだろうと反省する
- その他（

）

Q 16. 処女性についてあなたの考えは？

- 結婚に際して男が求めるものだから守るべき
- 結婚に際してはあるように見せかけるべきもの
- 処女性を求めるような男とは結婚しない
- 結婚するまでは絶対を守るべきものと思う
- その他（

）

キ
リ
ト
リ

《あなたの性の歴史について》

Q 17. 月経について答えて下さい。

- 初潮開始の年齢（ 歳）
- 月経について知っていましたか。 はい いいえ
- 初潮の前に親から、そのことについて教わりましたか。 はい いいえ
- はいの人は、どんな言葉でかかされましたか。

（

）

- 初潮を迎えた時、親は何といましたか。

（

）

- あなたは初潮をみたときどんな感じを持ちましたか

厄介なものがはじまった 一人前になったと思い嬉しかった
知らなかったのでショックを受けた 汚らわしいと思った
その他（

）

Q 18. 男女の性器の差についてはっきり知ったのは何歳のとき、どんな機会に
でしたか。

(歳 のとき) ()

Q 19. 男性器についてどんな感想を抱きましたか。

()

Q 20. 成熟した男性のエレクトした性器の実物をはっきりみたのはいつですか。

婚前のペッティングのとき 婚前性交で 結婚初夜で

結婚後 (年) して その他 (いつ どこで) ()

●その時受けた感じ (感想) ()

Q 21. 性交についてはじめてはっきり知ったのは (歳) のとき

●何で知りましたか。

友だちにきかされた 親から 先生から ポルノ的雑誌で

百科辞典で調べた 書物で 初体験でいきなり その他 ()

●どんな感想を持ちましたか。

()

Q 22. マスターベーションについて

●経験がありますか。 はい いいえ

●はいの方は (歳) 位からしていた ときどき まれに ひんばんに

毎日

●結婚後も続けている 続けていない

Q 23. はっきりした性的興奮を自覚したのは何歳ぐらいの時ですか。

(歳) 位

●どんな機会に? (複数回答)

友人と性について話していたとき

ポルノ的ストーリーを読んでいるとき

映画・テレビでラブシーンなどみているとき

性的魅力のある男性のそばにいるとき (恋人でなく)

- 男性のヌード写真や体をみたとき
- 男性器を目にしたとき
- 異性とキスしたとき
- ベッチングしたとき
- その他()

Q 24. あなたはタンポンまたは膣洗滌器が使用できますか。 はい いいえ
 ●自分で自分の子宮口に触ることができますか。 はい いいえ

Q 25. 初体験は(歳)のとき
 ●相手はどういう人でしたか。()
 ●相手との年齢差(歳)
 ●初体験の相手と結婚しましたか。 はい いいえ

Q 26. 避妊について
 ●あなたはどんな避妊法を用いていますか(複数回答)
 オギノ式 基礎体温法 コンドーム ペッサリー リング ピル
 避妊薬ゼリー・錠剤 その他()
 ●いつその方法を覚えましたか?
 初体験以前から 一度妊娠してから 結婚に際して 結婚後 出産経験後
 その他()
 ●避妊について主導権をもっているのは? 夫 あなた

Q 27. 中・高・大学を通じて、恋人ではないけれど少し気に入った異性の友人
 についてお答え下さい。
 ●何人と、何をしたか。

時代別人数 したこと	中学時代・人数	高校時代・人数	大学時代・人数
手を組んで歩く			
手を握り合う			
キスをした			
体を愛撫しあった			
その他()			

Q 28. 結婚前の性体験についてお答え下さい。

- 性体験の伴う恋愛をしましたか。 はい いいえ
- はいの方は何人と？ ()
- 同棲をしましたか。 はい いいえ
- はいの方は何人と？ (人) 期間 (, ,)

Q 29. 夫はあなたの婚前体験を知っていますか。 はい いいえ

- その時の夫の態度は？

Q 30. 婚前妊娠の体験がありますか。 有 無

- 有の方は何回ですか。 () 回
- その結果 流産 中絶 未婚で出産

Q 31. 婚外交渉の体験について。 有 無

- 有の方は、結婚何年目ですか。 (年目)
- どういうきっかけで？ ()
- どういう人と？ ()

●期間 (年間) つづいた。

●それらについて罪悪感がありましたか？ はい いいえ

●いいえと答えた方 その理由は？ (単数回答)

夫に対して不満があるから 恋愛の結果とめられないことだったから
夫には関係ないことだから 性交は自由だから その他 ()

●はいと答えた方 その理由は？ (単数回答)

夫にすまないと思うから 道徳的にすべきでないことだから
夫に秘密を持つのは気持ちのいいことではなかったから 世間に知れたら
自分の立場がなくなるから 夫に知れるとおそろしいから
その他 ()

●夫はあなたの婚外交渉に気がついていませんか？

いる うすうす感じているらしいが何もいわない 全く気づかない
その他 ()

●婚外交渉の最中、夫との性行為は？

平気で続けていた 何とか続けられた かえってさかんになった
全くできなかった その他 ()

Q 32. あなたの行ったすべての性交の中で、最も大きな快楽を得たのは次のどれですか。初体験 婚前交渉（具体的に）（

結婚生活で（具体的に）（

婚外交渉で（具体的に）（

Q 33. 結婚生活の中で中絶体験がありますか？ 有 無

●有りの方は何回行いましたか？ （ ）回

《ご両親について》

Q 34. ご両親の夫婦仲は？（単数回答）

男女の仲として親密 さっぱりした友人ふう 父はワンマン、母はつくし型である 互いに無関心で好き勝手なことをしている 父の影がうすく、母が家庭を牛耳っている 性格があわずよくケンカをする その他（

キ
リ
ト
リ
Q 35. あなたは（父）（母）（どちらかに○）と、性に関して話しあったことがありますか はい いいえ

●はいの方はどんなことについてですか？（複数回答）

赤ちゃんがどこから生まれるかについて 男女の体の違いについて 月経について 性行為について 避妊について その他（

●それは何歳ごろでしたか？ （ 歳）

Q 36. 両親に性生活があることを知ったのは、いつ、どんなときですか？

●その時の感想は？

Q 37. あなたは自分の婚前性体験について（父）（母）に打ち明けていますか。

はい いいえ

Q 38. あなたは自分の性生活について（父）（母）に助言を求めていますか。

はい いいえ

●それはどんな内容ですか。

●東京、四谷に生まれた人小さなミーティングスタジオが、いま、利用者を募集している。

地下鉄(丸の内線)四谷駅を出て、神宮外苑にむかう並木道は、緑の少なくなつた都心にはめずらしい落ち着いた散歩道。迎賓館のむかい側にある学習院初等科の真うら、マンション離宮ハイム一〇四号に、そのミ

ーティングスタジオは開設されている。

女性の自主的なグループの活動が、趣味や研究の分野で目立ってきているが、集いや発表のチャンスをもとんとするとき、困るのが会場や集會室。そんな場をさがしている方は、利用するといひ。

●ここは、たった六坪・十二畳ほどのスペースだが、カーペットを敷きつめた落ち着

いた部屋で、二十名ぐらいの机とイスの設備がある。机やイスのセッティングは事務局がやってくれる。一見リビングルーム風、静かで明るくて居心地がいい。何かに集中するにはもってこいの場だ。

大きくなくてよい、小さな集いのために、ビジネススタイルでなく、ファミリーであたたかい雰囲気——そんな個性をそのス

集まりたいが集まるところがない方のために

ベースに光らせてゆきたいと、事務局では言っている。

●小さな自主講座も開催●

このミーティングスタジオの企画・運営を行っているのは、(有)アンティ。女性だけの会社である。

カルチャー産業が生涯教育を商品化してゆくご時世だが、ここでは、押しつけ型のカルチャーではなく、何かをしたいひとが

企画を出しあつて、自分たちが創り上げながら、学びや楽しみの場を設けようとしている。

講座の回数も画一的に週一回コースではなく、集まったメンバーが出席しやすいように、時間設定が行われる。

●仕事をもつ女性たちや年配の方には、月一日か二回がよろこばれているし、このやり方ならとかく家に閉じこもりがちな主婦や高齢者の方々が、ムリなく趣味や講座に参加できるのではないかと、事務局では、

ワクにとらわれない講座のあり方を目下、模索中。見方を変えれば、趣味、習い事のライセンスをもちながら、活用してないひとの、いわば、収入を得るための場に利用できる。

ライセンスを休眠させている方、一度、声をかけてみることをおすすめしたい。

連絡先 〒160新宿区若葉1の22の15

離宮ハイム一〇四号

(有)アンティ(山本・鈴木)

TEL(三五五)五五五四

WIFE SCRAP BOOK

オマンジュウと オニマンジュウを 混同するな!!

わいふスクラップ帖

キリヌキ菌保菌者同盟

この前の本欄に「七つの顔を持つ㊦同盟」と書いたところ、七つの顔とは何かと聞いてお問合せ多数でしたので、ご紹介致します。

㊦その一〇ももちろん、全国
の婦人雑誌中、最も知的かつ
ユニークな「わいふ」の編集
を陰で支える頭脳集団なのだ。
㊦その二〇しかし「わいふ」
の台所は苦しい。編集企画コ
ンサルタントとして他の出版
社雑誌社のオアシキもかけ持
ち。

㊦その三〇タケちゃんマン
もあつと驚く恐怖の全日本奇
女連盟。

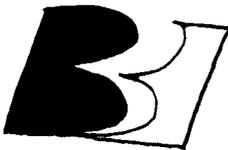
㊦その四〇椎名誠ファンク
ラブ（一七八号参照）椎名氏
は今、「けだるくあやうい三
十代主婦の読書生活」を調査
中とかで、㊦同盟も協力を依
頼されておりませう。数年来「浮
気と不倫の比較学」を研究し
てこられた椎名氏によれば、
「浮気は宇能鴻一郎、不倫は
立原正秋」の世界だというの
ですが、甘イネー。せいぜい
浮気の並と上じやないですか
この際女の立場から、これぞ
不倫文学決定版というやつを
パチッと決めてやろうぜ。貴
女の選ぶ不倫文学を㊦同盟ま
でお知らせ下さい。和洋、長
短編の別を問いません。

㊦その五〇以下は各保菌者
が勝手に㊦同盟の人脈を利用

して勢力拡大をはかっている
グループ。まずは、名古屋市
出身一保菌者とその夫が主催
する「名古屋不当差別を廃し、
中日V2を推進する市民連合
・死ぬノ タモリ」。何しろ
昨年の中日優勝の際、紅白ま
んじゅう三十箱を夫婦で配っ
て歩いたというんだからほと
んどどころか完全にビョーキ
この会から、わいふ一七九号
の記事に重大なミスがあると
このほど抗議が来ました。特
集レポート「母親はどんな時
子供を叱っているか」のD家
の部分に、「父親が子供の掘
ってきたサツマイモでオマン
ジュウを作る」とあるのは、
オニマンジュウの誤りで、こ
れを見ても、名古屋文化がい
かに軽視されているかわかる
とのこと。もっとも彼女
以外の保菌者は全員オニマン

ジュウなど見たことも聞いた
こともなかったのですが、名
古屋ではマツザカヤの地下に
も売っている名菓とのこと。
家庭でもかんとんに作れるそ
うですが紙面がないので、作
りたい方㊦同盟までお問い合
せを。

㊦その六〇北緯四十度以南
に知性と文化はない!! 北海
道を日本の中心にしよう運動
（札幌市出身一保菌者主催）
㊦その七〇四の字に対する
不当差別を廃し四号車、四号
室を作る会（名前に四の字が
つく一保菌者主催）



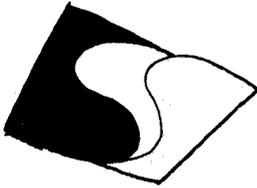
WIFE SCRAP BOOK

⊕同盟 閉絶絶賛映画 「原発切抜帖」

新聞キリヌキというのは、活字ジャーナリズムの中では案外大事にされてなくて、本家本元の新聞社でも、最近ようやく切り抜き資料の利用や公開を言い出したところですが、一足先にこれに目をつけ、大変ユニークなメッセージ「シネエッセー」として作られたのが、十六ミリ映画「原発切抜帖」。四十五分間、ただ次々と新聞の切り抜きがうつり、それに合わせて小沢昭一の、ちよっととほけていながら鋭い語りがついているだけのものですが、唯一の被爆国でありながらいつのまにか原発大国になってしまった日本の歩

んできた道、マスコミや庶民がどのあたりで、乗せられてしまったのかをふり返るための実にすぐれた資料となっています。昭和二十八年八月六日の広島を伝える新聞から始まるのですが、最初に原爆を報道した記事の小ささ（ベタで数行）が、何ともいえず恐ろしい。

フィルム貸し出しは三万円、また原発年表や原発地図などもつけたパンフレット（六百円）も販売中です。お問い合わせは、青林舎（港区西新橋二一八―十三、第一東京ビル、〇三―五〇四―一七〇六）まで。



経済誌も 注目する 教育産業の盛況

「日経ビジネス」誌に、このところ相次いで教育産業が登場していますが、いわゆる教育論と少し離れて、企業として見てみるのもなかなか面白いものです。

ガッケンの学習・科学でおなじみ、学習研究社は、独特の直販ルートについて、講談社、小学館など伝統ある同業者からは「かつき屋」とバカにされながら、出版のワクにとらわれない事業の多角化が成功して、業界トップの売上高を誇り、出版業界としては初めて株式を上場しました。（五十七年十一月二十九日号）また通信添削「進研ゼミ」

の福武書店も総売上二六九億円、岡山県では中国銀行に次ぐ高収益企業。教育+文化、エディカルチュアをめぐり、教育部門で吸い上げた利益を出版に回し、純文学不振の声もどこ吹く風と、文芸誌「海燕」を創刊する盛況ぶり。（同十一月十五日号）

学研も福武も、いち早く主婦に目をつけ、訪問販売や自宅添削の労働力として利用した点が共通しています。主婦の利用といえば、例の公文も、少し古いのが七月十二号に登場。公文式について最も聞かれる批判は「計算力ばかりで、思考力、創造力が失われるのではないか」というものですが、創立者公文公氏は「学校や教師は、人格教育などと出来もしない逃げ道を目指さず、キチンと学科をこそ教えるべき。個々の生徒の水準に合わせて、充分理解させながら進めてい

WIFE SCRAP BOOK

けば、自然と学習に興味もわき、非行もなくなる」と、全国二万余の教室、百万人をこす受講者をバックに、ゆるぎない自信。たしかに下手すると管理教育になりがちな、人格教育を過信するよりは、「しっかりと学科を身につければ、宿題や予習も少ない時間で済み、余った時間でいくらでも創造性を伸ばせる」という現実主義的哲学も説得力があります。とかく意欲的な教師というと、あれもこれもと、高く広い理想を追いますが、公文氏のは、教師の守備範囲を思い切ってテクニクスのレベルに切り下げてしまい、それ以上は子供自身にゲタを預けているところが面白い。わいふ読者諸姉には公文教室をやってらっしゃる方も多いのでぜひ内部からのレポートをお寄せ下さい。

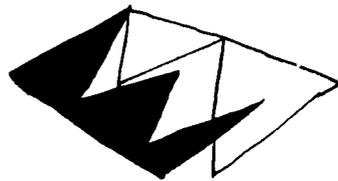
ところで、一七八号でお知

らせた春日井市、水道方式の手作り教材を使った教師の「担任はずし訴訟」は支援グループの機関紙なども出て、長期戦に備えているようです。（機関紙申し込み等、春日井市篠木町五一二四六五、井上満さんまで）。この水道方式というものが、たかが算数の教え方と軽く言えない、重い苦難の歴史があるんですね。数学会教育協議会の出してる「数学教室」という雑誌の五十七年十一月号を読んでおどろいた。しかし歴史教科書が、偏向しているかどうかというものは、なかなか難しい問題ですが、算数や数学を、どういうふうに教えたらい子供が理解しやすいかなんてことは、右も左もない話。日本の子供が皆数学得意になって、どんな優秀な技術を開発して、産業スパイなんてセコイことなしにIBMにキツニー一発な

んで筋骨、文部省さんだってお嫌いなはずないでしょうに日本の教育を牛耳っているものは、おおよそ科学的（科学的なら当然民主的なのだ）とはど遠い精神なのだということがまたわかって暗たん。

それにしても、水道方式が一種の思想運動みたいな方向へ行かないで、あっさりショーパイと結びついてりや今頃はあっちこちに「水道塾」ができて売上高ウン億円、なんて考えるのはやっぱり「教育的」じゃないのかなあ。

新たに若いメンバーも加わってゼッコーチョー!! 筑波おろしも何のその、㊦同盟は今日もゆく。皆様からのお便り、お声をお待ちしています。お電話は、亀山和枝
〇四七三―四五一七八六二
お手紙は、四方愛子 〒277
柏市増尾三六一二八 まで



サークル だより



● 渋谷サークルだより

町中ジングルベルが鳴りひびき、そろそろ野菜が高くなり始めた十二月二十二日、当サークルは田中耐子宅にて例会兼反省会兼忘年会を開催した。出席者は当家の主田中他高野、恒川、根本、桜井、西井、木村、子供七名のほぼオールメンバー。田中料理長の指示の下、各自持場を決めて手も口も休みなく動かし乍ら、出来上りました大御馳走?! まずは御披露致しましょう。色どり良く野菜と鳥肉のたっぷり入った筑前煮。オクラと梅肉のあえ物。紅鮭がひいき目に入り、さっぱりと美味しい鮭寿司。子供向

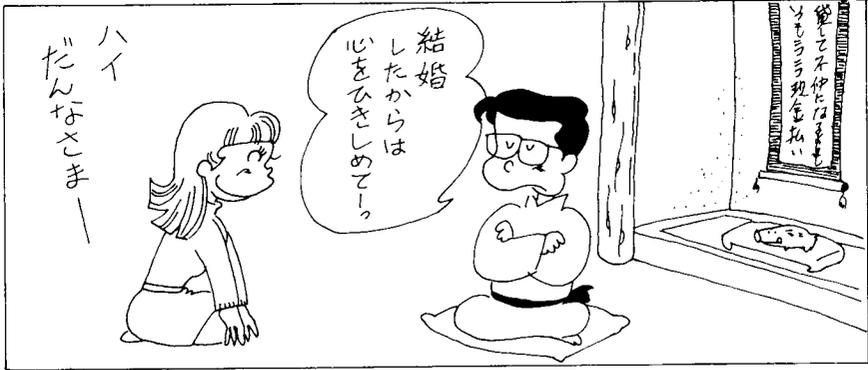
きにはハム、野菜、卵とシーチキン入り特制サンドウィッチ。だしの利いた澄まし汁に香の物、デザートにはフルーツポンチ、最後の締めくくりに当家特製プロの味、チーズケーキの登場!! ワインで乾杯してからは、舌の調子も最高潮で大皿に盛り分けた作品の数々はあっという間に……。後はご想像のほど。本当に労働(?)の後の一杯と腹一杯はイイデスネ。さてそろそろ真面目に本題に入ったのは又しばらくの後、今年の反省と今後の方向性について、を話し合った。

。二年後の自立を目指し、せっせと用意をしつつある冷静沈着型。
。自立路線をヨチヨチ歩きだけれど兎に角歩み始めた、悩ゆも多い頑張り型。
。切り札はたくさん有るけれど、未だ機熟さず、ゆっくり着実にニコニコマイペース能ある鷹型。
。持てる力に磨きをかけて明日を夢見る、しっかり勉強に身を入れる努力型。
。自分の子供をもっと知りたい、そして何でもやってみたい。ファイトを秘めて見つけ続ける、めばえ育成型。
。遠い将来の夢を現実にするべく、風にゆれる柳の如くいつも悩める小羊型。
。今出来る事を出来ることから歩み始めて行きたい、そしていつも行動し続けていたい急行乗り遅れ型。
等々々(メンバーの皆さん、無断で型に押し込んでごめんなさい)それぞれ求める処が違うので、まとめは仲々難かしいがそれ故に、いろいろユニークな意見があつて楽しい。ここでもう一步井戸端から玄関口、更に奥を目指して、今年一回目の例会は共通の話題「親として」を取り上げ「子供をどの様にはめるか」を話し合う事に決定した。無意識に叱ったり、ベタベタしたり、子供から見れば、親とは随分勝手な者と思うだろう。子供をどの様に評価しているだろうか、何を基準にはめるのだろうか、と考え直して見たい。他にも色々今後の希望や意見もあるので、一つずつ検討し決めて行きたい。そして少しずつ当サークルのオリジナリティーを出していけたらと思つて

(木村記)

禁止禁止

栗田 義孝



「ギヤデイ稼業」は

雨ニモマケズ

日暮明子

■ キヤデイは 歩いて稼ぐ

雨ニモマケズ、風ニモマケズ、山越エ、谷越エ、白イボールヲ追イカケル。これが私達の仕事、キヤデイ稼業だ。

キヤデイをするまで、ゴルフとは聞いてはいたが、どんなスポーツかはまったく知らずゴルフをするお客さんのバッグを持ってくっついて歩く仕事だろうぐらいに思っていた。しかし、新聞の折り込み広告などを見ると、「ハウスキヤデイ募集、給与十三万〜二十

万」といった様に、他のパート収入などと比べるとキヤデイの収入は格段の差があり、この高収入には何か裏でもあるのかなと疑ってみたりもした。他の就職口を皆断わられたせいもあって、わけもわからず飛びこんでみたキヤデイ稼業だが、高収入にはやはりそれだ

けの仕事の内容がある。

私が入ったゴルフ場ではアルバイトは別として、本キャデイには一カ月間の研修期間がある。その間に、ゴルフの基本的な知識や、ゴルフカート運転の仕方、コースの順路や様子など、キャデイとして一通り知っておかなければならないことを教えてくれるからゴルフを全く知らなくともそのうちに覚える。むしろ、初めから知っている人の方が稀で大多数が知らない。その一カ月の研修期間の給料はわずかでしかないが、一カ月の研修期間を乗り越え、本キャデイとなり実際にお客さんについてコースに出るようになれば収入はぐんと上がる。足腰に自信のある人はまずだじようぶ。なにしろキャデイの仕事は第一に歩くことなのだから。

私のいたゴルフ場ではラウンド給制度を取り入れており、その月のラウンドの回数でおのずと収入が決まる仕組みになっている。普通ゴルフというの

は、四人一組でやる競技で、四人で一ラウンド回って競技するのが基本となっている。通常のゴルフ場では二十七ホールもっていて、小さいところは十八ホール、大きいところは三十六ホールある。九ホールが一コースになっており、従って二十七ホールあるゴルフ場だと三コースあることになる。その九ホールが半ラウンドで十八ホール回ると一ラウンドということになる。

今、四人のゴルフに付いて、一ラウンド回ってきたとしてみよう。コースを回り終えると、四人のお客さんにキャデイ料という伝票を切ってもらい、それがその日の収入となるわけだ。四人で一ラウンド回るとキャデイ料はいくらと決っており、これが標準となるが、平日などでゴルフ場がすいている場合は、つくお客さんが三人や二人と減る時もあり、二人や三人で一ラウンド回ったのと四人で回るのは、キャデイ料もぐっと差がでてくる。もちろん、四人の場合は四人分もらえるので

一番高いわけだ。その他に、ワン・ハーフと言って二十七ホール回る場合や、これは稀にしかないが、二ラウンド、三十六ホール回る場合もあり、その間、お客さんの方も抜けたり入ったり、出入りも激しいから、その日、その日の収入はかなりの違いがある。そんな毎日の積み重ねでその月の収入が決まる。

こんな具合だから、キャデイさんによって収入は千差万別なのだが、標準的な私の場合を例にあげてみよう。まず第一にゴルフは野外でやるスポーツだから、季節によってキャデイの収入もかなり左右される。特にシーズオフと呼ばれる冬季の一月から三月ぐらいまでは期待できない。寒いのでお客さんも少なく、その上、日が暮れるのも早いといったふうで、出勤しても働けない日もあり、がまんの時節となる。この時期の収入は、十四、五万程度(税込み)。その反対に、ゴルフシーズン到来の四月から五月、九月から十月あたりは猫の手も借りたいほどめちゃく



ちゃんに忙しく、十九万から二十万は稼げる。

これは私の場合で、トップのキャディさんとなると、その上をいくが、扶養家族が一人もいないと、税金の方も収入に応じてがっぼりともっていかれる。収入には幅があるが、一年を平均してみると税込みで、十七、八万といったところだ。休まないで普通に働いていれば、この程度の収入は得られる。

■週末は大忙し

ゴルフ場の大小によってキャディさんの人数もまちまちだが、私のところには百名近くのキャディさんがいて、ゴルフ場としては中堅といったところだった。私達の朝の出勤は、早番、中番、遅番の三つに分かれていて、順ぐりにまわるようになっていく。ゴルフ場のバスもその時間に循環し、お客さんをまず駅で乗せてから、キャディさ

んを随所で拾ってゴルフ場まで送る。

普通、早番というと帰るのも一番早く帰れるのだが、この稼業の場合は違って、早番で出勤すると帰りは一番遅くなる。その理由は、早番で行くと早い時間にコースをスタートするたため、ゴルフファも一ラウンドで打ち切らず、ワン・ハーフ、二十七ホール回ろうということになる。そのため上がりも一番最後になってしまうわけだ。その反対に遅番で行くと、スタートする時間が遅いため、一ラウンド回っていると、時間切れで、それでおしまいということになる。だからキャディさんも早く仕事じまいということになるわけだ。

早番だと、朝早くから夕方遅くまでコースに出っぱなしで、大変疲れる。しかし、稼ぎ屋のキャディさんにとっては稼ぎ時で、ワン・ハーフを何回行くかで収入はだいたい決まり、一ラウンドばかりでは、身体も楽なかわりにあまり稼げない。しかし、これも例外

があつて、お客さんに用事があつたり、年をとつていて体力的にも無理という時は、早い時間でも上がつてしまふし、遅くスタートしても、ゴルフ好きのお客さんは暗くなるまで回るから、そんな時には、本当に最後っぺになつてしまふ。

土曜、日曜はゴルフ場も稼ぎ時のため、早番の人数も多く、出勤時間も平日より早いため大忙しとなる。私などは、会社のバスが通る場所まで自宅から三十分もかかるので、日曜の早番だと、六時には家を出なければならなかつた。ここがキャディ稼業のつらいところで、土曜、日曜に家族の者とのんびりと過ごすというのは夢で、入社するときに、土、日、祝祭日は必ず出勤できませんね、と確認を押される。皆が暇な時にこちらは一番忙しいので、土曜、日曜、祭日には、アルバイトも総出で、一ラウンド回り切るにも平日よりずっと時間がかかる。キャディさんにとつても、休日に子供と一緒に遊

んでやれないことが一番つらいことだが、そんなことを言つていてはキャディ稼業はつとまらない。

出勤は早番、中番、遅番と分かれて、いるが帰りは一人一人違つてくる。自分で車を運転している人やオートバイで来ている人は、早くコースから上がれば、それでその日の仕事は終わりだから、さつさと家に帰れる。しかし、足の早い連中は足止めされ、会社のバスの出る五時まで待たなければならぬ。なにしろ大概のゴルフ場というのは、交通の便の悪い山の中にあるため、おいそれと帰るわけにはいかない。バスは数本しか通らないし、乗り換え、

ひっ換えしなければならぬし、おまけにそのバス代だけでもばかにならぬといふわけで、二時、三時に上がつてしまつても、足の早い連中は待つてゐる。

その点、車のあるキャディさんはうらやましい。二時、三時に帰れば、家の仕事もたつぷりできるはずだ。待ちぼうけ組は、それでも、もう慣れつてゐる。仕事はコースを出れば終わるだから、お茶を飲んでしゃべつていてもいいし、テレビを見てもいい。一杯飲んでひと寝入りしてもいいわけだ。皆それぞれ好きなことをしてゐる。



■ 四つのボールを追いかけて

私達の仕事はコースに出た時から始まる。それぞれ専用のゴルフ・カートという電動式のカートを持っていて、自動的に動く仕組みになっているから、キャディさんはカートを操作するだけでよい。昔は手動式だったり、キャディバッグを一人一人かついだりしたのだから、その頃の労力に比べれば、今ではずっと楽だ。

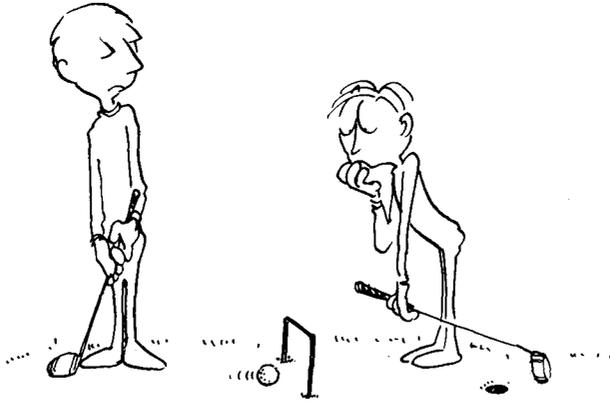
しかし、大きな競技のある時は、今でもバッグをかついで歩く。ゴルフ・カートには四つのキャディバッグが積めるようになっており、朝、スタート用紙をもらい、そのゴルフアのバッグを探してカートに積み込み、それぞれのコースのティグラウンドに降りていく。そこで初めてお客さんとの顔合わせとなり、良くても悪くてもその四人のお客さんと今日、一日中付き合わなくて

はいけない。

さて、そこでめでたくティグラウンドで四人のお客さんがティシヨットを行いスタートする。ゴルフという競技は、広いフェアウェイを、小さなボールを打ち打ち進めるスポーツだから、なにせ打ったボールを追っていかなければ、事は進まない。勢い、キャディの仕事も、ボールをゴルフアと一緒に追って



いくことで、お客さんの後に、ただくつついていけばいいのだろうなどと、甘く考えていたのは大まちがいで、常にお客さんを先導していかなければ、ちっとも前に進まないのである。何しろ四人のゴルフアがそれぞれ、あちこちに打つ白いボールを、四つとも追いかけていくのだから大変だ。その間ゴルフアは、ウッドやらアイ

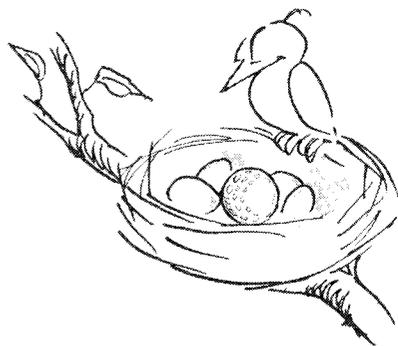


アンのクラブをその個所に応じて換えるから、その入れ換えやら、時によっては、離れているお客さんに、適当なアイアンを選んで持っていかなければならない。だいたい距離によって使うクラブというのは決まっているから、見当をつけて持っていく。ゴルフによって、自分の打ったボールがどこへ飛んでいったかもわからない人がいて、「キャディさん、僕のボールどこへいった」と聞いてくるし、うっかりボールの方向を見落したりしていると「キャディさん、ちゃんと見ていてくれよ」とどやされる羽目になる。

ティグラウンドから打ったボールを、最終的にはグリーンという、きめの細かい芝生の上の小さなホールに入れるわけだが、ここでキャディさんは、パターというクラブをゴルフアに渡す。このグリーン上でゴルフは一番神経質になっていて、キャディさんはお客さんの癪に障らないよう、泥のついたゴルフボールを拭いて回ったり、ピン

というホールに立っていた旗をお持ったりして、静かにしていなくてはならない。ここでもお客さんの中にはキャディさんに、スライスするのかフックするのか、とボールの曲がり方を聞いたりする人もいる。

なにしろお客さんは、キャディさんは何でも知っている、と思っているから、ぼんやりしていたんでは、「このキャディは何も知らない」と叱責をかうことになる。だいたい、キャディさんに何でも聞くゴルフというのは、腕が未熟だからで、自分の失敗でもキャディさんのせいにするから、始末が悪い。手がやっと入るくらいの穴に、やっと四つのボールが入ったところで、一ホールが終わる。一コースが九ホールあるから、同じことを九回くり返さなければならぬ。一番ホールを終えて、次は二番ホールに移るわけだが、一コース回るとかかる時間は決められていて、標準は二時間半以内ということになっている。



つまり次々に四人一組となったゴルフ達がスタートするから、コースには前にも後にも競技するグループがないで、一組でもプレーの遅いグループがいると、後続の組がえらく迷惑することになる。列車と同じで、一組でも脱線するとあとが全部進まないのだから、ゴルフ場でも商売にならないわけで、プレーの時間というのとはなかなかわるさい。ボール探しをして手間どっていると後ろから来るキャディさんに「なにもたもたしてんのよ」とどやされる。また前にもプレーする組があって、一緒に回っているゴルフがせっかちだ

ったりすると、まだ前の組が近くににいるのにクラブを振り回し、打ち込んだりする。

この打ち込みというのが怖い。ゴルフボールというのは小さいかわりにとても固くて、それを鉄の棒でひっぱたくのだから、万が一このボールが人間に当たると大けがをする。ボールは百メートル以上も飛ぶのだから、前のグループとはこれだけ離れていけばだいたいようぶという充分な間隔をもって、進まなければならぬわけだ。だから、前のグループに打ち込まないように間隔をもって進めるのも、キャディさんの仕事の一つで、せっかちなお客さんには注意しなければならぬ。

ゴルフ場というのはこういう危険がいっぱいあり、特に狭い日本の場合、コースが入り組んでおり、どこからこの白いボールが飛んでくるかわからない。ゴルフ場の混んでいる土曜、日曜には、その危険率が高い。「毎日、戦場に来てると思えばいいんだよ」ある

キャディさんは言う。ボールも肉の厚いお尻にでも当たればたいしたことはないが、頭や顔にでも直撃を喰ったら、致命傷にもなりかねない。

■雨ニモマケズ

ゴルフというのは天気が良い日であればいいのだが、毎日お天気というわけにはいかない。雨の降る日もあれば、風の吹く日もある。それでも私達は仕事を休むわけにはいかない。お客さんの方も、取りやめればキャンセルを取られるし、コースを全部回らず途中で上がっても、グリーン費は同じ様子がっぼり取られるから、おいそれとやめるわけにもいかないのだ。

雨の降る日は大変だ。かっぱを着ても、ひどい雨だと役に立たず、下着までぐっしょり。カートにはカートカバーをかけ、クラブを濡らさないようにしなければならぬし、お客さんの使

ったクラブのヘッドは泥だらけ、白いボールは泥ダンゴで、それらの泥をぞうきんでふきとらなくてはならない。雨だからお客さんの方も天気の良い日とは違って、うまくボールが打てず、気がたつており、キャディさんへの風当たりも強いし、仕事も晴れの日の倍もある。冬の寒い日に、暖かいキャディ室から雨のそば降る寒い外に出ていくのはつらい。特に年をとったキャディさんには、寒さがこたえることだろう。

「今日みたいな雨降りには、家の中でこたつに入って寝ていたいね」

「どしゃ降りだから、お客さんも早く上がればいいのにな」

「こんな雨の日に外で働くのは貧乏人だけだよ」

皆、結局は大雨の中を出ていかなければいけないことを知っていても、ついでちが出てくる。「そら、今日も稼ぎに出かけるぞ」景気をつけて、勢いよくカートを雨の中にくり出す。一旦

コースに出れば、いやが応でも一ラウンド回らなければならない。

キャディになる以前には、ゴルフというスポーツは雨の日はやらないのかと思っていたが、とんでもない。台風が来る様な悪天候の時以外は、雨の日でも関係なくゴルフはやる。ゴルフ場がクローズといって店じまいするのは雪の降った時で、大雪が降った時はさすがにゴルフはやれない。この時はキャディさんも休業かと思ったら、またもや大まちがい。なるほどキャディさん稼業は休みなのだが、その代わりに雪かき作業が待っており、こちらの方がコースを回るより何倍も疲れる。

ゴルフ場の芝の上の雪は、ただ放って置いてもなかなか消えないため、早く雪を溶かすには灰をまいたり、長靴で雪ふみをしたりしなければならぬのだ。雪ふみの情景は壮観で、ちょうど文明堂のカステラの白クマさんみたいに、何十人ものキャディさんが両手を広げてつなぎ合い、フェアウェイの

端から端までずらりと勢ぞろいし、号令とともに長靴の足をひきずって歩く。そうすると、積った雪の上に幾重もの線がひかれて、早く雪が溶けるといふ寸法だ。

あとは灰まきといって、ほっかむりをして、肥種の一つらしい灰をまいて雪を溶かす。それを鼻の穴の中まで灰が入ってまっ黒になってしまうが、コース中にその灰をまいて歩くと、何しろ雪でクローズになってしまうと、ゴルフ場はあがったりで、なんとか早く積った雪を溶かそうと懸命なのだ。こんな時は、私達は土方と同じで、それはもう大変な労働だ。少しぐらい雪が残っていても、ゴルフ場はすぐに再開する。最近ではカラーボールなる便利なものが出来たため、少々の雪でもゴルフは出来る。オレンジ、ピンク、イエローのカラフルなボールが白い雪の上を飛びはねる。

毎日外で働く私達は、冬の寒い日もつらいが、それ以上に夏が厳しい。寒



いのなら何枚でも着る物を増やせばいいのだが、暑いのは防ぎようがない。ゴルフ場というのは広々としてはいないが、芝地で木陰というものがほとんどないから、ぎらぎら照りつける太陽からの光がよがらないのだ。私達は真夏でも長袖の制服を着て、つばのある帽子の上から顔が出ないように深くスクarfを被っている。

知らないお客さんは、「キャディさん、長袖を着てちゃ暑いでしょう」と同情してくれるが、月に一度か二度、ゴルフをするお客さんとは違って、私達は毎日長時間外に出ているのだから、半袖など着ていたらすぐに紫外線にやられてしまう。紫外線から身を守るために長袖を着ているわけだ。

そんな照り返しのところを一日中走り回るわけだから、大変なエネルギーを消耗する。水分もある程度補給しなければ、脱水症状になるが、かといって、水をがぼがぼ飲み出すと、途中で止められず、あぐくの果ては身体がだ

るくなって腹をこわしたりする。水あまり飲みすぎず、かといってある程度補給せねばならずということで、キャディさんは水を入れた水筒を冷凍庫で氷らせて、すぐ溶けないようにタオルを巻いてコースにもって出る。その水筒の水を時々飲むと、溶けた分しか飲めないし、冷たいということかかなりのキャディさんが利用していた。とにかく夏の太陽の下でのこの仕事は、相当の体力を消耗することは確かだ。

■ 紫外線との悪戦苦闘

キャディ仲間には独身の女性が多い。文字通りの独り暮らしの女性も多いが、夫と死別したり、故あって離婚したりで、子供を一人、二人と養っている女性もかなりいる。キャディ稼業をしていけば、二人ぐらいの子供を養っているだけの収入は得られる。子供が小さくても、ゴルフ場には保育園があり、

安い費用で朝から晩まで預ってくれるから安心して働ける。会社側としても、夫や子供の用事がある女性達は、しょっちゅう、何やかやの用事があって休むことが多いのに対して、独り暮らしの女性にはあまりそういった雑事がないし、女一人で子供を育てている女性にしても、生活がかかっているため出勤率がよい



という理由から歓迎している様である。彼女達にしても、体力さえあれば別に技術が要るわけでもないし、他の仕事と比べればずっと収入のいいキャディ稼業で、充分生活をしていけるのだから好都合だろう。

では他の女性達はどうかというところ、皆、それぞれの目的があって仕事をしている。当節は物価も高く、世知辛く、夫の給料はほとんど生活費に消えてしまふという状況は、どこでも同じだから、家を建てたいとか改築したいとか、多額のお金が入り用な時は、やはり妻が働かなければ手が届かないわけで、様々の目的をもって皆働きに来ている。「キャディやっているから、こんな高い化粧品の一つも買えるのよ」そう言いながら、どこそこの化粧品のあれがよかったとか悪かったとか、情報を交換しながら、皆顔めりに余念がない。何故キャディさんが、人一倍化粧品に関心があるのかというと、その仕事柄のせいかもしれない。何しろ年がら

年中、外で紫外線を浴びているため、ちょっと油断すると、しみ、そばかすのたぐいがあったという間に増える。特に夏は直射日光が強いため、肌の弱い人は一ぺんでやられてしまう。私などはあまり顔に気をつかわないほうなので、最初の夏に予防策をこうじなかったら、もう顔中がそばかすだらけになってしまつて、あとの祭だった。もちろん帽子とスカーフは被るが、毎日、長時間紫外線を浴びると、肌に大きな影響をおよぼすようだ。なかには、お化粧などぜんぜんしないたくましいおばさん連中もいて、十年も素顔で通すと、もう年季の入った顔になる。ちよと太陽の下で働く農民の顔のように、深い味わいがある。

しかし、大半のキャデイさんはこの紫外線と悪戦苦闘しており、ちよとでもしみやそばかすを増やさない、とやっきになっている。コースから上がってくる休けい時間は、キャデイ室はあつちでもこつちでも、キャデイさん



が化粧直しに余念がない。キャデイさんに厚化粧の人が多いのも、こういつた理由が背景にあるからだろう。

私達はまたよく食べる。肉体労働をしているため、しょつ中お腹がすくのだ。朝のバスの中では、おにぎりを一つ、パンを一切れと、朝食を食べそこなつたキャデイさんがばくついている。何しろ、キャデイさんにとって朝は戦争で、子供の弁当づくり、朝食の仕度

と、特に早番のときは時間がないので、自分が食べている暇などないのだ。家族の多いキャデイさんなどは、毎朝五時起きで、朝の仕事を始めるが、何しろやるこが山の様にあるため、洗濯も途中でほつぽつて出勤するといった状態だ。朝が早い土曜、日曜の朝のキャデイ室は、カップラーメンやおにぎり、サンドイッチをほおぼるキャデイさん達でテーブルは一杯、といったスタート前の風景である。

とにかくこの商売をしていると胃が悪くなる。食事をするのに、じつくりと時間などかけていられないからだ。昼食は各自まぢまぢなのだが、休けい時間は三十分か四十分ぐらいしかない。その間に、カートを充電するためカート室まで運んだり、午後のスタート時間の十分前に出ていかねばならないといった具合で、食事の時間は正味十五分ぐらいしかないから、のんびりと食べてはられないのだ。特に雨の降る時は、カップを脱いだり着たり時間に

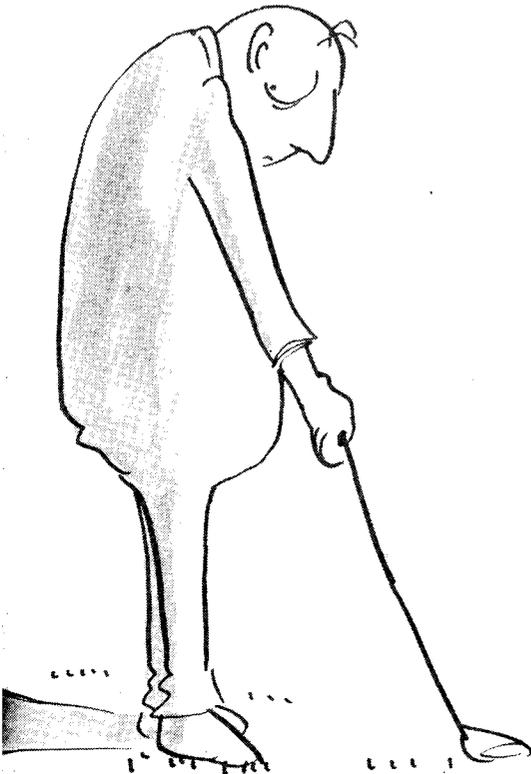
がとられるため忙しく、食べ物をよくかまずにのみ込んだりするから、身体にいいわけがない。

そういった具合にいつでも私達はあわただしく過している。やつとのんびりできるのは、コースから上がった時間で、そこで私達はいろいろなものを店びらきする。パンやおせんべい、まんじゅう、カステラ、みかん、りんご、バナナといろいろ持ちよってお茶を飲みながら食べる。夏だと酒好きの連中は缶ビールを冷やしておいて、舌つづみをうっている。その他にも私達はしょっ中何か口に入れてはいる。コースに出ている時、重宝するのはアメ、長時間コースに出っぱなしで疲労している時、アメ玉一つを口に入れると疲れが回復する。そんな時は本当にアメ玉様々なのだ。

キャディさんはよく歩き、よく食べるということから、二、三年もすると身体つきががっしりしてくる。特に足腰には筋肉がつき、たくましくなっ

てしまう様だ。入った当初は重労働だから一時やせるのだが、慣れてくるにつれ、動く以上に食べるので、そのうちたくましい身体つきになってしまふ。もちろん毎日キロも歩くので健康にはよい。この仕事をする前はよくかぜをひいていたが、今ではかぜひとつひかないというキャディさんもいる。歩くのは結構なことなのだが、歩きすぎるのもいけないらしく、五、六年も

続けているとそろそろ職業病がでてくる。足の膝に水が溜ったり、かかとを痛めたり、アキレス腱を悪くしたり、腰痛になったりと、そんなことでけっこう病院通いをしているキャディさんも多い。足を痛めても長いこと休んでいるわけにもいかず、また仕事を始めるため、なかなか回復しない様だ。



■ 欲と根気の 二人連れ

キャディ稼業は他の職業より収入が多いことは多いが、難点もある。私達がよく足で稼ぐという様に、その日、その日の浮き草稼業でもある。病気で休んだりすれば収入はほとんどないし、有給はあっても、その日の収入は出勤した日に比べれば、雀の涙ぐらいのものだ。また季節に左右され、冬の月から三月あたりはお客さんの入りが悪いため、出勤しても仕事がないこともあり、収入もがた落ちになる。ポーナも年に二回は出るが、これも一月の収入にはほど遠いといった状態で、十年いようが一年いようがたいした変わりはない。また退職金というものはないに等しい。

キャディにはほとんど組合がないから、長期的な改善は成されていないといった状況だ。

「わたしやこの仕事は日雇いと同じだと思っっているよ」

「ポーナスなんか当てにならないから頼りになるのはこの二本の足だけさ」

少しでも多くの収入を得るためには、結局コースをできるだけ回って足で稼ぐ他ない。十年働いているキャディさんも、入りたてのキャディさんも、老いも若きも条件は皆同じだ。黄金の二本の足に頼る以外ない。しかし、ここであせってがむしやらに働くと、必ず身体を悪くする羽目にもなる。身体を悪くしたら元も子もなく、お払い箱で誰もめんどろをみてくれない。



「この稼業は欲を出したらきりがないよ。病気しても会社がめんどろみてるわけでもないし、身体が資本だからね。せいぜい大切にしなくちゃ」

適当に働いて適当な収入を得ているのが一番安全だろう。何しろほとんどが家庭をもった女性だから、家に帰ったら帰ったで家の仕事は山ほど待っている。五時のバスで帰られればまだいいのだが、遅くなって六時、七時のバスになることもある。家に急いで帰れば子供達がお腹をすかせており、腰をおろす暇もなく、夕食の仕度、後片づ

け、洗濯と続き、やっと一息つけるのは九時か十時近く、そして寝るのも十一時近くになる。翌朝はまた早くて、睡眠時間は正味五、六時間。定休日は原則として週に一度はあるのだが、その日はやるのがめいっぱいあり、かえってゴルフ場に働きにきていた方が楽というくらいで、身体を休める暇もない。

こんな生活を三年も続けていたら身体をこわすのもあたり前。傍目でみていて、いつも収入のトップクラスの猛烈キャディさんほど、ある日突然に倒れるというケースが多い。その点、お祖母さんがいて、家事をやってくれるというキャディさんはうらやましがられている。そういう人がいない場合は、ほどほどにやっていたほうが結局は長続きするようだ。

キャディの仕事はサービスマンなのでいやなこと多い。ゴルフとは紳士のやるスポーツで、紳士ばかりが来るのかと思ったら大まちがいで、最近では

猫も杓子もゴルフをするからいろいろなお客さんに出つくわす。クラブをほろり投げる人、たたきつける人、スコアが悪いとキャディさんにやつ当たりする人、マナーの悪い人、こちらが悪くなくとも、お客様は神様ですの標語通り、がまんしなくてはならない。中にはキャディさん泣かせの悪評の高いゴルフ場もいて、何人ものキャディさんが泣かされたという人もいる。とかくお客さんというのは勝手だから、はいはいと言うことを聞いていたほうが無難のようだ。そして、注意する時も、相手の気げんをそこねないようにやりわりと。なかなかうまくいかないが、お客さんは遊び、キャディは仕事ですというのが、上からのお達しなのだ。お客さんも楽しくゴルフができれば、チップのひとつもくれるから、そこはキャディさんの腕次第というところだろう。「キャディ稼業は欲と根気だよ」ある古株のキャディさんがのたまわっていた。(え・松本圭以子)

わいふバックナンバー

- 165号 夫の貞操 (三五〇円)
- 167号 主婦の近所づきあい (同右)
- 168号 悪妻 (四五〇円・以下同じ)
- 169号 母親が働き出すとき子育ては?
- 170号 変貌する夫たち
- 171号 ただの女の防衛論議
- 172号 夫の成功は妻次第?
- 173号 女とお金
- 174号 主婦の再就職
- 175号 子どもたちの心がこわれて行く
- 176号 わたしの恋愛体験
- 177号 肉親の老いを見つめる
- 178号 女・からだの履歴書

送料は一冊二〇〇円、二冊二五〇円
三冊五冊三〇〇円、六冊九冊まで三五〇円です。十冊以上は編集部で負担致します。ご注文は編集部へどうぞ。(03) 二六〇一四七七

★情報コーナー

社員募集

女性による書籍販売促進会社ブックパワー(株)(一七九号のグラビアで紹介)が社員を募集しています。

☆本に興味があり、問題意識のある積極的な方

☆年齢不問

☆勤務時間は相談

☆居住地 東京近郊(特に埼玉県)にお住まいの方

☆若干名

☆なお、地方にお住まいの方で、ブックパワーの仕事に関心のある方は、お問い合わせください。

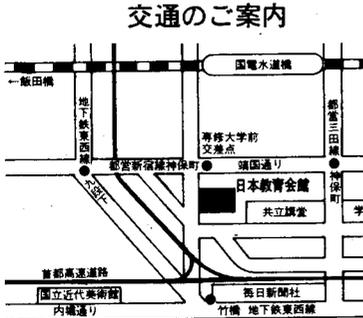
☆詳細は、東京都千代田区三崎町二ノ十三ノ五 影山ビルブックパワー株式会社
〇三―二三九―〇四五八
ベルマークなどへの
ご協力

ありがとうございます
一七九号でお願いしたところ、さっそくベルマークなどお送りいただきました。紙上をお借りしてお礼を申し上げます。

つけ加えますと、ベルマーク、養護学校の教育施設拡充一点一円。ロータスクーポン日本福祉協力会を通じ、世界の子どもたちの援助福祉用品の調達五万七千点で車椅子一台。使用済み切手二百枚でBCG一本。(消印を残して大きく切り取って下さい)
今後とも、長い目でのご協力をお願いいたします。

〒193 八王子市長房町七一八
一七九―三〇四 松本裕子
『パートタイムQ&A』
出版記念講演会
のお知らせ

題・「83女の時代とパートタイム」
講師・樋口恵子(評論家)・中島通子(弁護士)・河野貴代美(フェミニニスト・カウンセラー)



■交通：
都営新宿線・三田線「神保町」駅下車徒歩2分
地下鉄東西線「竹橋」・「九段下」駅下車徒歩5分
国鉄線「水道橋」駅下車徒歩10分

セラール
日時・二月六日(日)午後一時〜三時半
会場・日本教育会館(一ツ橋ホール) 四二二〇―二八三一
会費・千円
主催・国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女性たちの会。参加者合員に『パートタイムQ&A』(定価八百円学陽書房刊)を無料進呈

子連れ遊びの ガイド 「浅川実験林」のさくら

一七四号で「子連れ遊びのガイドブック」づくりにご協力下さる方を募集しましたが、二十七名の方が申し出て下さり、まずアンケートにお答えいただきました。現在内容を整理して、一冊の本を作り上げるために編集部でいろいろ検討しています。

しかしお寄せいただいたアンケートはなかなか楽しいもので、見ているだけでどこかへ遊びにいきたくなるようです。そこでまずそのまとめをご紹介します。じっさいに行ってみたレポート一篇（桜見本園・八王子市の小宅昌枝さん）を掲載することになりました。

これから毎号、子連れ遊び体験レポートを連載しますので、どうぞお楽しみに。そしてあなたも、せまい壁の中に閉じこもってばかりいないで、子供の手を引っ張って広いところへ飛び出してみませんか。

まとめ

●アンケートの設問はおおよそ次のようなものでした。

条件Ⅱ コブ付き・カーなし・亭主抜き・ウイークデイ

き・ウイークデイ

- ◎ 今まで遊びに行つてよかったところ
- ◎ これから行つてみたいところ
- ◎ 子連れでなければ行つてみたいところ

◎ 携帯品（何が便利だったかも）

◎ 自由記入

- 「行つてみてよかったところ」はやはり子連れですから、遊園地公園のたぐいもつとも多く、そんなに意外な場所があったわけではありません。でも中にはオヤと思つ少し珍しい遊び場もあり、公園にしてもずいぶんさまざまな所があることが分かりました。その中からいくつかご紹介してみます。

森林公園（西武線）

大泉交通公園（杉並区）

羽田空港・調布空港

子供の国（町田市）

電気通信博物館（千代田区大手町）

箱根小涌園こどもの村

横浜港・氷川丸

逗子運動公園（プール付き）

南戸塚プール（サウナ付き）

●「これから行ってみたいところ」も、またまた公園などが多いのですが、少し変りだねを紹介しますと、

千葉県マザー牧場

隅田川水上バス

広い野原

古川親水公園（葛西）

陶芸のカマ（親子で作れるところ）

など、など。

いちご狩り、ぶどう狩り、栗拾いは「よかった」ほうにも「行ってみたい」ほうにも入っていて、なかなかおもしろそうです。

●「子連れでなければ行ってみたいところ」……これがなんとなく悲しい感じ、閉じ込められた若い母親のタメ息が聞えるよう。

音楽会・演劇・映画・美術館

大きな書店

Lサイズの服を売っている店

ハトバス夜のコース

レストランでの優雅な食事

外国旅行

夜の繁華街（飲みたい）

能楽観賞

なかでも一ばん悲しかったのは、次の希望（空想？）でした。

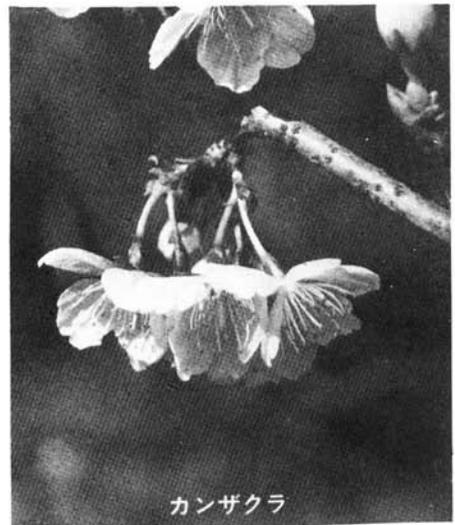
行先を決めず、電車にのってどこか遠くへ行きたい。帰りの時間を気にせず……。

夜など電車の走る音を遠く聞きながら、同じ思いに誘われた方もおいででしょう。

●「携帯品」これがやはり大変なんです。あげられている品物から「子連れ遊びの凶」を想像しますと、

肩にはできるだけ大きなショルダーバッグ、水筒。

バッグの中味は、ぬれタオル・かわいたタオル（いずれも数枚）おむつ



カンザクラ

昭和四十一年度、日本のサクラの老化和衰退を防ぎ、その復興をはかるため、農林省のサクラ対策の一つとしてサクラ品種の収集、保存、展示などのためにつくられたのがこの「浅川実験林桜見本園」です。

それだけに種類はあることあること！約二百種、二千本！

二、三月の早春に咲くカンザクラ、カンヒザクラをはじめ、三、四月に咲くマメザクラ、オオシマザクラ、ヤマザクラ、四月中旬には種類の多様な里桜類が咲き出します。

・紙おむつ・ポリ袋・折りたたみ傘
おやつ・弁当・おぶいひも・ビニールシート・ビニールふろしき・紙コップなど。

小さい子は折りたたみうば車にのせ、大きい子にはリュックと水筒をしよわせ、そのリュックの中には、着替え一そろい、おもちゃ、ノート、えんぴつなど。

どうみても命からがらの難民スタイルです。でもいいじゃありませんか、必要なものですから。必要なものは美しい、といったのは誰だったか？ そのつもりで元気に家を出しましょう。

今まで子連れでまったく遊びに行かなかったことがない、とか、一回でこりた、という答えもありました。くたびれたということと、人がイヤな顔するからということのようです。

確かによく新聞の投書なんかに、子連れの不作法な母親、あばれる子を叱りもしない、なんて書かれているけれど、その人自分が子供のとき、何して

いたんだらうと思います。日本人は昔はもつと子供に寛容で、「あばれなきや子供は病気だ」などと言いました。甘やかされながら日本人は、何千年来高い文化をちゃんと築いて来ているのですから。

勇気のある方は日本風でどうぞ。

しかしこの辺が限界でしょうか？

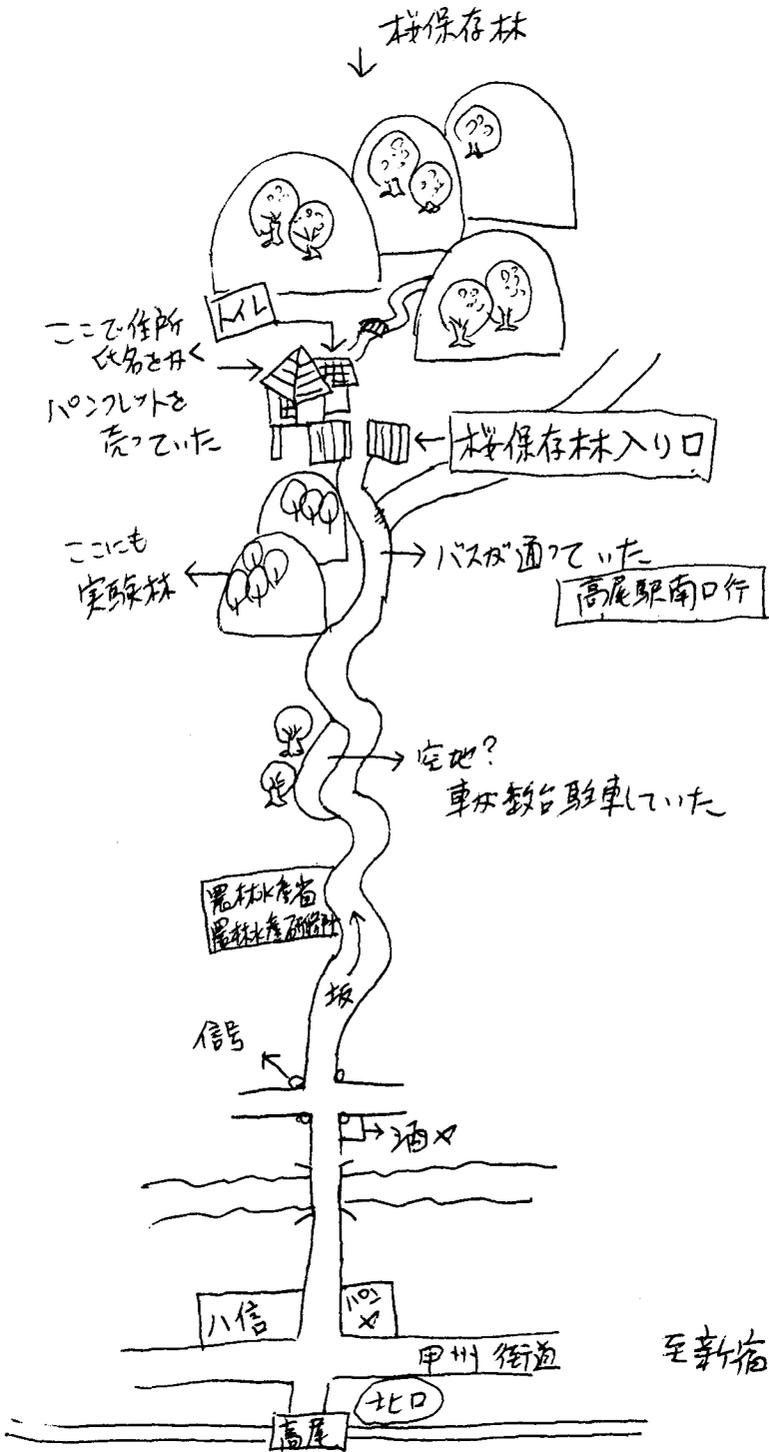
昔は子供が寄席や芝居にぞろぞろいだし、銀ブラなどといって夜の盛り場で見掛けることも少なくなく、飲んべえの父親が飲み屋へ連れて入ることすらありました。近ごろは教育的という配慮のもとに、子供がせまいところに入らぬように、子供が希薄になっているのでは？「かわい子には旅をさせろ」で、広い見聞こそじつは人間形成にもっとも大切なことであり、それを与えるのが親の役目だということが、忘れ去られているような気がします。では毎号おたのしみに。（和田好子）



カンヒサクラ



エドヒガン



林業試験場

「浅川実験林」の

さくら

小宅昌枝

場所は中央線・京王線高尾駅から歩いて十分から二十分くらいで、甲州街道を使えば自動車でも簡単に行けそうです。私設の駐車場はだいたい七百円くらいだと思いますが、実験林に行く途中に空地のような所があって、車が数台駐車していました。

私達（小学一年生の息子と二人）が行った時間は、お昼を少し過ぎていましたので、すでに見物を終えて帰ってくる人がたくさんいました。ウィークデーのみ（四時三十分まで）ということからか、中年婦人の二人連れ及びグループで語り合いながら散策を楽しんでいるという人達が多かったようです。高齢の夫婦連れもけっこう目につきま

した。

私も息子と二人連れだったのですが、遊びに行ったというよりは語り合いに行ったというべきで、思わぬ収穫を得ることができました。桜を楽しみながら歩いているうちに息子はだんだん饒舌になり、学校のこと、友達のこと、植物のこと、果ては怪獣のこと、話はあると何となくめんどろくさくなるのですが、この時はわりに楽しんで話し合う事ができました。そのあい間にもみごとに咲き誇った桜の花や、時折ふく風に雪のように舞い落ちる花ぶぶきにしぼし見とれてためいきをついたり喚声をあげたり。長々と続く道は親しい人や子供達とゆっくり語り合うのもってこいという感じでした。

途中何ヶ所かベンチと灰皿の設置された休憩所があり、ここで一服してお茶を飲んだりすることが出来ます。お弁当やおやつは原則として禁止されているということですが、順路をはずれ

た所で食事をしている人達もいました。桜の他に野草も豊富で楽しめますが、うっかり子供が摘み取ったりするとしかられますので御注意。

大勢で行っても山あり谷ありちょっとした広場ありで十分楽しめますが、私の印象としてはやはり親と子、あるいは家族水いらずで、子供をちよっぴり大人に見てあげて、親は子供の気分に帰ってお互い一歩ずつ近づいた立場で語り合うのが最高じゃないかと思えました。話がとぎれた時、桜の花がみごとに間を演出してくれますよ。

遅咲きの桜は五月頃まで咲いているそうです。

ふつうそらに咲いているのはソメイヨシノという種類で、私達はサクラというところかと思ひ浮かばないので、ここへ来るとサクラとはじつにバラエティに富んだ花だということが分かります。

新連載第一回

文・宮城道子

絵・西田淑子

近代恋愛婚姻史

理想的結婚の結末

森 もり

有礼 ありのり

阿常 おつねの巻





明治八年
二月六日
森有礼
契約結婚

明治政府の下で外交に、教育に活躍した森有礼の名を知る人は多くとも、その最初の妻阿常の名を知る人は少ない。まして世間を驚かす契約結婚が、どうして破鏡のうきめを見たのかは謎に包まれたままである。

近代恋愛婚姻史のトップバッターを、この二人につとめてもらうことにした。

有礼と阿常（常が本名なので次から常と記す）は明治八年二月六日に土砂巻く大風の中を築地は精養軒の近くの大きな西洋館（後に商法学校——一ツ橋大学——になった）の森邸で挙式している。

当日の東京日日新聞によると「戸外の正面に御国旗大小四本をぶちがひに組みて上に建て、俗に西洋飾りの門松と唱うる如く、軒にほうづき提灯飾り（中略）椿の花葉を柱巻のようにしなかなか美事な飾りつけ……」と紹介されている。今でいうなら緑のアーチに国旗のぶちがひ、さしずめ小学校の運動会だが、その式場に定刻きっかりに小礼服の有礼が薄鼠色のウエディングドレスに白いベール、左手に花束を抱えた常の手をとって現われたのだから、二百人は越したといわれる参会者も思わず見とれてしまった。

本邦最初の西洋流儀の結婚式であった。

その日より先、一月二十六日の読売新聞に

婚式請柬

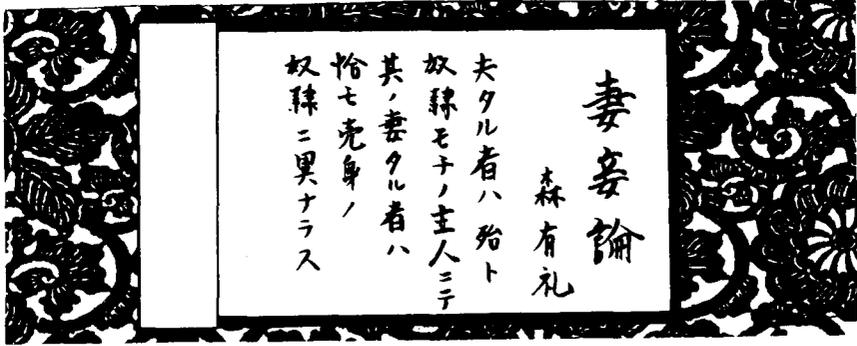
来月六日午前十一時御来臨被下度恭請

東京 木挽町 森 有禮

廣瀬阿常

と、結婚式への招待状が載せられている。招待状を当人たちの連名で出すのも異例なら、新聞社に送りつけるのも異例であるが、有礼にしてみればこの結婚はどうしてもマスコミに載せる必要があった。

この結婚は「契約結婚」であった。



妻妾論

森有禮

夫タル者ハ殆ト

奴隸モノノ主人ニテ

其ノ妻タル者ハ

恰七売身ノ

奴隸ニ異ナラス

婚姻契約

現今十九年八箇月の齡に達したる静岡県土族広瀬阿常、同二十七年八箇月鹿兒島県土族森有禮、各々其親の喜許を得て互に夫婦の約を為し、今日即ち紀元二千五百三十五年二月六日即今東京府知事の職に在る大久保一翁の面前に於て結婚式を行ひ約を成し、双方の親戚朋友も共に之を公認して、茲に婚姻の約定を定むること左の如し

第一条 自今以後森有禮は広瀬阿常を其妻とし、広瀬阿常は森有禮を其夫と為す事

第二条 為約の双方存命にして此約定を廃棄せざる間は、共に余念なく相敬し相愛し、夫婦の道を守る事

第三条 有禮阿常夫妻の共有し又共有すべき品に就ては、双方同意の上に非ざれば他人と貸借或は売買の約を為さざる事

右に掲ぐる所の約定を為し、一方犯すに於ては他の一方官に訴て相当の公裁を願うことを得べし

紀元二千五百三十五年二月六日

東京に於て

森 有禮

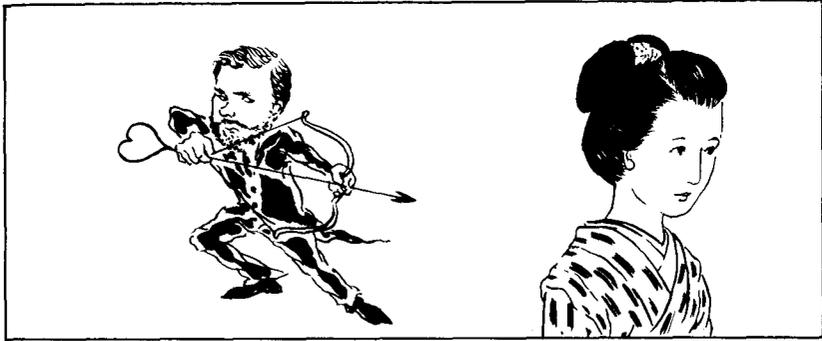
広瀬 阿常

証人 福沢 諭吉

立会人が読み上げ、証人の面前で兩人が署名する、に至っては参会者の方が唸ったことはまぢがないが、実は契約結婚はこれより先に有禮の部下が有禮の証人でやっている。当の本人は遅れをとった分だけ派手にマスコミ大宣伝でやったわけではない。

「明六雜誌」に妻妾論を書き、一夫一婦主義を主張し、婚姻法の試案を作ったりした有禮の社会に対するアピールだったのだ。

この婚姻契約をみると、いささかツツパリ気味ではあるものの、それでもみごとに男女同権思想に貫かれている。しかしこの契約結婚わずか十一年で終止符が打たれている。有禮に関する資料は「妻、阿常の側から契約は破られた」と口を揃えているが、詳しい事情



は一切記されていない。一枚の写真も残されていない。

離婚の翌年有礼は子爵となり同時に華族・岩倉具視の娘と再婚している。しかも今度は伊藤博文が中に立ち、家と家の結び付きの結婚である。十二年前の契約結婚、当人同志の結婚とは一八〇度の転換である。

この二つの結婚の間に、どのようなドラマがかくされているのだろうか。

明治初期の外交史と教育史に大きな足跡を残した有礼と反対に、常は突然暗闇の中から絹のドレスで現われ、そのまま消えてしまっている。まるで明治維新に狂い咲いた「男女同権思想」と同じようにその結末はあっけなく、はかない。

確かに森家は細心の注意を払って常の足跡を消しているし、有礼の死（暗殺）後出版された数々の有礼に関する研究書も亡き彼に敬意を示し私生活はノータッチである。なにしろ、あの教育勅語のフィクサーなのだから、うっかりハマなことを書いたら大変なことだ。しかし、たった一行で葬り去られた常のことをどうしても知りたくなった私の前に、ポツポツと常の姿を伝える資料がみつかり出した。断片的な資料をつなげて、「私なりの常」を創造してみよう。

有礼のユニークさは、大真面目で日本人留学生に対して「日本語をやめて英語を国語とせよ。ただし英語は難解なので改良し、ジャパニーズイングリッシュとせよ」とか「人種改良の為にアメリカ婦人と結婚せよ」とか、いささか珍奇きりんな発言をすることでも知られている。

しかし有礼はウケたくて言っているのではない。鹿兒島藩士の子として生まれた彼が十九歳の時、藩命によって密航同然の形でイギリスへ留学させられ、以来五年近くをロンドンやアメリカで学び、広く西洋の事情を身に滲ませた結果の発言なのである。島国日本の文化の遅れや、欧米の人々の体格の良さを見るにつけ、若い有礼はひどいショックとコン

プレックスに傷ついたにちがいない。

有礼がひとときわショックを受けたのは、日本と根本的に違う女性の地位の高さであった。欧米の夫婦のあり方を見るにつけ、日本の女性にもっと教育を……と考えずにいられなかった。その証拠に帰国後女子教育の大切さを説きまわり、津田梅子らの留学や、学制頒布に努力している。

ブレーキがかからず突っ走る傾向はあっても、明治初期に彼ほどの外国通、教育通は他になかったのは事実である。

さて常については先の読売新聞の続きに「この阿常というは静岡県土族広瀬某の長女にて、開拓使の学校にあつて漢学、英学ともよほどできる人であるといふ」とある。

開拓使学校は現在の東京・青山と広尾辺りの広大な土地に北海道開拓者養成を目的に創立されたもので、畜産・菜園・農業など技術を教えており外国人教師も多くかなりエキゾチックな雰囲気であったという。女生徒はミシン洋裁など習い、当時としてはモダンな校風といえよう。有礼は女子教育振興の一環としてこの学校へ足繁く来ており、ワシントンの母の肖像やリンカーンの写真を贈っている。

おそらく常は成績優秀な女生徒として、有礼に紹介されたか、接待役になったかで二人は出会ったのだ。有礼はたちまち恋をした。

西洋仕込みの有礼は体も大きく、すっかり身についた洋服姿はダンディでさえあった。一方常は小柄で目元の涼しい、美しい顔立ちであったという。

有礼の常への恋は激しいものだった。その証拠に当時古市静子と婚約していたのだが、それを破棄している。「女の味方をする筈の人が、なんですか」と女医の草分け萩野吟子が森の所へ押しかけ、その不徳義をさんざんなじってかけ合い、静子の身が立つようにした、という事件があった程だから、有礼の常への思い込みはひと通りではなかったのだと察せられる。

しかし常の気持ちはどうだったのだろうか。

いかにミシン洋裁や英語を学んでいるとはいえまだ明治も明けたばかり、まだ女性が自分の心に正直に生きられる時代ではないし、まして身持ちの堅い士族の娘となれば、滅多に思うことを素直に表わせるわけではない。

西洋流の有礼の性急な求婚に、深く考えることもなく流されていったのではないだろうか。

しかし有礼はちがう。今をときめく政府高官が一介の（薩長でもない）士族の娘と結婚することの意義をはっきりとつかんでいた。

明治の元勳たちが遊女や芸妓と結婚したのとはわけがちがうのだ。彼らは地下活動中のまだ名もない頃に結ばれているし、結婚はしても性的にフリーな生活だから結婚に大した意味を与えていない。しかし有礼は、今まで自分が事あるごとにくり返し述べて来た開化論の延長上に自分の結婚が位置することを、しっかりと自覚していたのだった。

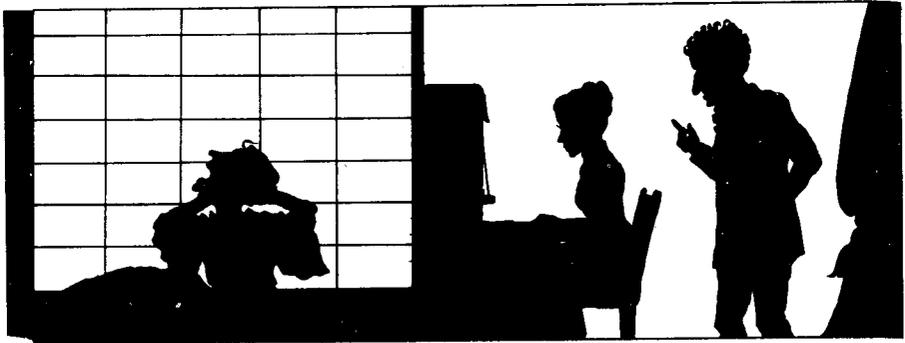
常の中に有礼は自分の主張を開花させる可能性をみつけていたにちがいがなかった。

さて、どんなに西洋風のモダンな式だったとはいえ、一夜明ければ常の生活は明治の普通の女とかわるところはない。それどころか男尊女卑のメッカ鹿児島藩士であった舅姑と同居であり、小姑まで一緒であった。

息子の有礼が進歩的だからといって老父母までが、それまでの封建社会の家風をすてられるものではない。ちんぷんかんぷんのサツマ弁、乾す洗濯物も竿を別に、食事も男性が先、という男尊女卑の生活が常に押し寄せてきたにちがいない。

有礼が親孝行であったという記録があるが孝行であればあるだけ、反面で嫁に負担がかかるものである。モダンな洋風思想の青年の外と内の違いに、例え疑問をもったとしても一度嫁いだら帰れないと覚悟するのが明治の女であった。開化思想の持主の父親に育てられた常は芯の強さで家風に馴染む努力をした。

有礼は過酷なまでの正義感の持主であり、徹底した理想主義者だった。初念を曲げない



人で思い込んだら最後、百人が百人違うといっても自分だけ初念を貰いた人だと記録がある。写真に残る有礼を見ても峻厳とも言う表情でこちらを見すえている。

後年再婚した寛子夫人が、毎晩着衣を改め乱れのない正式のディナーをし、洋食疲れの夫人がお茶漬を望んでも「滋養のあるのは洋食だから決してお茶漬を出してはいけない」とコックを呼んでいつける。夜は妻のために西洋カルタを四・五十分し、その後は玉突きに出かけ十二時にはキチッと門を入る毎日で判で捺したような生活でした……と語っているが、自分にも他人にも妥協を許さない強い性格の持主だった。

新妻の常への特訓が始められた。有礼の理想とする妻は、自分の意見もち、夫と対等に社交界に出てゆける女だった。

女子教育の先覚者有礼にとって常は格好の生徒であった。有礼自身が身につけてきたマナーを教え、洋服を着慣れるように教え、日常生活も夫婦の周囲は西洋マナーですごした。外人女性を家に招き、世界史の講義をさせた。イタリア公使からピアノを買いうけ、外人に習わせた。常は開拓使学校時代にピアノにふれていたもので、やさしい曲なら弾いてみせたりもできた。しかし、ピアノのレッスンは外人の先生もあきれ程早く中止になる。中風で寝たきりになった姑にとって、嫁の弾くピアノの音は苦々しいものだったのだ。

有礼が男女同権を説いていればいるほど、常の生活は針の筵だったのではあるまいか。常は有礼に言いつけられたことは熱心にやった。学べと言われれば学んだ。慣れると命令されれば慣れようと努めた。

常には有礼の要求することの本当の意味などわかりはしなかった。江戸時代の武士の妻を見て育った常は夫の命令に逆らわず従うことで、妻の役目を果たしていただけであった。常が正式に外交官夫人として社交界に登場したのは十年七月。有礼主権の各国公使饗応の宴からだ、英・米・露・伊・仏・独の大使公使相手に堂々とホステスをつとめている。有礼の指導と外国婦人から学んだマナーと会話。わずか二十一歳の常がどんな思いでこの大任を果たしたことだろう。たかが開拓使学校出である。士族の娘として学んだものと併



せても諸外国の社交界の花形と肩を並べて対等に行動することが、どんなに重荷であったか想像に余る。

明治を日本で暮らしたクララ・ホイットニーの日記がある。思いがけずここに常についての記述が見られる。それをつなぎ合わせると、常は外国大使婦人たちとの交際に時間を相当に割いている。箱根小旅行、観桜、歌舞伎、その上夫の仕事上客の出入りが多い。上役下役への心配りもきつい。クララの見常はやさしく優雅でキュートで、その上茶目っ気もユーモアもある、なかなかの外交官夫人である。

有礼の好みなのか大きなパーティのためにパリへドレスを注文したこともある。どんな宮廷にでも着て出られるほど高級なドレスで外国育ちのクララでさえ目を見張るほどのものだった。クララも驚いている、森家は家具もドレスも骨董品も素晴らしい、さぞ大変な支出だろうと。

明治十二年から十七年、足かけ六年にわたり有礼はイギリス大使として家族を伴ってロンドンに移り住んだ。

当時はヴィクトリア女王の時代、イギリスが近代に入って最も華やかな時代である。毎年三、四度行われる大公使謁見に小柄な常はパリやロンドン仕立てのローブデコルテを着て、居並ぶ社交界の貴婦人たちにひけをとらず堂々と、その役目を果しつつづけた。もう謁見にも慣れ始め、最初の頃の悲愴感は薄れかけていた。

ロンドンに発つ前クララに向い「私はちいさくて色黒、やせっぽちだからローブデコルテなんて似合わないわ」とグチをこぼし、居合わせたイギリス婦人に「女王引見なんだから当然でしょ」と軽くないなされてショックを受けたことも、出発当日の新橋駅で見送りの人々と挨拶するうちに緊張と心配で思わずワツと大声で泣き出してしまったことも、もう夢のようだった。昔から慣れることに早い常は、この伝統の固りのようなイギリス社交界の水にも自然に慣れはじめていた。が一方有礼の頑固ぶりは一向に癒えず大礼服着用のパ

ーティにわざと小礼服で出席したりする。その意図はわからないが、おそらく大国何スルモノゾという感慨を見せたかったのではないだろうか。

外交を勤めれば勤めるほど有礼はわが国の国力のなき、外交下手を身にしてみても感じはじめていたにちがいない。有礼にはそれが我慢できない。まして一國を代表しているとなればその国際力の弱さにカリカリしてくるのだ。

訪歐する伊藤博文との会談でも有礼は国力の増強を中心に語り合った。結果として当然のように有礼は伊藤らの主張する国家主義、軍国主義へと傾斜していった。かつて珍ちきりんな発言を大真面目にした有礼は又しても大真面目で「国家のための臣民養成」へと転換していったのだ。

十九歳で渡欧するまで培った封建的氣質が、凶らずも二度目の渡欧生活で開花したといつては間違いだらうか。

一方、常の生活も厳しかった。日本では政府高官夫人でもイギリスに行けば、まだまだ田舎者扱いをされる。住み込みの家庭教師にさえ「フン」と鼻を鳴らされる。幼い息子たちの養育、慣れない風習、外交官夫人としての社交界での重責。有礼の自分への期待と信頼を理解しているつもりで常は何とか夫を失望させたくないと頑張った。しかし公務に忙しく欧米中をとびまわる有礼にすれば常の苦勞は理解できても慰めることができない。

後妻の寛子夫人の証言に、有礼は家族に何か言いたい時は頭の中で理路を考え、無言に、近い一言で伝えたとある。

異国で辛いこと寂しいこと、訴えたいこと、甘えたいことが山程ある妻が、夫の無言に近い一言で慰められるものだろうか。

常はもう夫の思いのままに教育され、唯々として有礼のタテマエだけの「男女平等」思想の実験台に甘んじていた昔の常ではない。

イギリスに来て常は、有礼の「男女平等」が、どれほど付け焼刃の、表面的なものだったかを痛感したに違いない。有礼の愛していたのは生身の女としての常ではなく、ムリヤ

りに自分の理想にはめこうとする生きた道具だったのだ。家の中の生活すら、まるで女王謁見の控室そのままの日常だったではないか。

常にとつて見上げるほど大きかった有礼の存在は、いつしか色あせたモノクロの男になってしまったに違いない。

そんな常に初めて、生きる実感を味わう日々が訪れた。

常のロンドンでの外出はすべて馬車であった。大使館付きの馬車の馭者は身分は一応役人ではあったがまだ若い平民の青年だった。常はひとりで出かける時や子供連れの時、この青年と話を交わすことが多くなった。

流暢とはいいかねるが常が話すと小鳥のさえずりのようにきこえる英語、外国人には二十歳そこそこに見える小柄な体つき、そして権柄づくのイギリスの貴婦人には見られないナイーブな態度。青年馭者は常に対して憧憬といたわりの混った親しみを抱いたに違いない。

常も家庭教師とやり合った日、有礼が他人のように見える日に馬車で息抜きに出ることが多くなった。二人はいつしか愛し合うようになったのである。

妻と馭者との恋愛を知った有礼は、一時は逆上したに違いない。しかしことを荒立てては外交官として致命的である。自分の立場を考えて形だけ許すことにし、本国への帰国を願いだした。伊藤内閣は有礼を文部大臣として迎えた時でもあり、帰国は思いがけない早さで実現した。「森家の馭者と駈落ちし、一時は有礼も許したが……」と記録にある。

帰国後、「ロンドンでスキャンダラスな行為があり……」と知れわたり、「某大使夫人が紅毛碧眼の子を生んだ……」と噂が流れるに従い、ついに十九年離婚に至っている。

常は巷の噂通り混血児を生んだらしい。明治十七年、帰国した年の暮に生まれた長女、安。イギリス名アンに通じるこの長女は、息子二人に続いた初めての娘なのに秘かに養女に出され、有礼の再婚時に再び遠くへ養女に出されて消息を絶つ不自然さがその証拠であらう。



一夫一婦を固く守った謹厳実直の見本のような有礼にとっては許しがたい裏切行為だった。日本の将来をかけたともいえる同権結婚が妻の不貞によって汚されたのである。

日本の初の外交官史を裏から支えた常の行動は一切評価されずに終わった。女は犠牲になることによってのみ評価される時代に（今でもそうだが）常の行動は、ふしだらで淫女と評されても当然だった。

噂は噂を呼び離婚前から別居していた常の行く先々で小石となって戸を叩いた。世間の指弾の中で、常は次第に精神の均衡を失っていく……。

有礼は当時、「教育のない日本の女にあんなことをした自分が誤りだった。女は離縁されないという保障を受けたので軌道を逸し、自分ほとんど目にあつた」と秘書に語っている。この皮相な言葉は彼がどれほど現実の常を、いや女を理解していなかったかを明らかに示している。

有礼はたしかに、自分の理想である一夫一婦を文字通りに守ったのだろう。しかし日常生活の中でやさしい思いやりも、いたわりも、愛の言葉もなく、体質の底には鹿児島男尊女卑をしっかりと身につけた男、観念として理想を追うことのみ急で、現実の女を、真のパートナーとして愛することを知らない男を、女が愛することができるだろうか。有礼の言葉には、反省も、ましてや悲しみの一かけらも見られない。高飛車で権柄づくな自己正当化があるだけである。

有礼も不幸な男なら、常の恋愛の結果も不幸なものだった。自立して生きる道の開かれていない女に、真の恋愛の自由はないからである。契約結婚の結末は、明治の男女のギャップをそのまま示している。

やはり常は絹のドレスのまま、暗闇の彼方に消しておいた方がよかったのかもしれない。

くずかごの唄(II)

奥井登美子著

「わいふ」の古い読者なら著者のことをおぼえていらっしゃる方もあるだろう。巻頭を飾る「ウーマンリブも楽じゃない」は、

「わいふ」一四三号に掲載されたもの。嫁ぎ先の土浦の旧家、菓屋の女主人であるお姑さんのリブぶりを軽快なタッチでつづったものだ。

リブバアさんの頁にはじまって、この本を読む人は、頁ごとに吹きださずにはいられない。P.M.の濃度を身をもってためしなくては「色素風呂」に入り、みるみるうちに全身青オニのように染まったり、ユズ湯代りにグレープフルーツを使ったり、実に楽しい文章なのに、その大半は、旧家の嫁として舅姑の死をみとり、地域文庫を開き、土浦の自然を守る市民運動にかかわり、そして薬剤師として働く日常の中から生れたのである。

軽快なタッチの中に、しみじみ人生を考へさせる、ユニークな随筆集である。

筑波書林 一二〇〇円(田中喜美子)

東大一直線

伊藤 悟編著

この本が出たとき、書店ではどこに並べたらよいか迷い、受験参考書の中に入れた本屋もあるときく。確かにこのタイトルからは、東大合格極秘情報でも盛り込まれた本かな? とも……。しかし内容はまるで違う。これは東大を目指して一直線に、わき目もふらずに進んで来た七人の人間が、目標通り東大に入り、或いはゴール寸前で、自分という人間の「おかしさ」に気付き、そういう自分との苦闘の過程を吐露した記録なのだ。

七人とも判で押したように共通しているのは、小さい頃はよくできるいい子で、小学校の高学年には自分から進んで有名進学校に通い、有名受験校に張り切って入学し、

いわゆる「いい学校」の価値観に染まりきって東大を目指していくことである。外側から見れば、「何とも羨しい」とおもしろいのも、この生々しい手記を読むと、そういう「教育」の恐しさに身震いするのではないだろうか。

そしてその庄巻は伊藤悟の語る自己史である。彼は、信じ難いほど完全な優等生であつただけ痛恨の思いは深く、いま必死でその大きな損失を補うべく、受験体制の魔手から子供たちを守ることに生の証しを求めているようだ。

いまの教育のありようを「どこかおかしい」と感じながらも、現実にはしかたないと巻き込まれている多くの人たちに、この惨めな勝利者たちのなまの姿は、きつと強い衝撃と深い示唆を与えずにはおかないであろう。

三一書房 一〇〇〇円(早川裕子)

母親が仕事をもちとき

久田 恵著

「母親だろうが、女だろうが、人間働くのが当り前よ。ことさら言いたてることないわ。」とつっぱってみても、当り前が通らぬ世の中。女が働くこと、母親が働くことは、カンカンガクガクの議論の種だ。

著者も、働かなければならない経済的理由を抱えながらも、子供をあずけて働くことに迷い、不安をいだいて保育園に子供をあずけて働き始める。その保育園で、彼女は「ことさら女の自立や主婦の生きがいについて論じ合う場所とは無縁なところで日々を暮らし……けれど、誰もが、家庭の中で子育てに専念するだけではおさまきれないエネルギーを、胸の内にもつふつとたぎらせるように生きて」いる母親達と出会い、母親が仕事を持つことの意味、さらに、人間が働くことの意味をつきとめていく。「自宅で和文タイプを打っているある母親は言う。(仕事)唯一の社会に自分がかかわっている窓口みたいな、そんな気がするのよ。やっぱり辞められないわね……」

いるある母親は、働くということとは、女にとってもおなかが空いた時に料理をつくることと同じくらい自然で当然なことだと思おうと言う……教師をしている母親が言った。仕事の場所はキラキラしているのよ。」

本書は、子供を抱えて働く女には何よりの励まし書であり、また、根っこを失ない空転しているかに見える「女の自立論ブーム」にうんざりしている諸師には、爽やかな解毒剤としてお薦めの書である。

学陽書房 一二〇〇円 (山本真理)

男たちよ、元気かい？

クリスチアーヌ・コランジュ著 寺田恕子訳

パリの街角のカフェテラス。シャンソンを聴きながら、うっとり愛を語りあう……。あこがれの国フランスの男たちの本音が書かれてるとあっては、ミーハーならずとも思わず手にとってみたくなるというもの。

第一線の女性ジャーナリスト、クリスチアーヌ・コランジュが、フランスの男たち数百人に「ご機嫌いかが？」とインタビュー。仕事、女とのかかわり、セックス、子ども、遊び、などなど、鋭い感覚とエスプリとでまとめたレポートである。(一年で

よくもまあ取材したもの)

フランス人というのは、元来、フェミニストなんだろうね。きつと。フランスの「女性の権利」省なんて、日本ではひっくり返ったってできっこないもの。

ともあれ、この本の中で、彼らは、女と共にどうやったろうまくやっていけるのかを、わりあい真剣に考えているのだ。生まれ変わるもしたら、(考えてみるまでもなく)男に生まれたいと断言する彼らだが、女の地位向上のためには、力を惜しまないままでいい。ただし、自分の利害関係までは侵さないという条件つきで。

なんて勝手な、と怒るなかれ。要するに、女をほめたり、けなしたり、自分を責めたりなだめたり、いいたいこといってやるわけ。その中ではっきり見てとれることは、フランスの女と男との力関係が明らかに変わってきていること。男が女をえらぶのではなく、女が男をえらぶ。男が女を捨てるのではなく、女が男を捨てる。いまや男女関係のイニシヤティブをとるのは女なのだ。

日本の男たちにプレゼントしても面白いと思うよ。

早川書房 一二〇〇円 (渡辺雅子)

主婦が事業を始めるとき

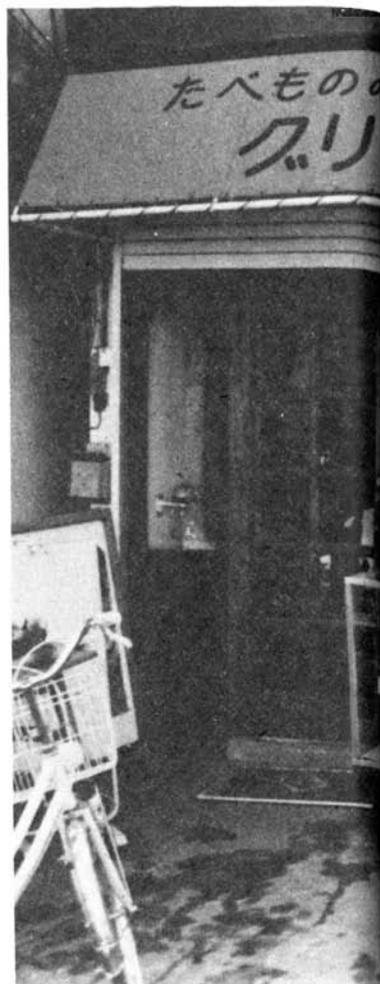
—— グリンピースの話 ——

片山美奈子

主婦たちが共同で食堂を経営する。自分たちで出資し、自分たちで運営し、自分たちの給料を自分たちで支払う。そんな店が神奈川県相模原市に生まれ、一年以上が経った。今でも試行錯誤の毎日だというたべものやグリンピース。その歩みをたどってみよう。

新宿から小田急線で一時間余り、首都圏のベッドタウンとして開けた新興





いま、いろんなところで、いろんなしごとを始めだした主婦たち。わいふのグラビアでは過去一年間、自立をめざして歩み出した主婦たちの姿を紹介してきた。

グラビアで見ればかっこいい。しかし一つのしごとをスタートさせ、持ちこたえて行く毎日は、トラブルと問題の連続だ。次から次と押しよせる、トラブルをくぐりぬげ、かきわけ、片づけて進んで行く、その積み重ねでようやくしごとがみえる。

いちばん難しいのは外部の問題ではない。互いに考えの違うメンバーが集って、一つのしごとをやって行く、そ

こに最大の難関がある。内輪のゴタゴタで空中分解してしまつたグループも少なくないのだ。半ボランティアの組織の難しさである。

女たちが集つてしごとをして行く上に、どこにどんな、おとしあながあるだろう。この至難のリポートに、△わいふ▽はあえて挑戦してみたい。

どんなグループでも「内輪のもめごと」を明るみに出すのはうれしくない。そのためらいを乗りこえて取材にに応じて下さつたグループは、後に続く女たちのために、という意気に燃えている、本物のいい女たちの集りである。

住宅街といえど今ではどこでもおなじみの風景だ。マンモス団地とそれを取り巻く新興住宅、緑の公園と集会所、そして大小のスーパーと競い合うさまざまな小売店や食堂。そんな商店街の一角に、食品マーケットととんかつ屋にはさまれて窮屈そうに立っているのがグリーンピースだ。

店頭の古ぼけた木の机の上にはジャガイモやタマネギが置かれ、『無農薬野菜三百円』と書いた紙切れが風にはためいている。日によっては手作りのお菓子の袋が並ぶ。小さなショーウィンドウを飾るのは、本物そっくりの料理見本ではなく手作りの人形やアクセサリー類である。

入口を入ると、右手にカウンター、その中が調理場、左手には四人掛けのテーブルが二つ。袋ものやエプロン、人形など手作りの手芸品が作者名と定価を記した札をぶらさげて壁面を飾っている。

玄米定食 六百円

スパゲッティ 五百円
 ドライカレー 五百円
 おにぎりセット 三百五十円
 チャーハン 三百八十円
 壁にはそう書かれたメニューが貼り出されている。
 定食の献立は曜日毎に変わる。ある木曜の玄米定食の献立はこんな具合だった。

社会へ開く窓

店の間口は狭いけれど、グリーンピースの事業の間口は広い。

手作りのパンやケーキも売る。手作り手芸品が社会的評価を求める場でもある。低農薬米、よつ葉牛乳などの共同購入の窓口でもあり、無農薬野菜、ニガリ豆腐など安全な食品や本物の味の普及の拠点でもある。ときにはリサイクル品も扱う。主婦らしい多角経営の店なのである。

一九八二年にでき上った運営の指針

ポテトコロッケ、野菜サラダ、いんげんゴマあえ、つけもの、みそ汁、ごはん。
 ここにはミニスカートのピチピチしたウエートレスも、白い服のコックさんも見あたらぬ。色とりどりのエプロンをかけたお母ちゃん風やママ風の人二、三人調理場を行ったり来たりしている。

『グリーンピースの会規約』を見てみよう。

- 〈目的〉この会は女の自立と相互扶助を図りながら、ひらかれた地域作りを目指して文化的、経済的活動を行う。
 〈事業〉この会の目的達成のため次の事業を行う。
- (一) 女の自立のため、地域に職場と仕事を作り出す。
 - (二) 安全な物資を供給する。
 - (三) 生活に有用な施設及び機会を設



ける。

四 生活の改善と文化の向上を図るための催しを行う。

五 事業推進のための研修、学習を行う。

六 その他、会の目的にそった諸事業を行う。

女の自立と地域の連帯という二本の柱をかかげた地域社会活動としての方向が示されている。

グリーンピースは自分たちの考えを実践し、それぞれの特技を持ちよって共



同で経営する仕事場。小さな店の中には、ここを拠点に自分たちの力を社会へ還元する方法を模索する主婦たちの喜びと苦しみ、不安と希望が渦巻いている。

主婦による主婦の職場作りを

グリーンピースの代表は木村徳栄さん（四十二歳）である。二児の母親。肉中背の身体はバイタリティーに溢れている。早口に熱弁をふるったかと思ふと、ぎょろりとした大きな目で人なつっこく笑う。

木村さんは結婚後も企業の歯車となつて働いた経験を持っている。そんな

中で『第二の性』やウーマンリブ運動に出会い、いわゆる婦人問題への関心を深めていった。専業主婦となって地域に戻ってから、市の社会教育や婦人学級、PTAや自治会活動、消費者運動などを通して、女の生き方を考え続けてきた。そしてこれら地域に根ざした活動の中で得た仲間たちに、木村さんは、日ごろ学習し考えてきたことの実践としての安全なたべものやの共同経営を呼びかけたのだった。

〇さん。市の社会教育で共に勉強し合った仲間である。「主婦の能力、特技を自己申告し、相互扶助の仕組を作り出そう」という趣旨のもとにグループ『素顔』を結成、デコページやパンフラワー、英語や料理の教室、教育問題研究、またおせち料理の協同製作など、それぞれの力を生かした仲間作り、地域作りに取り組んできた。長身でクールな容姿、規約作りや会報作りにも知性とユーモアを発揮する頼もしい参謀である。



Iさん。隣の座間市の市議選に無党派女性議員を出そうと、子供も夫も放り出して選挙運動にかけずり回った仲間だ。熱心さのあまり、深夜の帰宅がたび重なり、怒った御亭主から閉め出しをくった夜、ロープづたいに二階から家へ入ろうとして宙吊りになったというエピソードの持ち主。そんな勇ましい女闘士のイメージにはほど遠い細身で女くさい人である。女の自立をテーマに政治、経済、教育、福祉に関する自主講座『座間婦人アカデミー』



木村さん

を続けて七年以上になる。

Yさん。『健康とヨガの会』と称する健康の自主管理運動の中で出会った仲間。数年来身体を害していたが、食生活の自主管理や体操を通して健康を取り戻しつつある。日本橋にある老舗のフランス料理店の娘として舌を鍛えてきた。素人ばかりのグリーンピースの中で唯一のプロの経験者である。

メンバーは次々にふえ、グリーンピースは大きくなっていった。よつ葉牛乳の共同購入を長年続けてきた実績を持つ世話好きのEさん、養護学校のボランティアで夢みる乙女の心を失わない



Iさん

Mさん、環境衛生測量士としての仕事を持つ数字に強いKさん、大好きなビールはダースで飲むという豪傑ママのMさん。またパン作りの名手のKさんや人形作りの得意なEさん……。一年以上を経た現在は五十人を越す大世帯となっている。

全面のめりこみ型とちょこっと参加型。女の自立自覚組とふわっと参加組、安全な食生活追求派とどうでもいい派。参加の仕方も考え方もまちまちの集団。これがグリーンピースの強みでもあり、また弱みでもあるといったら間違いないだろうか。



Yさん

資金は どのようにして集めるか

さまざまの事情や考えをいっしょくたに積みこんで未知の海へ船出したグリーンピースは最初から揺れに揺れた。

まずは資金集め。素人の主婦たちの未知数の事業の資金を、いったいどこからどのようにして集めるのか。

「グリーンピースはその趣意に賛同して出資した会員が協同で経営する。つまり出資は会員としての一つの資格。出資金は退会するとき返せばいい」という意見に、「いつつぶれるかもしれないな

い事業に主婦たちがお金を出すだろうか。期限を切って借り入れるという形にしなれば資金は集まらないだろう」という意見が対立した。

「一万円もする服には出資をためられない主婦たちが、なぜ、自分たちでやろうという事業にお金を出せないのか。始める前からつぶれることを心配するよりも、自分たちの事業をつぶさないよう努力することこそ必要なのではないか」「グリーンピースの人たちを本当に信頼していいのか。本気でやり抜く意志のある人たちなのだろうか。資金を出すにはそういった信頼が前提になるのだ。『自分たちはどんなにしてでもやり抜きます。出してもらったお金は必ず返します』という固い決意を示すことで信用してもらい、資金を借り入れるしかないではないか」

なかなか結論は出ない。とりあえず、二年後返済ということで資金を集めることになった。「お金や労力を出し合っ

て経営する人たちによる出資」という考えと、「信用できる事業にお金を出す人たちからの借入れ」という考えがごちゃ混ぜのままの出発だった。

(後に規約で出資の意味を明確にし、出資金と借り入れ金のふり分けをするまで混乱は続くことになる)

学習グループや共同購入の仲間、仲間の仲間たちへと四方八方に奔走し、頼みこみ、なんとか三百三十九万円を集めた。そのうち三百十余万を設備費や準備金にあて、残る二十余万で材料の仕入れから始めたのだった。

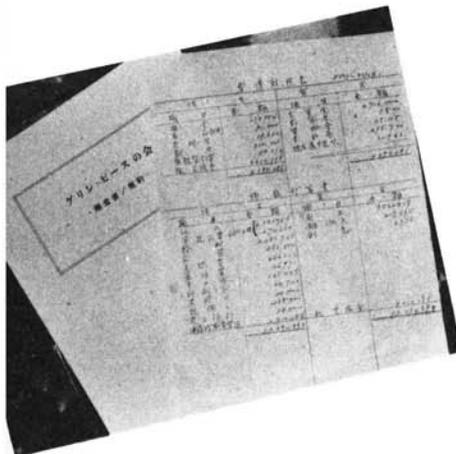
開店

降りたシャッターに貼られた『貸店』の紙の前で「やろうよ」というYさんの声に木村さんが心を決めたのが四月末、趣意書作りに資金集め、店内設計に工事の折衝、開店のためのもろもろの手續き、必要な器具や道具の購入、メニューの作成など、あわただしく騒々しい準備期間を経てグリーンピースが

開店したのは一九八一年の七月だった。

当初、小さな店の中は客より多い手伝い手でごった返し、自己申告の勤務ノートには一日十人も名が並ぶこともあった。「一日の売り上げを仕分けする人、数字を集計し表に出す人、パランスシートに損益計算表など初めて聞く経理用語に懸命に数字をあてはめる人、何もかも未経験の素人集団が、構想だけは大きく、エッチラオッチラ舟をこぎ出したんですよ」木村さんは無謀とも見えるこの出発をこう振り返っている。

開店して日も浅い七月末、運転資金





の乏しさに追い打ちをかけるかのよう
に、家賃、光熱費、米代その他の材料
費の請求伝票が舞い込んだ。月末づめ
の十日払い、或いは三十日払いとい
った支払い方法も知らなかったから、請
求書がくるとすぐその場で払ってしま
う。お金はみるみる減って、会計のI
さんは気が気じゃない。ひたすら出費
を抑えることに懸命にならざるを得な
かった。

調理の現場ではいざ始めてみると道
具不足が目につき出した。高級フラン
ス料理店の調理場を知るYさんが「こ

ういう道具もいる。ああいう器もいる」
と言えば、食堂の調理場など知らない
木村さんは「そういうものかな」と思
い、会計に交渉する。

「お金がないのになんでそんなに買う
のよ」とIさんの口が突る。ある程度
の先行投資は必要と考える木村さんは
「道具がなければ何もできないのだか
ら」と、お金を抱えこむようにして必
死に抵抗するIさんを拝みたおしてや
つとのことでお金を出してもらおう。広
がる夢と厳しい現実のギャップを思い
知らされる毎日だった。

人件費を出すか出さぬか

「こんな甘い人たちと一緒にやってい
けるだろうか」当初からIさんの心中
に去来していた思いが人件費問題で爆
発したのは始めて一カ月足らずの七月
末である。

「今の段階で人件費を払うなんてとん
でもない。まず何よりもグリーンピース

の経済的基盤を充実させることを優先
すべき時ではないのか。資金だって二
年後返済するとの固い約束のもとにや
つとの思いで集めたものなのだ。返済
の約束を果たすまでは無報酬でがんば
るくらい覚悟と意気込みがなくて、
どうしてグリーンピースがやっていかれ
るのか」

「グリーンピースには、現に、いろいろ
な人たちがさまざまの思いと形で参加
している。グリーンピースの趣意を真に
理解し、確固たる自覚を持って参加し
ている人たちがばかりならボランティア
もいいだろう。しかし、そうでない人
たちにまでボランティア的やり方を押
しつけるのは無理だろう。会員の自覚
も、経済的基盤も、二年三年とグリーン
ピースをやっていくうちに徐々に固め
られていけばいいのではないかと考
えるのは木村さんだ。

「私たちの職場とうたうからには人件
費は経費として当然。それがグリーンピ
ースの維持、運営の重要な部分となる

のであり、最優先しても出すべきなのだ」とする木村さん。

「友人たちに頼みこんでやっとの思いで集めたグリーンピースの設立資金なのだ。その資金から、今、この時点で給料を払うことにはどうしても納得がいかない。給料は店の利益が上ってからの利益に応じて払っていくべきなのだ」というIさん。

そういった対立のさなかの七月三十日現在、ちようど皆の人件費相当分程のお金があった。木村さんはそれで人件費を払おうと言った。

「ちようどお金があるからといって人件費を払ってしまったっていいのか。こんなことで二年返済はできるのか。グリーンピースの経営は成り立っていくのか」そんな思いがIさんを非常手段に駆り立てる。Iさんは自分の出資金の一部をひくという形でそのお金を引き出してしまったのだ。

契約違反（二年間はひかない約束のお金だった）を木村さんにとがめられ

ようが、「こういう形で抵抗するしかなかったのです。お金がなければ、木村さんも人件費の支払いをあきらめるだろうと思いました。さんざん悩んだ末のことでした」とIさんは当時の気持ちを語っている。

人件費の問題はグリーンピースを揺さぶり続けた。「払うべき」「二年は無償でゆくべき」といった根本的問題から、「いくら払うか」という具体案まで、かまじい論争を展開した。

「パートの相場を考えて時給四百五十円」「三百円」

「五百円」

「百円でもいい」という人もいた。

「誇りを持ってする仕事の代価が百円ではあんまりだ。それならむしろもらわない方がいい」という意見も出た。

結局、「人件費も経費のうち。時給三百円とする」ということで決着を見、二カ月遅れの給料が支払われたのは涼風も吹き始めた九月だった。

人件費その後

初めての給料から一年目の九月現在、時給三百円は変わっていない。

Iさんは今でも人件費の支払い方法に必ずしも納得しているわけではない。「時給は実際に店に出ている時間を対象にしている。それ以外の、目に見えない労働や時間の提供など、千差万別の労働に対して平等な考慮がされているとは言いがたい。非常にあいまいで中途半端だと思うんです。こういう形で給料をもらうことだけが女の自立な



のでしょうか」というIさんの問いかけは、ボランティアとプロのはざまにあるグリーンピースの難しさを象徴している。

でも、三代目会計のKさんは言うのである。「利益が大きくなれば分配も大きくなっていい。今は三百円だけれど将来は千円になることも可能なわけです。」

このような事業をボランティアだけでやっていくのはどだい無理な話なので、お金を出してきたからこそ、ここまで続けてこられたのではないでしょう。か。専業主婦として十何年間も無報酬だった人が、グリーンピースに参加することでわずかながら自分で稼いだお金を手にする。すごく嬉しい。こういったところから自立とかかわってくるのではないかと思うんです。経済的裏付けがなければ、口で自立、自立と言っても現実の生活の中に根をはっていかないのではないのでしょうか」魅力的な低音で静かに語るKさんだ。

「主婦たちはこれまでいろいろな活動において、ボランティアという感覚に慣らされてきている。消費者運動にあってもこの考えが主流です。でも、自らの労働に自ら評価を下し、その代価を得るのは当然ではないのでしょうか。そういう消費者運動の流れがあつていいと思うんです」と木村さんは力説する。

メニューをどうするか

食堂経営と言えばメニューなしには語れない。ところがこのメニューについても、初めは何とも頼りない状態だった。

家庭にあつては料理の担い手を自負する主婦たちも、いざ自分たちの料理が社会的評価にさらされると自信が持てない。「家族には食べさせられても、お金をとって他人に食べさせるなんてとても……」と皆尻込みする。頼りとなるのは唯一のプロの経験者Y

さんの腕と経験だけである。そこで、Yさんのカレー、シチューなどストックのきくメニューを中心に、その他に定食という形で曜日毎に当番の主婦たち(二、三人のチーム)がそれぞれ献立を考え調理を受持つことにした。

Yさんのカレーはスープに二日かけ、ニンジンやジャガイモはすりおろすという手間のかかる本格派。ザラザラした舌ざわりがインスタント・ルーのカレーを食べ慣れた舌には馴じみにくい。ビーフシチューもソース作りに一週間かかる逸品だが、日本橋の店なら二千円のところを、グリーンピースの客の財布の中味を考えて千二百円にせざるを得ない。手間の割には利が薄いメニューだった。相武台の住民の舌に合う味、財布の中味に見合う値段をひねり出すのもそう容易ではなかったのだ。

開店初期の七、八月はさすがにカレーが多く出た。ビーフシチューも出たが、自分たちさえほとんど食べたことのない高級シチューの注文に、練習も

充分つんでいない主婦たちはただおろおろするばかり。いきおい、Yさんがフルフル回転の大忙しの日が続いた。「各自の特技と能力を生かす、そんな文句は宙に踊りました」と木村さんは回想している。

しかし、徐々に主婦たちが始動を始める。仕事への慣れが自信に変わり、自分たち自身のメニュー作りにも積極的に取り組むようになっていった。九月頃から定食の注文が増え始めた。「銀座のど真中のような高級料理が安く食べられるというのがグリーンピースの魅力だろう」との予想に反して、「定食が意外に好まれる」「家庭の味が求められている」という発見が、一時失われた主婦たちの自信を回復させた。家庭料理の味がプロとしての試練を通して磨かれていく。献立も多様になり、幅も広がっていった。

こうして、カレーと定食の売り上げ高が逆転していく。皆、自分の工夫した定食を食べてもらいたいし、カレー



やシチューは日持ちがするからということもあって、客に定食を勧める。Yさんのカレーはますます隅に押しやられ、定食の圧倒的人気の前に影が薄れていった。ビーフシチューもとっくにメニューから消えていた。Yさんはやる気を失い、だんだんカレーを作らな

くなる。ときどき作っては、またやる。カレーのない日が延々と続く。そうした中で、運営会議で「カレーをどうするか」が問題になった。「Yさんのカレーということにこだわる必要はないのではないか。誰でも自分たちのカレーを作ったらいいのではない

か」という声も出た。「Yさんの意志を尊重し、やる気が起るのを待とう」という温かい声もあった。その後Yさんは真面目にカレー作りに取り組んでいるという。

Kさんは鯛の安さに目をつけた。さっそく鯛のからあげを出してみたが、「これなら昨日家で食べたわ」という客の声。「店に出すなら何か目先きの変わったものでなくては」、そう思ったKさんは持ち前の研究熱心さを發揮してあちこちの本をあさり工夫を重ね、『鯛のさんしょう炊き』『鯛のさつまあげ』などのヒットを放つ。『水曜日の鯛料理』という定評を得た今とっては、簡単に鯛料理をやめるわけにはいなくなかった。「安い時は十キロで千円の鯛が、八キロで四千円ともなると頭が痛いですねえ」と笑うKさんである。

マンネリになっていた家庭料理にも意欲が湧いてきたというOさん。「家で作ったものを店で試してみる。店か



らアイディアを貰ってきて家でやってみる。そんなふうにして料理のレパートリーが増えていくのが今では楽しみになっていました」と、長身をちぢめて控え目に語る。相棒のMさんがよその庭先から失敬してくるタンポポや母子草、桑の葉、八重桜、ペンペン草などの野草の料理法をMさんと一緒に開拓中だ。

こんなふうに、曜日曜日でチームの特徴が生れてきている。研究熱心なチームもあればワンパタンのチームもある。チームワークのうまくいっているチームもあればワンマンボスに振り回されがちなチームもあるようだ。「グリーンピースのメニューの特徴は？」との質問に、木村さんは「日替りメニュー」と「安全な食べ物追求の姿勢」をあげた。「グリーンピースの目指すプロとは、いわゆる一流料理店のかかげる嗜好としての料理のプロではなく、食生活全般にかかわるプロということ。身体の健康管理という観点から、商業

主義に踊らされない真に身体に良い食生活を追求するプロでありたい。そういう考えを実践する共同の炊事場を、これからのグリーンピースの顔としていきたい」と抱負を語った。

二年目を迎えて

慣れない数字をいじくり回し、考えの異なる多人数の共同経営の難しさを実感し、ボランティアとプロのはざまですら間違いを続けながら、グリーンピースはなんとか一年目を切り抜けた。暑資金集めに奔走した春のおわり。暑い調理場での立作業に汗まみれになりながら新しい経験に右往左往し、人件費をめぐる論争に振り回された夏。手芸品やケーキや料理が少しずつ評価を得始め、初めての給料に感慨をかみしめた秋。十月にはバザー、翌年一月からは規約作りにとり組んだ。一周年にあたる七月には一週間にわたって記念行事が催された。「とうふ

・ア・ラ・カルト・デー」「おふくろの味、お総菜デー」「いわし・ア・ラ・カルト・デー」「無農薬野菜デー」「お弁当、酒まんじゅうデー」「中華デー」と一週間のメニューに趣向がこらされ、手作りパンやケーキの販売、有機米や牛乳の試食会、手芸講習会にバザーと、グリーンピースの事業が総動員された。Oさんが夜を徹して作りあげた不定期刊『グリーンピース通信』第一号も発行された。

無我夢中で走ってきた一年を振り返って木村さんの手記はこう結んでいる。「まだ難問が山積みし、見通しがついたとはいえないが、ともかく、かわる人たちの個性が発揮され能力が生かされる小さな試みの数々が、わずかではあるが示されて心の張りになり出した。

共働きの御夫婦が毎日お子さん連れでやってくる。一家にとってこの店はもう生活の一部だと嬉しいことばをかけてくれる。一人暮しの男性も、毎日

替る定食の健康気づかう献立が何よりと、毎日足を運んでくる。ときには店からはみ出してカラオケなどにも付き合っ、話せる母ちゃん楽しいと、常連客の一人になっている。大きなお腹を突き出して炊事が辛いと店に寄る、子育ての失敗経験がたくさんある母親たちのアドバイス頼みにしていますよと、生まれた赤ちゃん見せにくる。

にがりで作ったお豆腐が本物だからおいしいと、冷やっこをさかなにピールのピッチがあがる人。玄米おむすび一人前、身体に良いと聞いたので、一人の食事がまずいからと定食食べて持ち帰るお年寄り。地域の中に少しだが根を持ち始めた実感をかみしめているこのごろだ」

八月には、外食産業過当競争の中で一カ月間の長期休業を敢行し、二年目の戦いへの充電期間とした。

三代目会計のKさんは図書館に通って経営分析の方法を勉強した。そして、

月々の決算報告をもとに、得意の数字を駆使して『グリーンピースの経営分析』を行った。事業の業績を明らかにする収益性の分析、財政状態の現状を明らかにする安全性の分析。開店してから一年を経て、初めて、グリーンピースの経営状態の全容がはっきりした数字となって示され、一年やってきた結果としての赤字をいかに減らしていくかがこれからの課題の一つとなった。

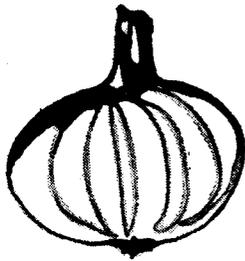
売り上げを伸ばす努力もさることながら、経費の節約がますます必要となってきた。経費の中でも大きな割合を占めている人件費を減らすため、一日三人チームから二人チームへの切り換えや労働時間の削減（だからだと無駄に店へ出ている時間を減らす）などが試みられている。

「この間のおはぎデーは大成功でした。一日に十五万円もの売り上げが上がったんですから。皆で、それはもう大騒ぎで、おはぎを三百六十個作りました。それが一時間足らずで全部売り切れち

やったんですよ」
時折のヒットに力づけられながら、厳しい現実との戦いを続けるグリーンピースである。

（この欄に取上げてほしいと思う主婦のグループを知っていらっしゃるか読者は、ぜひ編集部までご一報ください。ボランティアや市民運動のサークルでなく、経済自立につながる主婦のグループに限ります。どうぞよろしく）

（写真・長野早紀子）



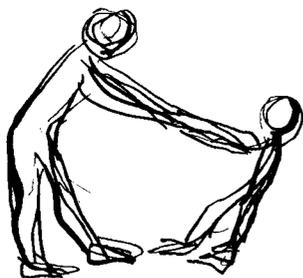
Chatterbox



親バカチャンリン

「買わせられる」原因はどこに

千葉県柏市 四方 愛子



しつけについて、最近問題になるのは、幼稚園、小学低学年くらいの子どものいる家庭での「おもちゃ買ってやりパターン」です。ゲームウォッチ、合体プラモデルなど、一万円近くもするおもちゃ、それも親の目からみると、むしろ子どもの成長にとってよくないのではないかと思えるものが大へん多いですね。たいていの親は子どもが「買って」といっても口ではダメだというのですが、結局折れて買ってやるハメになる、これは次のパターンで展開するようです。

まず子どもは、店頭に並んでいるうちは

「買って」といってもそれほどしつこく言いませんが、「誰々ちゃんを買ってもらった」ということになると、がぜん追求がはげしくなるのです。そしてそのうち、持っていない子どもはだんだん少数派になり、ついに近所ですりとりという感じになってきます。大体においてなかなか買ってやらない親の子どもというのは、わりと意欲的で勉強もスポーツもとくい、すべてにおいて勢いのよい子どもが多く（決してうちのことではありませんよ）、すぐ買ってやる親の子どもは、ちょっとひよわい、ポケッとしていることが多い。勢いのよい子どもだと



親も安心して「ダメノ」とか言えるし、少しよわな子だと、「少しでも興味をひき出し、活動的になってくれれば」と親のほうもついモノを与えてしまうということになるのですね。

でどういふことになるかというと、持っていない子どもは持っている子どもに「貸して貸して」と迫り、使いまくって、結局せっかく買ってもらった子より、貸してもらって遊ぶ時間が長いというようなことになります。気の弱い子だとなかなか「返して」と強くいえないのですね。そこで頭にくるのが親。しかし最近の親は洗練されてきているので、決してはしたなくどなりこんだりするようなことはしません。

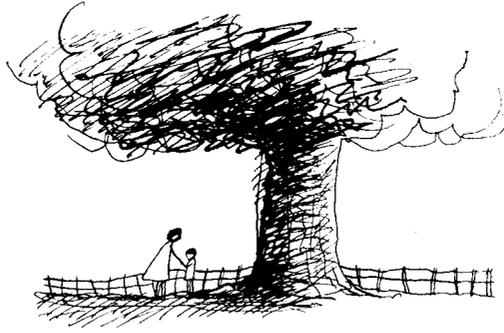
次のようなホメ言葉となつてあらわれま

す。
「本当にお宅はしつげがしつかりしてらっしゃるわねえ。うちなんか子どもに買って買ってと言われると、結局買ってやっていますの」

「○○ちゃんは何でもよくおできになっていいですわねえ。うちのはホントにぐずで困ってしまうんですよ。高いおもちゃを買

え買えって買わされたのに、毎日よその子に（話している相手の子なのだ、ホントは）とられっぱなしで『返して』も言えないんですものねえ。全く先が思いやられますわ」
「○○ちゃんはホントに頭がいいのねえ。うちの子なんか親が教えてやらないとおもちゃの使い方もわからないのに、○○ちゃんは自分で説明書をちゃんと読んで使えますものねえ。うちの子なんかそれをポーンと見てるだけで、ホントにしようがな

いわ」
これだけ言われると、持っていない子の母親は頭にきて「何とかしなければ」と思えます。子どもに「人のおもちゃ借りてはダメ」と言っても「だつて貸してつたのんだら、いいて言つたんだもん。返す時はちゃんとありがとうつて言つたもん」これ以上強く言うと、今度は自分のものはゼツタイ人に貸さないということになるし、「大体ウチの子のほうか迫力があるからつて他人に非難されるいわれはないじゃないか。競争社会なんだからね。とられる子は自分が弱いんだからしょうがないのよ」という気が親にもあるので、あまり子どもを叱る



のかわいそうという気になります。それで場面は夫婦の対話となります。

「やっぱり皆持ってるみたいだから買ってやってもいいんじゃない？」

「皆持ってるからなんて主体性のないことはしないって言ったのはお前のほうじゃないか。必要ない！」

「だってよそで借りてばかりいてご近所でイヤミ言われるんだもの」

「借りないように子どもに言え！」

「買ってやらない上にそうがみが見言っただけでもいられませんよ。かえって反抗的になっちゃうわよ」

「じゃあよその奥さんの言うことくらい気にしなけりゃいいじゃないか」

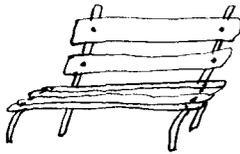
「あなたは一口中うちにいないんだからいいでしょうよ。うちにいて近所つきあいをしなきゃならないのは私のほうなのよ。男ってうちのことば皆女におしつけて、言いたいこと言っればいいんだからいいわよね」

「……」

「私もちょっと外に出るのは早いかないと
思ってガマンしてたけど、やっぱり仕事を

さがそうかなー。そうしたら、しょつ中近所の人と顔つきあわせなくてすむし。ケチケチ節約するより外からとるものをとってきたほうが精神衛生上いいもんね！」
(これまた決してわが家のこととは関係ありません)

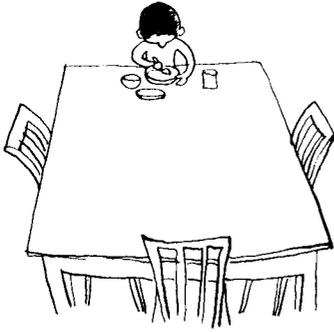
で、どちらの言い分が通るかといえばもう明白。結局考えてみると、一番とくしているのはおもちやメーカーということになりますね。どうにかならないもんだらうか。



私の視点

二つの報道特集をみて

宮城県仙台市 大島 真理



十二月六日、十三日、NHKの報道特集を見た。テーマは異なるものであったが、その背後に見え隠れするのは、現代日本の恐ろしいほど歪んだ姿であり、犠牲になっている子供たちの姿だった。

六日の「何故ひとりで食べるの」は、子供の食事がテーマ。子供の時、一人で食事をした記憶がない私は、そのタイトルの言わんとすることが皆目見当がつかないまま、テレビにひき込まれた。共働きで、夜遅くしか帰らぬ両親、夕飯をレンジで暖める子、間食ばかりして夕食をとらぬ子、物が豊かに揃っていても、どこか寂しげな子供たち、

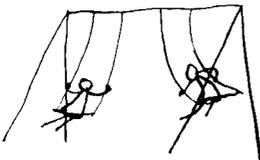
郊外に家を建て、父親の帰宅は九、十時、子供は幼いながら受験競争にけなげに立ち向かい、塾で十分間の夕食をかき込む。あのように貧しい食生活をした子供たちが、いくらいい学校へ進み、エリートになろうと、豊かな発想ができればどうか。食は毎日のことだからこそ、おろそかにできないと思う。一緒に食事をするところに、コミュニケーションも生まれる。家族揃っての食事が、日本では週に一度という。アメリカの家庭崩壊が言われて久しいが、日本は、数字以上に、もっと深い崩壊が浸透しているのではないだろうか。



そして、十三日の「五歳の秋、母と子の入試最前戦」。これは、タイトルからすでに予想できた内容ではあった。怒りよりも馬鹿馬鹿しくなって笑ってしまった。わが敬愛する田辺聖子さんの言葉を借りれば、「それが、何ボのもんや」と言いたい。學歷、出世、地位、名誉、豊かな生活、それ以外の価値を認めえない、あそこに登場する母親たちに、何を言っても無駄であろう。わが子さえよければという超エゴイズム、まだ覚えるものが少ないうちに、エスカレーターコースに乗せてやったほうがいいという母親、柔な人生が果していい人生なのか。夫の肩書イコール自分であり、子供をいい学校に入れることが勲章であるのだろう。結局、彼女らは自立していないのだ。本当に、個としての自分と、社会を考えたら、あのような行動はとれまい。出てきた人が、揃って専業主婦なのは、偶然だろうか。

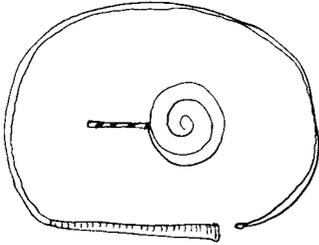
二つの番組に共通しているのは、どこか人間らしくない生活が続いている人々だった。一度、社会通念、もしくは自分を支配している価値をすべてひっくり返してみる

といい。通勤、ローンに押し潰されるより、マイ・ホームを拒否したらどうなのか。地価の高騰を、政府の無策を非難するより、自己の価値の改革をはかったらどうだろう。真に豊かな人間らしい生活を忘れつつある日本人は、子供につけをまわしているのではないだろうか。あれらの番組には、學歷偏重、高度成長等の日本の歪みが重なりあって、子供たちを不自然で不幸な状態に陥れている大人の愚かしさが映し出されていた。



田中喜美子さんに反論する

東京都文京区 松山 峰子



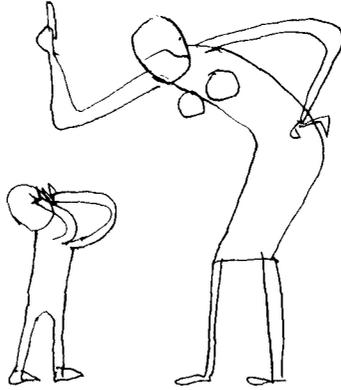
一七九号のしつけの特集の中、「どこが悪い？ 日本の子育て」について——この記事の眼目は最後の一文にあることを承知の上で、四兒子育てまっ最中の母親として、思いつくまま感想をのべさせてください。

しつけが成功しているかどうかをはかる基準として、子供に行なったアンケートの結果が出され、日本の母親の点数が悪いのを慨嘆しておられるけれど、そんなに嘆きたまうなといいたいのです。そもそも、子供が答えたアンケートが正しい基準になり得るでしょうか。

しつけが成功か否かは、大局的にみれば、

そういったしつけを受けて大きくなった子供達の作る社会がどういった社会か、ではかられるべきではないでしょうか。社会の健全さ自体がパロメーターになるべきです。そして、控え目にいっても、日本の社会は、世界の他の国々にくらべ、このアンケートの点がひどく悪いほどには悪くないと思います。

しつけは、いいかえれば、たんに個々の家庭のレベルよりもっと上の、社会的、国家的レベルではかられるべき、底の広くて深い課題です。したがって、個々のしつけを取り出してその優劣を問うのは適切では



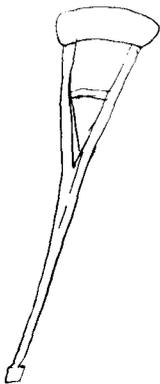
ありませんし、子供のアンケートの結果に一喜一憂するのも、大人の取るべき態度ともいえません。子供のつけた点が辛くとも日本の母親たちよ、オタオタしないでください。もっとどっしり構えて、しつけられている子供が、しつける母親に点が辛いのは当然、日本の子供は小さいながら批評眼がしっかり養われていることよ、ぐらいい思うべきです。

それかといって、日本の母親のやり方が訂正の余地なく満点である、と考えているわけではありません。たとえば、戦後の日本社会の、あまりに過度な学歴偏重の風潮は、一人一人の母親の子育てしだいで、大いに緩和されると信じます。

私の限られた体験からいわせていただければ、欧米と日本の子供観の一番の相違は、欧米では子供を未熟な大人とみて、大人の基準を懸命に押しつけ、いわば小さな紳士淑女にしようとするのに対し、日本では、子供は本来大人とは別のもの、と考えていることではないでしょうか。それで伝統的に、あちらでは子供に対し非寛容、こちらではより寛容になるといってよいでしょう。

非寛容な社会の表面に、大人の粹にきっちりはめこまれ、羊のように振舞う子供がいる一方、裏には、親によって体罰を受け生涯不具になる子供達（英語では *battered children* と呼ぶ）がいるのです。日本にもそういった子供は勿論いるのでしょうか、英国滞在中にその記事を読み、その率の高さにゾッとすると同時に、ああやっぱり、との感じも抱きました。

書きたいことは山ほどありますが、字数の都合ですべて割愛します。最後に一つ。まちがっても、体罰をふやしたり、いやがる子供にホステス役をやらせたりし始めないよう切に祈ります。国によりやり方が違うのです。



おしちり

「人形の家を出でて」を読んで

東京都豊島区 木下幸子

「人形の家を出でて」を読んで、私の場合とそっくりでびっくりした。違うのは、夫及び私の職業位。夫は大会社に勤めた事はないし、私も普通高卒で、手に何の技術も資格もなく、今製本屋のパートである。

私も現在、三人の子を育てている。養育料もゼロ。求めても、夫は、れい子さんが、御主人から言われたと同じ事を言った。そ

して彼女と同じく、家裁に持ち込むには、納得させる理由がない。いてもいなくても同じ人だからとか、夫の身のまわりの面倒を見る余裕がない（時間も、経済も）から別れるなんて言う、「子供にとって父親は必要です。あなたがまんすべきです」と言われるだろう。決心したあと、親に話した時、親からそう言われた。それがわかっていたので、誰にも相談しなかった。私と夫、二人で決めた。少ない貯金も、二十万ずつ折半し、別れた。

今、私はパートだから、収入は多くない。しかし不思議な事に、家に男が居ない方が

生活は楽だ。男が、ぜいたくで、家事育児をしない女を妻にしないのと同じく、女も、ぜいたくで、家事育児に手を貸してくれない夫を養えないのだ。男達はそれが理解できないらしい。

子供三人育て、家事をし、夫の面倒を見、仕事をする。とても身体が疲れた。夫は大の男なのに手が掛り過ぎる。そして夫自身、手が掛り、お金もかかる存在だという事を理解しない。知ろうともしない。別れて一年半。夫がいたら、と思った事がない。結婚生活は十年。夫は毎日家に帰っていたのに、私にとって、子供達にと

っても、彼でなければ、という現象がなかったのだ。

しかしいい事ばかりではない。一人で三人の子の人生を背負うのはきつい。子供は成長する。いつまでも小さいままではない。

また、私の老後。社会保険はない。パート。児童手当も、子供が十八歳の時点で切られる。手当抜きでは、生活は成り立たない。

今現在、毎月、毎日、お金がなく、生活が苦しい。でも家族が皆健康なら、まだ気が楽である。しかし、私が病気にでもなったら、この生活はくずれぬ。この不況で会社が何時潰れるかわからない。私が職を失ったら、生活できなくなる。失業保険はない。職種、給与を選んでいる余裕はない。

この、ないないづくしの生活でも、男がない方が生活が楽なのだ。夫がいて、給料を持ってきて、毎日家に帰っていた時の方が、生活は苦しかった。本を読む時間も、文字を書く時間もなかった。神経はピリピリしていた。疲れて、笑う事もなかった。

私達の結婚生活は、どこか間違っていた、

と思う。私だけでなく、彼にとっても無駄であったと思わざるを得ない。彼もまた、俺の十年は、何であったのか、子供達にとって、俺の存在は一体何であったのか、と思っているだろう。お互いの心が変わってきてしまった。やはり、離婚は、皆に心の痛みを残す。

中国の離婚

大阪府吹田市 榎野 玲子

六月末のある日、友人の王さんが訪ねて来て、「離婚するかもしれない」と言った。

王さんは、日本語研修のため北京に来ていた武漢大学の教師であった。心やさしい文学青年である。週に一度は私を訪ねて来て、本箱から目当てらしい本を持ち帰った（私達の）共通の友人張さんが「貸本代をもらったら」と私に冗談を言ったことがある。そんな彼に、私は定期購読していた数種の文芸雑誌を渡し、彼の推薦してくれるものを読んだ。読んだ小説を話題に、話が

●栄大のベストセラー

健康

ことわざ事典

志賀 貢著 新書判 定価680円

病気になるしない

ことわざ事典

志賀 貢著 新書判 定価680円

食品80キロカロリー

成分表

香川 綾編 A5判 定価500円

食品80キロカロリー

ガイドブック

香川 綾編 A5判 定価500円

毎日の食事の

カロリー！糖分・塩分

ガイドブック

香川 芳子 監修 A5判 定価880円

〒170 東京都豊島区駒込3-24-3 女子栄養大学出版部 ☎03(918)5411 振替・東京6-8467

はずむこともしばしばだった。

王さんは一年前お見合いし、しばらく交際した後結婚した。結婚することに決まった時、相手の女性は彼にテレビ、ミシン、洗濯機、洋服ダンス…を揃えてくれるよう頼んだ。今の中国では、カラーテレビの値段は一般労働者の年収をはるかに超える。彼は結婚を男女の精神的結びつきだと思っていたので、そんなものは必要ないと思っただ。自分の考えを説明し、テレビだけを買うことで彼女を納得させた。

結婚後、彼の家族と同居した彼女は、テレビを自分たち夫婦の部屋に置き、彼の家族には見せようとしなかったという。彼は婦省のつどお土産をもって帰るのだが、彼女は自分の分が少ないといつも不満を言った。彼は他にも妻に対する不満を、恥ずかしそうに話した後「結局は精神生活を大切にするか、物質面を豊かにするかか矛盾なんです」と言って帰って行った。

離婚の原因は様々だ。たとえば、最近日本では、女の自立についていけない夫との間に破綻が生じ、離婚するケースが増えている。共働きが当り前で、男性が家事、育

児に積極的に協力している中国では、男女の自立をめぐる離婚は少ないようだ。しかし、社会主義中国でも、浮気が原因の離婚はある。北京の夕刊紙「北京晩報」では「第三者が介入した時、あなたはもうするか？」という特集がたいへん関心をよんだ。だ

アニー・ホール・ルックの赤井さんへ

福岡県北九州市 山本真理子

へえっ、ノミの夫婦の流行なんてあったんですか。
当方六月に結婚しましたが、昔は「結婚するなら見合いで、私より背が高い人で、年は二つ〜三つ上」と言ったり、一〜二年前までは「独身宣言」をしていたのです。それがそれが……この比較表を見てください。(ちなみに恋愛結婚です)

身長	体重	年齢	勤続
彼 一六三	五十六	二十三	三年目
私 一六八	五十八	二十五	七年目

が王さん達のように、物に対する欲望もとで破綻する例は、日本とかわりない。ただ「物」がテレビであり、洋服ダンスであることは日本と違うけれども。
資本主義、社会主義を問わず、贅沢を求める気持はいつでも同じことなのか。

指輪サイズ	足	上着
彼 十二	二十四・五	紳士用M
私 十四	二十四・五	紳士用M

パンツ
彼 紳士用S
私 女性用L

もう、結婚を発表した時は、全社(北海道から大分まで)に一大センセーションが巻き起こったのです。
「あの女史が、へっ、結婚？ 誰だ？ そんな物好きは……」

その上、私のほうが背は高い、年齢は上……でしょう？ 本人たちは何のことないのに……と言っても、二人で歩く時はベタ靴をはきますが……社宅の人にはもう絶好の噂のタネみたいです。

私は共働きの他に英会話、簿記なんかを習いに行つてあまり家にいないので、そういう話が耳に入らず幸いですが。

私より一年半ほど前に結婚した仲良しグループの一人も、彼のほうが低いのです。ちなみにこのグループ、私一六八センチメ

ートルを初めとして、一六六、一六五、一六三の四人の大人の集まりでして、高校一年の時同じクラスだったんですが、「アルプス」と呼ばれておりました。彼のほうが低くても気にしない……とは言いつつも、四人集まるとホッとします。ハイヒールを

はいて四人一緒に歩くと壮観ですが、彼は「こわい」とおびえています。

一七八号より読者になった一人ですが、生保護法改悪に反対し、自立する女性を目ざしてがんばりますので、ヨロシク！



サムシング

千葉県千葉市 ハコブ・小沢 (79歳)

千葉県S市、人口五万。夏この町の国鉄駅を降りると便所の悪臭が鼻にくる。町には洋式ホテル一つなく、地方銀行は十あるが中央の一流銀行はM銀行の支店だけ。駅前に四階建デパートができたのはやっと十年前。翌年もう一つ四階建。そうして町の中心は駅前とうつつた。さて駅から一キロ、旧中心街は年々さびれてゆく、だが年ごとに繁昌している店、衣料品店がある。

経営者はふとった店員あがり四十半ばのおかみ。十八年前間口三メートルの借店で開業。現在は五十坪一ぱいの敷地に鉄骨二階建、新築後五年、「もう狭くって」と言っている。初めおかみ一人、現在女店員六人、それと五年前工場勤めをやめた旦那が手伝っている。さて、衣料品店の競争ははげしい。この田舎町でも昔からの衣料品店の多くが姿を消し、新しくできた店も次々に交代している。

坪三十五万、五年前へら棒な値段をふっ
かけられても買ったその自信。北陸の雪深
い山村出身、小卒だけの二人は決して冒険
をやったのではない。

その翌朝M銀が来た。融資の条件はおか
みが思っていたよりずっとよかった。おか
みは金利の高い地方銀を解約、M銀に乗り
かえた。

町の何代もつづいた古い衣料品店は大型
店の進出で、経営の努力もむなしく姿を消
して行くのに、おかみの店だけなぜ繁昌を。
人一倍の努力？ いや消えた古い店だって
涙ぐましい努力をしていた。



この小さな店が繁昌している理由を私は
知ろうと努力した。私が二人から聞いた言
葉は次の二つ。私たちは自分たちの力相応
の商売をやっています。私たちは決してお
客さまをだましません。

この言葉を聞いてから今日まで二年間、
私は他の繁昌している店、千葉市の八百屋、
総武線M駅近くのソバ屋等々よく観察した。
どの店も努力している、だが、ただそれだ
けではない。繁昌している店は皆、何かサ
ムシングを持っていてるんだということがわ
かった。

「わいふ」購読再開

福岡県三池郡 三吉野優子

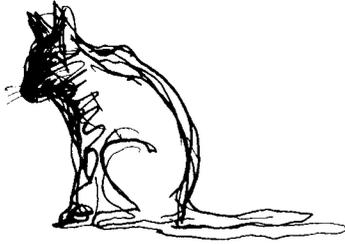
去年、四方愛子さん（彼女は仕掛け人
す）にチョイト誘惑されて、一年間、「わ
いふ」を購読しましたが、チョイト気が変
わって、しばらく中止していました。

ところが、今度は自分の意志で、猛然と
購読を再開したくなったのです。なぜなら、
「わいふ」は、主婦が本音を言える、伸び
伸びと建設的な方向で話し合える、しかも実
際に即した情報がある、そんな場所だから
です。

私の住む九州は、日本の旧来の秩序が
生きている最後の砦らしく、なかなか息苦
しいのです。何につけ女は（この頃は男も）
口数少なく、従順であれば、無条件に歓迎
されます。あまりはみ出したくないから黙
っていたら、腹がふくれて、この頃はもう
パンク寸前。危いところでSOSのはがき
を書きました。同じく危機感を持つ友人に
も「わいふ」を紹介しました。

ただ、いい催しの報を目にしても、九州は
はるか遠く、東京が会場である場合がほと
んどで、無念の涙をのむばかりです。

亭主が東京へ転勤になってくれんかいな、
とは、かの悪名高き『第三グループ』の女
の哀しさ、他力本願を念じたりするこのご
ろです。



奇立ち中腰主婦

東京都目黒区 木村 道子

此の頃の「わいふ」は外観も整い、中身
もこのまま店頭に並べられても他誌に劣ら
ぬ様になり、一般的というのか以前よりソ
フトになって来た事を感じます。ふと思っ
ついて今迄の『考える主婦の投稿誌』時代
の一四〇号代から一五〇号代をざっと読み
直してみました。

先ず目を見張るのは、皆一様に文体の強
さです。考える主婦の強さなのでしょうが、
自信の為せるわざなのでしょう。けれど
私が持っているだけでも六年以上の月日を
経ているのに、『女である事、母であること、
主婦であること』の悩みが今の自分達の立
場と少しも変わっていない事を痛感し、改め
て考えさせられます。

あの頃せつせと筆をはしらせた方々は今
どうして居られるでしょう。ほんの一部の
方は今も健闘されている様に分かりますが、
幼児は小学校高学年に、乳児も入学の頃で
しょうか。成人した『子供』も多い事でし

よう。この子供達の母としてあれからどの
様に考え悩み、そして結論を出されたので
しょうか。勿論一人の人間として、女、主
婦としてです。まだ模索中の方も居られる
でしょう。現在の「わいふ」からは少しず
つ分かりにくくなった普通の普段の生の声
が、あの頃の方があつた様に思えます。「ぐ
ち」が多いと言われ乍らそれを文章として
発表し、また考え悩み、そして徐々に同志
を見付け、勇気づけられる。こんな繰り返
しの中で、社会の荒波の中に船出した方も
多いと思います。

今更こんな事を書くのは、コレット・ダ
ウリングの言う「シンデレラ・コンプレッ
クス」なのでしょう。幼少の頃からの依
存への訓練の結果なのでしょう。自立し
たくても家庭の事情に縛られ、雑事に追わ
れている内に、その狭い家の中の細かい事
柄に生きがい似たよこびを感じる様にな
ってしまふ。「何も今更あせる事はない
わ」「夫さえ丈夫ならば」「子供がまだ小
さいから」などの隠れ蓑を着て、苦痛でな
い落し穴にはまり込みそうな自分を発見し
てしまうのです。悪魔の声が聞こえます。

必死で頑張り、ツツパッて穴の縁を堂々巡りし続けるのもなかなか疲れるものです。いっその事、穴の中にぬくぬくと入り込めれば、どんなに楽かと思えてくるのです。でも一度入り込んだら抜け出せない最終ソネルだと思えば、どっこい入る気にもなれず、益々堂々巡り。

現実に「この社会機構の中でいかに生きべきか」と、保育室有りの講座で学習を続けるのも新しい刺激と喜びではありませんが、自立そのものではありません。自分の力で立ち、探すしか無い事だけは分かっているから、何も効果的な行動をせず、無駄に時間を過してしまう事に立ちます。この「コンプレックス病い」で、此の頃は以前好きだった編物も、落ち着いて手にする事が少なくなりました。小さな喜びの落し穴を更に大きくしたくないという気持の表れでしょうか。

「わいふ」は立派になったけれど、ワイフの意識の中身はどの様に変って来ただろうかと、心に痛みをおぼえるのは、未だ立ちもせず、座わりもしない中腰のままの私だけでしょうか。

ウチのパパは九十点

東京都府中市 赤井久美子

いてもいなくても同じ、というような父親が少なからずいるらしい中で、ウチのパパはいなくてはならない存在である。

考えてみるとどのような父親が良い父親かという点、私は、つまるところ、とにかく子供達を愛し、自分の人生を真剣に生きる中で、子供達の人生をあなたかく見守ってやる——そんな父親ではないかと思う。そういう考え方で、ウチのパパに九十点をつけたのである。人間としては、問題がないわけではない。子供達に八つ当りもするし、身勝手なところだってある。けれども、とにかく彼はごくごく自然に、素朴に、子供達を愛している。本当は、百点満点をあげたいところなのだが、自分で自分のことを良い父親だと思っている節があって、少々不遜なので、十点減点とした。

言葉ではうまく説明できないのであるが、彼の父親としての情愛は、なんとも自然で

あり、お日さまや土の匂いのするようなものであり、豊かな、奥行きの高さを感じさせるものなのである。もちろん、こういう父性というようなものは、本人が努力したからといって、一朝一夕に身に付くものではなく、三十数年のその生い立ちの中で、自然に備わって行ったものである。

それでは、彼はどのような育ち方をしたかという点、和歌山県の農村で生れ育っている。彼の父も母も、根っからの農民であり、苦しく厳しくはあっても、天と地の恵みを受ける農業を、とても愛している人達である。そんな両親とともに、自然の中で汗を流す——そこに生れる親子関係は、私にはそのような体験がないため、過大に評価しすぎるクライはあるとしても、現在の彼の父性と無縁のものではないだろう。

田植えの時、苗を植えている人々に、手元の苗がなくなるタイミングを見計らって、苗の束を投げ入れるのがとても上手ではめられたこと、父親と山へ柴刈りに行って食べたにぎりめしのおいしさ、紀の川で、父親の体とロープでつないだ古タイヤの浮輪の中で遊んだこと、脱穀のすんだ稲ワラで

遊んで叱られたこと……：こういう思い出を話す時の彼は本当に楽しそうで、私としては妬ましくなるくらいである。

長男が生れたのは、予定日より五日遅れた金曜日だったが、彼はたまたま歯痛が激しく、会社を休んでおり、次男の時は、予定日より四日早い日曜日の午前中であつたので、出産にこそ立ち会わなかつたが、分娩室に入るまでは、つき合つてくれたし、産湯をつかわせたばかりの我が子とも対面している。そしてとてもじゃないが、じっくりとご対面という余裕のなかつた私に、どんな子か、話してくれた。

そして退院——生れてはじめて、グニャグニャした、小さな、はかなげな生き物を手渡されて、途方にくれていた私をシリ目に、彼はイソイソと楽しげにオムツを替えたり、ミルクを作つて与えたりした。退院後はじめてオムツを替えたのも、ミルクを与えたのも彼なら、当然はじめて沐浴させたのも、二十数年ぶりのことに、とまどつていたお婆あちゃん（私の母）ではなくて、彼であつた。

彼の生れ育つた農村では、とにかく女の

人は、メチャクチャに忙しいから、父親やおじいさんが、赤ん坊をねんねこ半でんでおぶつて子守りをしている姿は、ごく日常的に見られたという。そんなこともあつて、彼も赤ん坊をおぶつことに何の抵抗もないらしくて、よくおぶつていた。子供が急に発熱した時など、自転車が苦手な私に代つて、子供をおぶい、ママコートを着て病院へ走つた。私も、はじめのうちは少々気になつたものの、見慣れてくると、男の人のおんぶ姿もなかなかほのぼのとして良いものだなあ——と思つていた。ところが、ご近所の評判はあまり良くなかつたらしくて、あるとき面と向かつて言われてしまった。「男の人が赤ん坊をおぶつている姿ほどみじめたらしいものつてないわ。私なら、主人に絶対そんな格好させられないわ」私は、そうかしら……、とかなんとか、曖昧に答えていたが、お腹の中では、おあいにくさま！ウチの亭主は、赤ん坊をおぶつたくらいで、どうにかなるような、そんなケチな沽券はもつてないんでしょ！と舌を出していた。

彼もまた、御多分に漏れず、朝は早くに

出社し、帰宅は遅く、ウィークデーは、ほとんど子供と一緒に時間を過していない。けれどもどんなに遅く帰宅しても、どんなに疲れていても、まず今日一日の子供達の様子を私に尋ねる。そして、何か子供達に不都合なことがあつた時でも、自分または自分達の育て方が、まづかつたかなあ……、とすることはあつても、私の育て方が悪いからだ、というような私一人に責任を押し付けるような言い方はしない。実際は私一人で、孤軍奮闘しているわけだが、それでも、子育てを二人の共同作業としてとらえている彼のこういう態度で、私がどれほど精神的に救われているかしのれない。

幸いにも週休二日制なので、週末の二日間、ふだん関れない分を取り戻すかのよう、出来るだけ子供達と一緒に過す。私は、それを良いことに、一人でのびのびと外出し、一時、心身ともに解放された思いで、一週間分のウサを晴らし、リフレッシュされて帰宅するのである。私の留守中彼が用意する食事は、たいていおにぎりであるので、子供達はおにぎりはパパの方が上手なんだよね、と言う。形もさまざまなら、

中に入れるものもさまざまなおにぎりは、子供達にとっては、とても楽しい食事のようだ。

今年の春、私は友人の結婚式に招かれ、山形まで行って一泊して来た。彼は、二人の息子ともとの水入らずの生活は、良かったゾー、と言いつつ蒸発されても大丈夫という確信が持てた、などとも言った。そして、もし離婚するようなことがあっても、子供達は絶対に渡さない、と言っている。私だって、絶対渡すもんか、と言っているが、本当のところは、未熟な母性しか持ち合せていない私と、豊かな父性を身に付けている彼となら、子供達にとっては、父親と一緒に暮した方が、良さそうだと思っ

子どもの重さが分かるとき

東京都狛江市 遠水 裕子

新しい家庭科を考える『We』の巻末に近いコラム「波」は、編集兼発行人の半田たつ子さんの手によるものだけあって読みご

たえがある。

「家庭・家族」というテーマの十二月号では「『産んだ』ことは自然現象だとしても、

子をはぐくむ営みの中で、子どもから喜びと苦しみを贈られた。そのことよって育てられ鍛えられた、という実感は、私にとって揺るぎないものだ。家庭・家族を解くカギの一つがこの辺りに隠されている」

この部分にはハタと目が止まってしまふ。今年親になった新参者としては当り前の事だろうけれど、出産が自然現象でなく突然現象の者にとっては違う。

結婚をすれば子を持つのが自然かどうか夫と二人で思案している時に、おめでた

とわかった。二人だけの気ままな生活が消え、子が加わるのが、現実としてはチンプンカンプンの夫婦にとって、子は重い。ましてや、産後のねぎらいのことは異口同音に「これでようやく女性として一人前」となる。頭の上にメガトン級の重さが加わる。ニコニコ応じたものの、胸の内は「ウソー」の連続だった。

だから、子を持つ意味、家族がふえる意味をさがしている親の目に、この文がスト

リートに飛び込んできたんだ、と思う。

ところが、子のあるなしで右派、左派と派閥ができそうな雰囲気になる事が、女性の集会にはよくあるだけに、家族・家庭を考える大きなキイポイントはここにある。

子を持つ事は結婚するよりも当然で、子は唯一の財産であり、子育てを通じた経験を大切に自分の寄りどころとする肝っ玉母さん。不幸にして望んでも得られなかった子へのラブコールを、理論を通じて社会に反映させようとするとミス。世情をつらつら見ればみるほど子は持てない、子はつくれないと、他人からみたら得体の知れない(?)奥さん。

大きさにいえば、子によって主婦の生き方が左右されるんだから、正に家族とは何だろうである。

六カ月になる息子は親の気持ちにおかまひなく、アブアブと大きくなってきた。子を持つ喜び、苦しみはどんなものか、興味津津でぶつかってみようかと、そんな親でも割台前向きの姿勢(?)にさせたのだから、半田さんの文は説得力がある。

「わいふ」の誌名について

東京都台東区 矢崎 道子

こだわり続ける、ということの大切さを大事にしたいと思います。こだわることのこだわり方にもいろいろあるでしょうが、「わいふ」という誌名、編集部意向はどのうも「わいふ」という名はふさわしくないのではないかと、ということのように聞えますがふさわしくないから誌名変更をしたいと思いますか。

私も一時、そんな風に考えたこともありましたが、今いやそうではない、「わいふ」というところからの出発だったのではないかと、唯単に女としての出発だったのではないかと「わいふ」という立場からの出発だったと私は私自身をふり返って思うのです。無論結婚しないで職場にあっても、きつと性差別や女がおかれた状況に疑問を感じて何等かの行動を起したとは思いますが、私は

主婦、妻、女という体験からの出発だったので、もしこの体験がなければ「わいふ」にもわいふのような本との出会いもなかったのではないかと思います。

編集部ではもっと未来を展望した、もしくは「わいふ」という固定観念の強い固有名詞ではない誌名を望んでいるのかもしれないが、私は出発点を忘れたくない、という意味でも時代に遅れようと「らしく」なろうと、「わいふ」という誌名にこだわりたいですね。

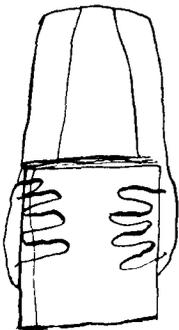
私はもしかすれば、皮肉やでひねくれ者なのかもしれないが、「わいふ」の名に批判が多ければ多い程、エイノ 踏んばっちゃえ!! と思うほうだから、これじゃ世間様の中ではエエ顔出来なくても仕様がないわねえ。

仮りに何世紀も過ぎて、世の中にわいふという位置の女たちがいなくなろうとも、「わいふ」はわいふでいいのです。なん

てガンバリたいのですから……。

その時には、固定観念からも固有名詞からも脱皮した「わいふ」という単なる言葉が生きてはいないかなあって、夢みる夢子さんは、雲ひとつなく晴れてはいても、星がまばらにしか見えない夜空をおおぎながら、洗面器を持ってお風呂へ走ります。

唯そんな風に思いながらもわいふがWifeにつながってしまうイメージ（軽薄でシャレ者の使う言葉）には、少しばかり抵抗がなくはないのですけれど、でもいいじゃありませんか。所詮言葉には様々なイメージがあるのですから。





この雑誌の存在を知った時から思っていました。「でも、なんで『わいふ』なんだろう?」って。ちょっと昔の中年男性が、

「うちのワイフが……」なんて言うイメージがどうしてもわいてくる。結婚して、子供を生んで、育てている女の人が主体だと思うけど、でも「わいふ」の名は側面的すぎると思う。母として、妻として、女としてだけでない人間としての生き方をさぐる本としての内容を、あらわしている誌名とは言えないと思う。ただ美点はひらがなで柔かく短いことかしら。

「いっば」「今日の女たち」

いざ考えるとむずかしいですネ

妻でなければ、女でないような、対象を「妻」にしぼっているようなイメージがあるのが気になりますが、古くは Wife は、Woman と同義語であったようですし、なんといいっても長年のつきあいで、愛着があります。そしてまた、その野暮ったさみしいのが、ごく普通の主婦である私達には身近に感じられるとも言えそうです。(それ

結論から先にいいますと、私はこのままでいいと思います。「わいふ」という言葉のひびきは、夫あつての妻といった束縛された狭い世界を感じ、その中で型にはまらなかった妻達の顔がちらつき余り好きではありません。しかし、また反面、何となくうなずけるのも事実です。

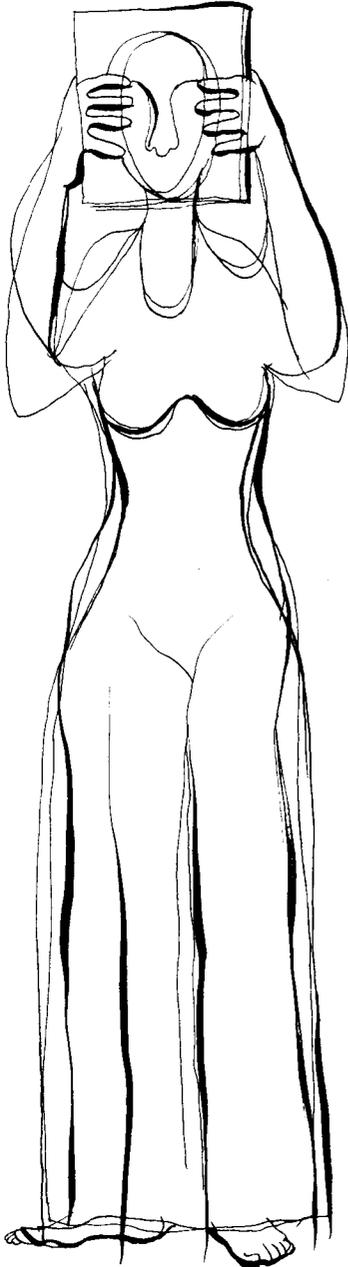
「わいふ」の誌名はたしかに定着してきて

ではいけないのかもしれないが……) 例えば「リップ」なんていうタイトルだと、ちょっとビビッちゃって、手が出にくいみたいなどころがあるのではないでしょうか。私は「わいふ」でよいのではないかと思っていますが、「みずーみずーMs」なんていうのもどうでしょうか。

いますし、何といっても「わいふ」の魅力は会員の手作りの連帯感にあると思います。毎号にみる妻だから、主婦だから、母親だから感じることに、いいたいことのある文字を追う時、その人が悩み、考え、行動することが「わいふ」という言葉を超越して、人間として、女としての胸のいたみと

してひびいてきます。

これは受け止める側の感性の問題かもしれません。これは「女なら誰でもなれる専業主婦」などと世間でいわれている主婦達の手で、ガリ版ずりの投書から始まったといわれる「わいふ」を、二十年近い歳月をかけて今日の「わいふ」に育て上げたことは大したものだと、感銘をうけ、いい雑誌に出逢ったものだと思います。最高とはいえないまでも、売らんかな、買って頂戴、見て頂戴のそれ等の雑誌の一方的な流通にくらべれば、これまで主体性がないことが美德のようにしつけられてきた妻達に、少なくとも



も「考える」ということを考えさせる雑誌です。中味はなかなかハイグレードなもので、外に出て稼いでいる女達だけが有能ではないということ、平凡な主婦の生き方の中にもることが出来ます。世の中にあふれている女の雑誌の中に、一つくらいワイフにピントを合せた雑誌があってもいいんじゃないでしょうか。家族や家庭を大事にして、仕事もしているという女の生き方が普通になってきた時代に、「わいふ」という言葉にこだわることもないでしょう。唯、時々、

「未来のワイフ」、「元ワイフ」といった言葉を投書にみる時、少々ひっかかるのも事実は、もし私が妻でなくなった時、どう感じるかな、果して「わいふ」を手にしてかな、と考え込んだりもします。

もし、変えるのでしたら、女も妻も、自分の主人は男でもなければ夫でもなく、自分自身であるという原点にたつて、つまり女主人の意味で「ミストリス」はいかがでしょう。

。「ミストリス」

。ベター、またはベターライフ

香川県綾歌郡 三好乙沙美

私が「わいふ」という誌名をはじめて知り
ましたのは、読売新聞日曜版からでした。
二、三年くらい前になりますでしょうか。

「わいふ」という名に、おまけに平仮名で
したので、「なんだろうかな」と一瞬ため
らいました。が記事を読んでいくうちに、
だんだん理解出来ました。

「わいふ」は継続されてよろしいのではな
いかと思います。「わいふ、人妻ポルノ？」
の記事をみて、私びっくりしました。やは
り男権の強さかとも思いました。

いってみれば、男はエライ、女はバカ、
男の付属品か、おもちゃの様にしか女をみ
ないのダナアとも思いました。決して「専
業主婦という名」わいふ」ではないと私は
思います。多くの方々の生きる姿を反映さ
せられていることに、ごく平凡な私は、大
変力強い感動を覚えるものです。

私は主人の両親と同居、姑との日々、色
々と「わいふ」を通して教えられることも

(まだ入会したばかりですのに) 数々ござ
います。

またヒヨコの私からの「わいふ」への注
文、紙面の許す限りで、社会面の頁を増や
されてはと希望致します。

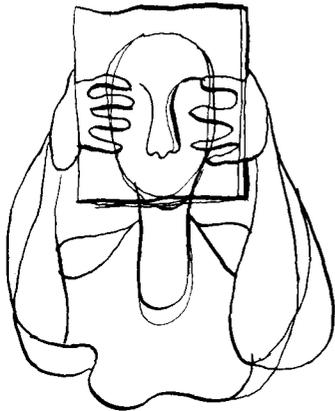
東京都中野区 横山 房子

私はこの春からの新米読者です。やはり
女性を中心に作っている月一回発行の新聞
に、編集長の田中さんがインタビューされ
ていて、前から私も文を書いてみたいと
いう希望を持っていたので、いろいろと少
ない小遣いの中から、雑誌や新聞を買っ
ていたのですが、これを機会に一誌ふやした
次第です。

まず第一印象の「わいふ」の誌名は、私
にとつてとてもいやでした。むしろ「ワイ
フ」のほうがよかったです。これは感覚からで
す。内容を読む内に、読者層がなんとなく、

三十代の私より上の感じがいたしました。
私も女。「女」という言葉は、何となく男
と比べ卑下されている様で可憐。大切に
したい、自分と同性を。よって「女性」と
いう誌名に変更して頂きたいと思えます。

(え・松本をきえ)



投稿規定

定期購読者はどなたでも投稿できます。

(定期購読申込は直接編集部へ)

チャター・ボックス

●職場レポート(四千字まで)

あなたの職業体験や、職場でのトラブルなど、具体的に切実なレポートを求めます。

●随筆(千六百字まで)

●親ばかチャタリン(千二百字まで)
子どもにまつわる苦しみ、楽しみ、悩み、ユニークな体験などをお寄せ下さい。

●エコー(千二百字まで)

わいふ誌上の投稿、記事などに関する反論、感想、批判など。

●私の視点(千二百字まで)

問題提起、意見、なんでも自由に。体験的実感のあるものを歓迎します。

●おしゃべり(八百字まで)

おたより其の他、気楽なおしゃべり

のページ。おたよりをそのままのせさせていただくことがありますので、掲載をご希望でない場合は必ず「私信」と明記してください。

●情報コーナー(二百字まで)

あげます、貸します、こんなこといっしょにしませんかなど、何でもお知らせ欄。扱っていらっしやる商品やおしごととは「私のPR」として一括します。

●サークルだより(八百字まで)

サークルでの集会・その他のニュースなどを寄せて下さい。原稿用紙にまとめてお願いします。

●以上の欄にお寄せ下さった投稿は、原則としてすべて掲載いたします。

●テーマ原稿

テーマ原稿募集欄をお読み下さい。

●持ちこみ原稿 長さ自由

旅行記、詩、小説など、何でも。

●わたしの生活誌

「わいふ」の読者は全国各地にちらばっています。郷土色に溢れた珍しい話や、画一的な核家庭の暮しとはちがうユニークな日常を送っていらっしやる方、どうか興味深いレポートを送って下さい。

●以上三点の原稿は編集部で協議の上、えらばせていただきます。採用分にはいずれも薄謝をさし上げます。

●わたしの一冊

これまでの書評欄でなく、この一冊こそ絶対にみんなに読んでもらいたいという一冊を、ご紹介下さい。編集部一同で回し読みした上、ほんとうにすばらしいと思ったものに限り掲載します。新刊書でなくともかまいません。

テーマ原稿募集

●一八二号のテーマは「家でできる仕事・その損得勘定」（仮題）です。

毎日新聞誌上に田中喜美子の「主婦はフルタイムに尻込みする」という意見、さらにそれについての読者投稿が掲載されたのを、お読みになった方が多いと思います。今号からの誌上論争、まずこの問題を取り上げました。家事・育児を背負って、フルタイムはとてもとてという、主婦の望む働き方の中に、パートやフリーと並んで、「家の中で」というのがあります。それは内職という形ですが、今まで論議されていないのですが、企業側では潜在労働力としての「主婦」を生かし、より採算を高めることをねらって、いろいろな仕事の「家庭」への乗り入れをはかっているようです。意外にさまざまな職種があるのではないかとありますが、それはフルタイムやパートタイムに比べて、収入の面ではどの程度有利なのでしょう、不利なのでしょう。家においてできれば足代もいらず服装も大してかまわずに済み、保育料もいらぬし諸経費の面では案外有利かもしれせん。しか

し企業はそれをおり込み済みで、低賃金を押し付けてきているのではないかと？

職場に同僚がいるわけだし、ましてや組合などありっこない家庭内労働者は、ちりぢりになっていく同じ仕事仲間と情報交換をしてみることが必要だと思います。ほんとにあなたの仕事は収入の面で満足のいくようなもの（またはその可能性のあるもの）なのでしょう。早く見切りをつけたほうがよいのか、より一層努力すべきなのか。

そこで家で仕事をしている方の、「仕事内容と収入」の報告を募ります。

いつごろから（何年間）どんな動機で

仕事の内容・収入

企業とのトラブル

どんな可能性があるか

どんな不満があるか

その他の感想も含めて、お寄せ下さい。

たくさんのご投稿をいただきましたので、

今回は枚数の規定を短くしました。ぜひ気軽に書いていただきたいと思ひます。

枚数 四千字詰原稿用紙 五枚〜十枚

締切 三月三十日

お友達に（わいふ）をおすすめ下さい

新しい読者をご紹介下さった方には、次のように購読期間を延長させていただきます。

●定期購読者をお一人ご紹介下さるごとに、誌代プラス送料とも一回延長。

（六人ご紹介下されば、翌年の誌代・送料とも無料になります）

〈わいふ〉年間分をプレゼントに

お使い下さい

●ご結婚のお祝い、遠方のお友達とのコミュニケーションにどうぞ。

お申込みいただければ、まず新読者にきれいなプレゼント・カードをお送りしてお知らせし、以後毎回送本いたします。

●その場合も定期購読者のご紹介と同様に、お一人につき一冊分延長させていただきます。

編集だより

●一九八三年の第一号、残念なことにまたまた遅れてしまいました。暮正月の休日に加えて編集部が風邪で総倒れ、少しずつ取戻していた遅れが一挙に逆もどりて本当に申し訳なく思っています。

●投稿規定には締切日を偶数月の十五日としてありますが、何分こななわけで入わいふ▽がお手もとに届くのが偶数月の五日すぎになりがちです。投稿の締切オーバーは多少のことでしたらかまいません。ただしエコーのように、その号に対する反応を含むものは必ず偶数月の月末までにお送り下さい。(テーマ原稿についてはべつです)今回もぜひのせたいと思う投稿が一月十日すぎに着きましたのでどうしても入らず、一八一号に掲載となると間が四カ月もあいて気のぬけてしまうことノ 一八〇号に対するエコーは必ず二月末までにどうぞ。

●私たちの真実の声、真実の望みをあつめる開かれた言論の場というのが「わいふ」の特徴ですが、その中からだんだん、みんなが本当に望んでいる「情報」を、一冊の本にして出していきたいと思っています。

その第一弾として四月末に、首都圏の私立高校でどんな内容の教育をしているか、手に取るように分かる入学案内を教育資料出版会から出すことが決まりました。偏差値やきれいごととの建前にふりまわされない、本当に私たちのぞむ情報がギッシリつまっているガイドブックです。これを皮切りに、この種のガイドブックを次々に出して行く予定です。「こんなことが知りたい」と「この点に関してさっぱり分からない」ということを考えていらっしゃるかた、お声をよせて下さいませんか。それをもとにして、さまざまな企画を練って行きたいと思っています。

●一八〇号からの新しい企画は「誌上論争」「子連れあそびのガイド」「主婦が事業を始めるとき」「近代恋愛婚姻史」「わたしの同棲相手」、どれも読者から出た企画です。右の企画についてこの人やこのグループを登場させてほしい、このテーマを取上げてほしい、とお思いの方はぜひご一報下さい。

●二月の面会日は第三火曜日の十五日です。気楽なおしゃべりにお出かけ下さい。では。

□購読申込は……

ハガキか電話でどうぞ。
すぐ本に振替用紙をそえてお送りしますの
で、折返しご送金ください。バックナンバー
のご注文も同様に。二冊以上まとまりま
すと送料が半額以下になります。

わいふ

180号

1983年3月1日発行
印刷・浩文社印刷

定価 450円

(年間購読料送料共3600円)

発行所・編グループわいふ

編集・わいふ編集部

東京都新宿区加賀町2-4 ● 162

TEL (03) 260-4771

郵便振替 東京5-110430

銀行口座三菱銀行神楽坂支店

普通預金 052-4348909

□購読中止は……

かならずお申出ください。送金をお忘れに
なる方が多いので、誌代が切れてもひき続
き送本しています。お申出がないと、お送
りしてしまうので、ぜひハガキか電話を。

受験とは？青春とはなにか——。
現役、OBが自らの体験を赤裸に語る。

東大一直線

伊藤悟編著／高校非常勤講師の編者が発表する東大生製造
ノ－ハウや予備校生の記録、東大生の回想が示す現代受験
体制の恐るべき現実。親、教師必読の本。 1000円

麦の反抗

玉木英幸／脱都会家族を
襲う長男Ⅱ妻の登校拒否。
親と子の愛と真剣な生き
ざまの記録。1000円

なにを食べたらいいか

Ⅰ主食編・副食編 郡司篤孝
Ⅱ調味料編・飲料編 各650円

それでも化粧したい
貴女に 橋本田鶴子／ニキビ、シミ、カ
ブレ、髪。東京化粧品被害を考
える会の女性たちの苦い体験が

素肌はそのまま美しい
絶賛発売中！
1000円

三一書房

東京神田駿河台2

中島通子監修

「国際婦人年をきつかけとして行動を
起こす女たちの会」労働分科会編著

パートタイマー

Q&A ●あなたは損を
していませんか！
定価800円

●あなたの疑問と不満をすべて解決するハウ・ツー集

〔内容〕賃金で損をしない法／スムーズな人間関係のコ
ツ／勝手にクビにさせないために／必ず成功する交渉
の秘訣／休日・休暇・母性保護・社会保険・税金の知
識／パートと労働組合／泣き寝入りをしないために：

母親が仕事をもつとき

●子育て・職場・夫にどう向き合うか
久田 恵著 定価1200円

自立の女性学

●なぜ自信がもてないか——一人立ちへの心理と行動
河野貴代美著 定価1300円

学陽書房 新宿区市谷薬王寺町26／電261-1111

現代書館

東京都千代田区神田神保町2-22-11
電話03(261)0778 振替東京2-83725

家事・育児を分担する男たち

福岡・女性と職業研究会編

男と女が自立し共に生き合える関係をきずくためには、共に自分の仕事を持ち、家事・育児を分担し生活する必要がある。現在、それを実行している教組の夫婦にその日常を語ってもらい、また外国の報告とも合せて、今後の男女の関係を問う。新刊 1400円

わが家の思春記

高三の息子と中三の娘と
門野晴子

1500円
「高三の息子と中三の娘と」の平凡なわが子も校内暴力・いじめ・リンチ・セックスと「生徒は荒れきている」とされる学校の中で様々な事件に巻き込まれていく。本堂に荒廃しているのは学校と教師ではないか。本書は、強烈な教育批判をユーモアあふれる文章で綴った母親記。

いきいきと生き抜くために

自立をめざす女子教育
柳淑子

1500円
福岡県の三井高校では、十年前から全校で、性差別をなくし、男女平等の社会をつくるために自立をめざす女子教育にとりくんできた。

女たちのリズム

月経・からだからのメッセージ
同編集グループ編

好評重版出来 1400円
本書は全国の13歳から80歳まで、四〇〇人以上の女たちの声をもとに、月経を通して自身をみつめ直すために作られたものです。

《季刊》
第7号

保育の世界

A 5版
880円
発売中

特集●児童文学の現在

《座談会》

詩・子ども・児童文学……………矢川 澄子
三浦 雅士
羽仁 協子

方法としてのわらべうた……………谷川俊太郎

変貌する子どもの神話的世界……………中野 収

やさしさの文学・考……………奥田 継夫

宮沢賢治の宇宙……………本田 和子

障害児がつくった絵本……………福井 達雨

冒険とはなにか……………佐野美津男

※各号のバックナンバーの在庫あります

筒井書房(発売・翠楊社)

東京都練馬区富士見台2-29-13
電話03(999)5002振替東京2-88753

《連載》

児童文学論ノート(1)

……………斎藤次郎

現代っ子に未来はあるか(1)

……………鈴木清隆

児童心理学

……………メーレイ・フェレンツ

■実践記録■

文庫活動の実践

学芸会で演じたギリシャ悲劇

親がつくった子どもに聞かせる
お話